

農 学 部

Faculty of Agriculture

## 農学部 of 教育理念

本学部は、食料、環境、資源及び生命に関する基礎知識の理解をもとに、広い視野で物事を考える総合的判断力や問題解決能力を涵養しつつ、社会の要請に応えるための農学に関する高度な専門性と技術を修得させ、それらに関する問題解決を通じて地域と国際社会に貢献できる人材を育成することを理念とする。

## 農学部 of 教育目標

- ・ 幅広い教養と食料、環境、資源及び生命に関する基礎知識に加え、農学分野における高度な知識及び技術を用いて社会のさまざまな課題を探究し解決できる能力を養成する。
- ・ フィールドにおける実践教育を推進し、農学分野において、地域と国際社会に貢献できる人材を育成する。
- ・ 専門技術者としての倫理観、情報収集能力、文章表現能力、プレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力を高める教育を行う。

# 1. 農学部沿革及び組織の概要

## ・沿革

本学部は、大正13年9月に設立された宮崎高等農林学校（昭和19年宮崎農林専門学校と改称）を母体とし、昭和24年5月国立学校設置法の公布により宮崎大学に包括され、宮崎大学農学部として発足した。

- 昭和24年6月1日 宮崎大学学則を制定、本学部に農学科第1部、同第2部・林学科・畜産学科・獣医学科・農業化学科が置かれた。
- 昭和26年4月1日 水産学科設置
- 昭和28年4月1日 総合農学科設置（農学科第2部廃止）
- 昭和31年4月1日 農学専攻科（農学専攻・林学専攻・畜産学専攻・獣医学専攻・農業化学専攻・水産学専攻）設置
- 昭和34年4月1日 農学部別科（畜産専修）設置
- 昭和38年4月1日 総合農学科を改組し農業工学科を設置
- 昭和42年6月1日 大学院農学研究科（修士課程）設置（農学専攻・林学専攻・畜産学専攻・獣医学専攻・農業化学専攻・農業工学専攻）
- 昭和42年6月1日 大学院農学研究科設置に伴い農学専攻科は水産学専攻を除き廃止
- 昭和44年4月1日 水産学科を改組し水産増殖学科を設置
- 昭和46年4月1日 草地学科設置
- 昭和48年4月1日 農学専攻科（水産学専攻）廃止
- 昭和48年4月1日 大学院農学研究科水産増殖学専攻設置
- 昭和50年4月1日 大学院農学研究科草地学専攻設置
- 昭和63年4月1日 鹿児島大学大学院連合農学研究科（後期3年博士課程）が設置され、農学部が構成大学となる。
- 平成元年4月1日 獣医学科を除く農学科、林学科、畜産学科、農業化学科、水産増殖学科、農業工学科、草地学科の7学科を改組し、農林生産学科、生物資源利用学科、動物生産学科の3学科に再編
- 平成2年4月1日 山口大学大学院連合獣医学研究科（4年博士課程）が設置され、農学部が構成大学となる。
- 平成5年4月1日 農学専攻、林学専攻、畜産学専攻、農業化学専攻、水産学専攻、農業工学専攻、草地学専攻の7専攻を改組し、農林生産学専攻、生物資源利用学専攻、動物生産学専攻の3専攻に再編
- 平成12年4月1日 獣医学科を除く農林生産学科、生物資源利用学科、動物生産学科の3学科を改組し、食料生産科学科、生物環境科学科、地域農業システム学科、応用生物科学科の4学科に再編
- 平成13年4月1日 附属農場、附属演習林、附属水産実験所の3附属施設を改組し、附属自然共生フィールド科学教育研究センターを設置
- 平成15年10月1日 宮崎大学と宮崎医科大学が統合し、宮崎大学設置
- 平成16年4月1日 国立大学法人宮崎大学設置
- 平成17年4月1日 宮崎大学大学院農学研究科修士課程の農林生産学専攻、生物資源利用学専攻、

- 動物生産学専攻の3専攻を改組し、生物生産科学専攻、地域資源管理科学専攻、森林草地環境科学専攻、水産科学専攻、応用生物科学専攻の5専攻に再編
- 平成19年4月1日 附属家畜病院を附属動物病院に名称変更  
農学工学総合研究科（博士後期課程）設置  
鹿児島大学大学院連合農学研究科を離脱
- 平成22年4月1日 食料生産科学科、生物環境科学科、地域農業システム学科、応用生物科学科、獣医学科の5学科を改組し、植物生産環境科学科、森林緑地環境科学科、応用生物科学科、海洋生物環境学科、畜産草地科学科、獣医学科の6学科に再編  
大学院医学獣医学総合研究科を設置  
山口大学大学院連合獣医学研究科を離脱
- 平成22年10月1日 附属自然共生フィールド科学教育研究センターの組織を整備し、附属フィールド科学教育研究センターと改称した。
- 平成26年4月1日 宮崎大学大学院農学研究科修士課程の生物生産科学専攻、地域資源管理科学専攻、森林草地環境科学専攻、水産科学専攻、応用生物科学専攻の5専攻を改組し、植物生産環境科学コース、森林緑地環境科学コース、応用生物科学コース、海洋生物環境科学コース、畜産草地科学コース、農学国際コースの6コースに再編
- 平成28年4月1日 グローバル人材育成学部教育プログラムを設置

## 附属施設などの沿革と概要

### (1) 宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター

#### 1) 沿革

前身の農学部附属自然共生フィールド科学教育研究センター（以下、「フィールドセンター」と略す。）は、平成13年4月にそれまでの農学部附属3施設、すなわち附属農場（牧場を含む）、附属演習林および附属水産実験所を機能的に統合して設置された。設置の理念として、自然との共生および環境との調和を掲げ、これを実践するための総合的な農学教育研究に活用可能な内外に開かれた附属施設を目指してきた。また、平成22年10月には、教育・研究機能の充実・強化を図るため、教育・研究支援部門（4部門）と4附帯施設に組織を整備し、「宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター」に改称した。

#### 2) 教育・研究支援部門

##### 農業部門

学科等推薦の併任教員とフィールドセンター専任の教職員（木花フィールド配属）で構成され、木花フィールド（農場）における教育・研究支援活動を担当する。

##### 牧畜部門

学科等推薦の併任教員とフィールドセンター専任の教職員（住吉フィールド配属）で構成され、住吉フィールド（牧場）における教育・研究支援活動を担当する。

##### 森林部門

学科等推薦の併任教員とフィールドセンター専任の教職員（田野フィールド配属）で構成され、田野フィールド（演習林）における教育・研究支援活動を担当する。

##### 海洋部門

学科等推薦の併任教員とフィールドセンター専任の教職員（延岡フィールド配属）で構成され、延岡フィールド（水産実験所）における教育・研究支援活動を担当する。

#### 3) 附帯施設

##### 木花フィールド（農場）

学内にあり、水田、露地野菜圃場、温室、ビニルハウス、果樹園などを備える。

##### 住吉フィールド（牧場）

家畜生産のみならず飼料生産から畜産物利用までの総合的な畜産関連設備・施設を備える。宮崎市東北部、JR九州日豊本線日向住吉駅の東方約1kmに位置する。

##### 田野フィールド（演習林）

田野フィールド（演習林）は田野地区、大納地区、崎田地区の3地区からなり計約620 haの森林を所有する。田野地区は宮崎平野の西端に位置し、面積は約500 haの里山である。大納地区は日南海岸に面し面積は約60 ha、崎田地区は志布志湾に面し面積は約60 haあり全国的に貴重な天然性海

岸風衝群落が残存する。

#### 延岡フィールド（水産実験所）

日向灘に面した延岡市に位置し、実習船の他、実験室、海水飼育設備、宿泊施設を所有する。九州東岸の太平洋側にある大学水産実験所としては唯一のものである。

### (2) 農学部附属動物病院

本施設の省令化は昭和28年8月1日であるが、歴史は古く、施設の建設は、宮崎高等農林専門学校時代の昭和15年である。その後、昭和60年1月の宮崎大学の統合移転で現在のキャンパスに新築され、平成19年4月に「家畜病院」から「動物病院」に名称変更された。

動物病院棟は、鉄筋2階建て（1階988.72㎡、2階795.60㎡）構造である。小動物診療部門（診察室、診療室、臨床検査室、薬剤検査室、小動物手術室、小動物X線室、入院室、処置室、理学療法室、回復室）、大動物診療部門（大動物診療兼手術室、大動物X線室）、学生実習部門（学生実験室）があり、併せて別棟として、実習・実験用大動物舎（262㎡）および実習・実験用中小動物舎（53㎡）がある。さらに本院は、地域の中核動物病院であり、X線CT装置、大動物用X線装置、超音波断層撮影装置、自動血球カウンター、小型貨物自動車等を備え、地域社会における産業動物（牛、馬、豚、鶏）および伴侶動物（犬、猫等）などの診療を通じ、獣医学科学生の獣医臨床教育の場として、また獣医学科教員の教育研究の場として活躍している。

### (3) 農学部附属農業博物館

現在の附属農業博物館は平成10年4月に省令施設となり、平成11年5月に館内のリニューアルを行い、現在にいたっている。

博物館は、本館と別館の2つの建物から構成されており、本館では、農学部の調査研究の成果をはじめ、宮崎の農林水産および畜産にかかわる標本・資料の展示を行っている。現在、本館には、「宮崎の農業コーナー」をはじめ、6つの展示コーナーがあり、本学教職員、学生をはじめ、一般にも開放している（入館料は無料）。

本館の歴史は長く、農学部の前身である宮崎高等農林学校の創立10周年記念事業として同窓会から寄贈を受け、昭和10年7月に創立された農業博物館に始まる。現在の建物（鉄筋2階建：420㎡）は、大学の統合移転に伴い、昭和61年に移転新築されたものである。

分館は、平成元年10月宮崎大学農学部同窓会によって建設（鉄筋2階建：340㎡）、寄贈されたものである。分館には研修室（2室）、会議室、実験実習室があり、学部教育をはじめ、一般を対象とした講演会・セミナー等に広く活用されている。

なお、開館時間は、月曜～金曜の午前9時から午後4時まで、休館日は土曜日、日曜日、祝日である。

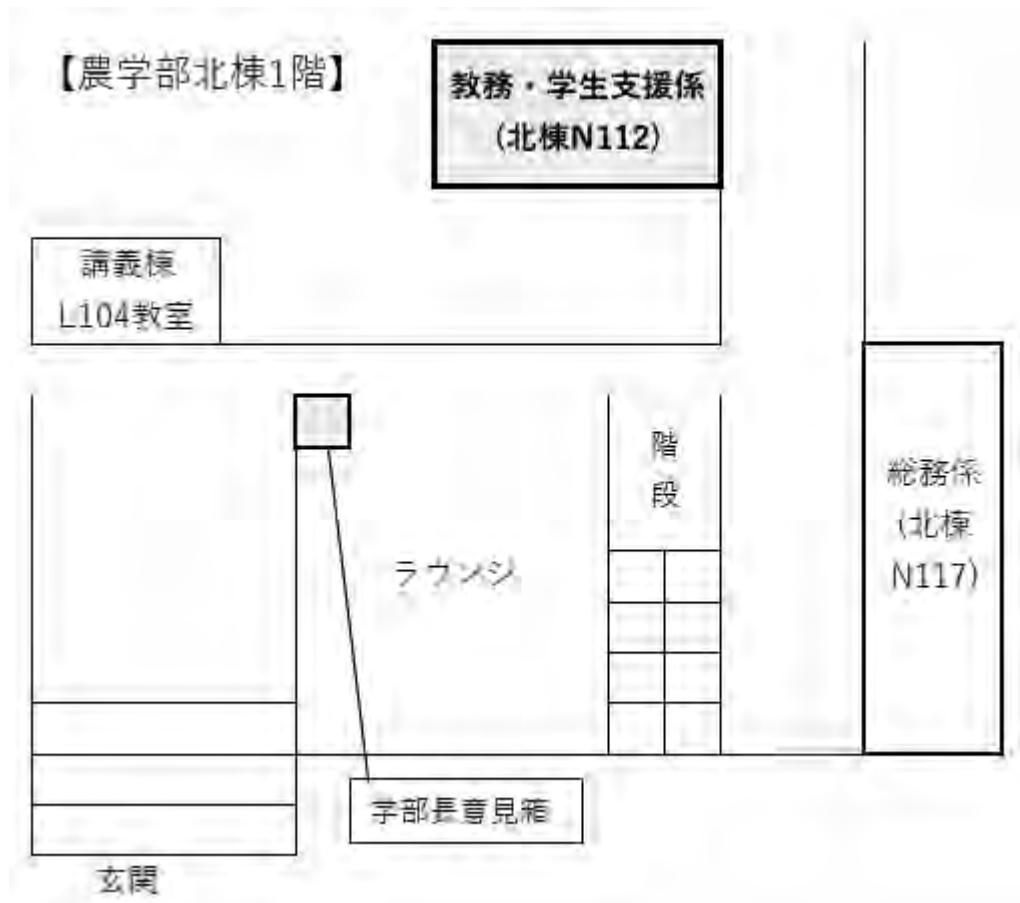
## 2. 各種取扱事項に係る事務の窓口について

### (1) 宮崎大学全体の事務の窓口

		窓 口	取扱事項
創 立 3 3 0 記 念 交 流 会 館	学 び ・ 学 生 支 援 機 構	教育企画課教育企画係	学生証に関する事 受講科目登録手続き(web 上で) 証明書に関する事 (※証明書自動発行機で入手出来る証明書は下記)
		学生なんでも相談室	学生生活上のあらゆる相談
		学生支援係	学生支援に関する事 課外活動・諸行事に関する事 物品貸出・体育施設に関する事 学生寄宿舎に関する事 自動車駐車許可証の発行 学内での掲示に関する事
		経済支援係	奨学金・入学料免除・授業料免除・授業料分納に関する事 経済相談・アルバイトに関する事 通学証明書の発行 傷害保険に関する事
		共創人材育成課キャリア支援係 【就職情報資料室】	求人紹介・就職相談・就職情報の提供
	証明書自動発行機	在学証明書、成績証明書、単位修得証明書、卒業(見込)証明、学割証、健康診断証明書、通学証明書、在寮証明書、保険加入証明書(学研災等)、地域活性化・学生マイスター(初級及び上級)候補生認定証および見込証明書、みやざき産業人材認定証および取得見込証明書	
	学び・学生支援機構 教育企画課 教養教育係(教育・地域資源創成学部棟1階)	教養教育科目の履修・追試験・再試験に関する事	
事 務 局	財務部財務課出納係 (2階)	授業料の納付(ただし、銀行引き落としが原則)	
大 学 会 館	学び・学生支援機構 共創人材育成課 (3階)	インターンシップに関する事 ビジネスプランコンテストに関する事 カジュアルトークに関する事 地域教育プログラム(みやざき産業人材認定証・学生マイスター)に関する事 高等教育コンソーシアム(公募卒論・インゼミなど)に関する事 まちなかキャンパスに関する事	
	国際連携機構 国際連携課 (2階)	外国人留学生に関する事 海外留学に関する情報提供	
	意見箱 (1階)	宮崎大学に対する要望や意見	
	ハラスメント等相談員(学内にも掲示)	ハラスメントに関する事	
	安全衛生保健センター (事務局に隣接)	定期健康診断・臨時健康診断 健康相談・救急措置 精神衛生に関する相談(カウンセリングなど)	

**(2) 農学部事務の窓口**

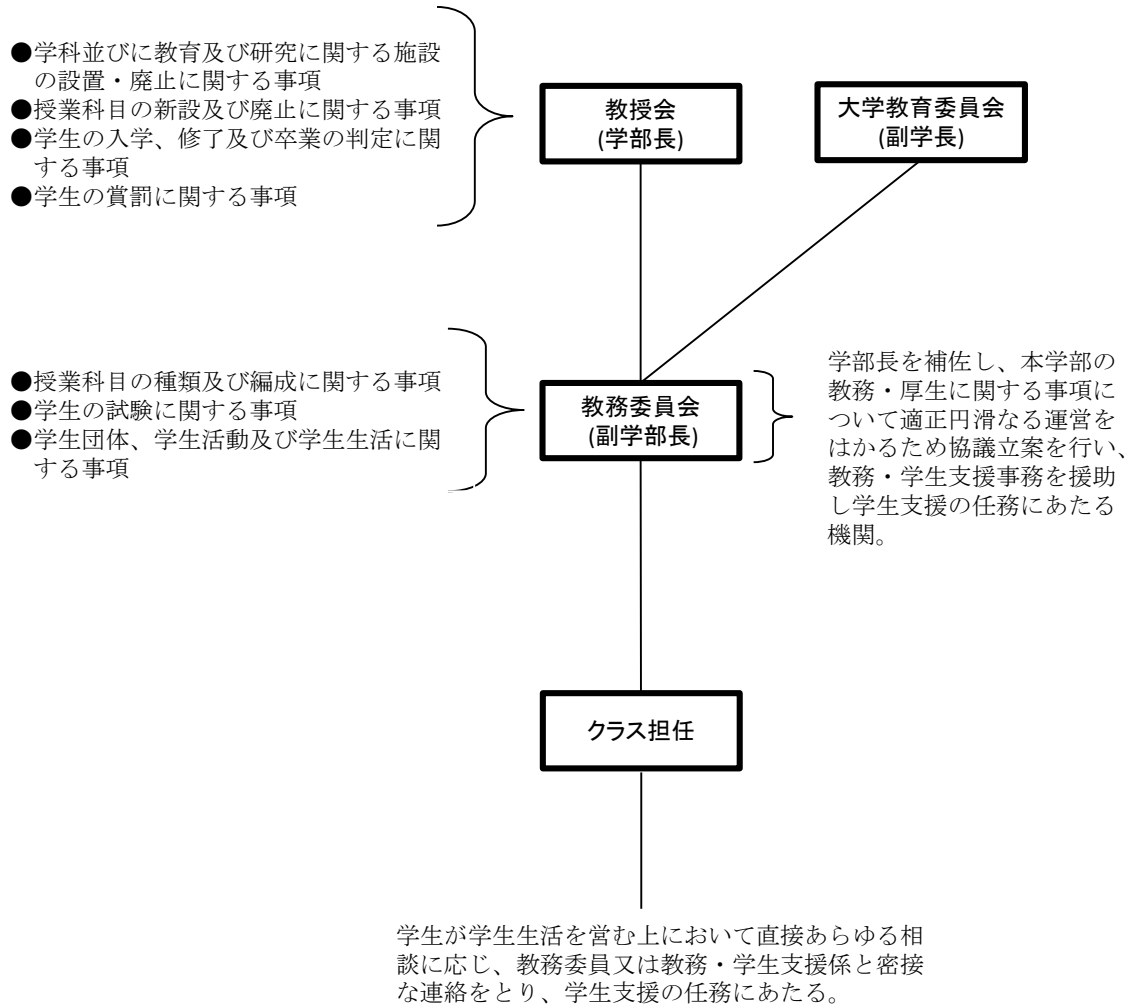
窓 口	取扱事項
<p>農学部教務・学生支援係 (農学部北棟 1 階 N112)</p>	<p>専門科目の履修・試験に関すること                      特別欠席に関すること                      教職免許などの資格に必要な科目に関すること                      教育実習に関すること                      時間割・教室配当・教室管理に関すること                      就職活動に関すること                      学内での掲示に関すること                      インターンシップに関すること                      休学・復学・退学・除籍・再入学・転学・転学部・転課程等に関すること                      海外留学に関すること                      大学院生・研究生・科目等履修生に関すること                      成績についての申し立てに関すること</p>
<p>学部長意見箱 (講義棟 1 階ラウンジ前)</p>	<p>農学部に対する要望や意見</p>





### 3. 学生支援組織について

#### 農学部の学生支援組織について



## 4. 農学部における諸規程

### (1) 宮崎大学農学部規程

〔平成16年4月1日  
制 定〕

改正 平成22年3月8日 平成25年5月21日  
令和2年12月15日 令和4年2月15日  
令和6年1月16日

#### (趣旨)

第1条 宮崎大学農学部（以下「本学部」という。）の教育に関しては、宮崎大学学務規則及びその他の諸規程に定めるもののほか本規程によるものとする。

#### (目的)

第2条 本学部は、食料、環境、資源及び生命に関する基礎知識の理解をもとに、広い視野で物事を考える総合的判断力や問題解決能力を身につけ、社会の要請に応えるための農学に関する高度な専門性と技術を修得し、それらに関する問題解決を通じて地域と国際社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

#### (学科)

第3条 本学部は、次の学科を置く。  
植物生産環境科学科  
森林緑地環境科学科  
応用生物科学科  
海洋生物環境科学科  
畜産草地科学科  
獣医科学科

#### (教養教育科目)

第4条 教養教育科目で開設する授業科目の種類、単位数、履修方法及び教養教育科目の受講、成績評価等に関しては、別に定めるところによるものとする。

#### (専門科目)

第5条 本学部の専門科目の授業科目の種類、単位数、履修方法及び専門科目の受講、成績評価に関しては、別に定めるところによるものとする。

#### (単位の計算方法)

第6条 宮崎大学学務規則第23条第1項に基づく本学部の単位の計算方法については、おおむね1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、適切な授業形態を1種類ないし複数組み合わせ、単位数に応じた適切な内容になるように、授業科目毎に設定するものとする。

#### (卒業所要単位)

第7条 卒業に要する単位数は、教養教育科目36単位以上、専門科目92単位以上とする。ただし、獣医科学科にあっては専門科目158単位以上を修得しなければならない。

#### (卒業の認定)

第8条 卒業の認定は、宮崎大学学務規則第5条に定める修業年限（同規則第13条第1項の規定により入学した者にあっては、同条第2項の規定により定められた在学すべき年数）以上在学し、所定の単位数を修得し、かつ、在籍する学科における卒業の審査に合格した者について、農学部教授会の議を経て、学長が行う。

#### (雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は、教授会が別に定める。

#### 附 則

- 1 この規程は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 平成15年度以前入学生については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規程は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 平成 21 年度以前に入学した者の卒業所要単位は、改正後の規定にかかわらず、なお従前例による。

附 則

- 1 この規程は、平成 25 年 5 月 21 日から施行し、平成 25 年 4 月 1 日から適用する。
- 2 平成 24 年度以前に入学した者の卒業所要単位は、改正後の規定にかかわらず、なお従前例による。

附 則

- 1 この規程は、令和 2 年 12 月 15 日から施行する。
- 2 改正後の第 4 条は、平成 26 年度以降に入学した者に適用し、平成 25 年度以前に入学した者については、なお従前例による。
- 3 改正後の第 7 条は、平成 25 年度以降に入学した者に適用し、平成 24 年度以前に入学した者については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規程は、令和 4 年 2 月 15 日から施行する。
- 2 改正後の第 7 条ただし書の規定については、令和 4 年度以降に入学する者に適用し、令和 3 年度以前に入学した者については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規程は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

(2) 宮崎大学農学部専門科目の受講及び成績評価に関する細則

〔 令和2年12月15日  
制 定 〕

改正 令和3年5月18日 令和6年1月30日

(趣旨)

第1条 この細則は、宮崎大学農学部規程第5条に基づき、宮崎大学農学部における学部共通科目・専門基盤科目・専門科目（以下「専門科目」という。）の受講及び成績評価に関し、必要な事項を定める。

(単位修得及び履修の認定)

第2条 授業科目の単位修得及び履修の認定は、試験、レポート等に基づき授業担当教員が行うものとする。

(受講科目登録)

第3条 農学部所定の専門科目を受講するときには、受講科目を所定の手続きにより別に定める期日までに登録しなければならない。

- 2 科目登録は、原則として半期25単位を上限とする。ただし、卒業論文、卒業研修、集中講義科目、教職及び学芸員等の資格・免許取得に関連する科目は含まない。
- 3 前項の規定にかかわらず、直近の学期のGPAが3.0を超える成績優秀者については、半期30単位を上限とすることができる。
- 4 教育上の配慮が必要な者については、教務委員会の議を経て、第2項の上限の適用を除外することができる。

(他学部の受講)

第4条 他学部の専門科目を受講するときは、所定の受講願を講義開始時まで教務・学生支援係に提出し、当該学部長の許可を得なければならない。

(成績評価を受ける資格)

第5条 各授業科目について所定時間数の75%以上出席していなければ成績評価を受ける資格を得ることができない。

- 2 各授業科目の受講に当たり、遅刻又は早退のあるときは、3回の遅刻又は早退をもって1回の欠席としてみなす。

(特別欠席の取扱)

第6条 次の理由により欠席した者は、所定の特別欠席願を教務・学生支援係に提出し、欠席する授業の担当教員に特別欠席を願い出ることができる。授業担当教員は、原則として、欠席の補填措置を行い、特別欠席を欠席数に加算しないものとする。

(1) 忌引

父母及び配偶者にあつては7日、子にあつては5日、祖父母及び兄弟姉妹にあつては3日とする。

(2) 天災

学部長が必要と認める日・時間

(3) 学校保健安全法に定める感染症に該当するとき。

医師の証明に基づく治療に必要な期間。ただし、4週間以上の長期にわたる場合を除く。

(4) 大学で主催する文化及び体育等の課外活動で、主催大学の副学長等から正式の派遣依頼があり副学長（教育・学生担当）が認めたとき、又は大学以外の団体等が主催するもので学長が認めたとき。ただし、期間及び回数について制限する場合がある。

(5) その他やむを得ない事情があると教務委員会が認めたとき。ただし、事前に特別欠席願の提出が可能なものについては、事前提出がなされなかった場合は特別欠席を認めない。

(定期試験)

第7条 定期試験は、2学期制においては前学期と後学期、クォーター制においては第1期から第4期の終わりの時期に、その学期に開講した授業科目について公示のうえ実施する。なお可否は、試験終了後2週間以内にWeb上で発表する。

(追試験)

第8条 成績評価を受ける資格を有し、第5条に掲げる理由により定期試験を受験できなかった者は、授業担当教員が認めた場合に、追試験を1回限り受けることができる。

- 2 追試験は、定期試験期間終了後3週間以内(卒業期にある学生の後学期定期試験に限っては1週間以内)に、授業担当教員が適宜実施するものとし、受験を希望する者は、追試験届を定期試験期間終了後10日以内(卒業期にある学生の後学期定期試験に限っては3日以内)に教務・学生支援係に提出しなければならない。

(再試験)

第9条 定期試験及び追試験で不合格の者は、授業担当教員に願い出て授業担当教員が認めた場合に、再試験を受けることができる。

- 2 再試験は、前学期は9月下旬までに、後学期は3月上旬までに公示のうえ実施する。
- 3 再試験の可否発表は、試験終了後1週間以内にWeb上で発表する。
- 4 再試験の評価は、60点を上限とし、59点以下を不合格とする。

(単位の認定及び成績評価基準)

第10条 単位の認定は、授業担当教員の評点をもって行う。

- 2 標準成績評価基準は、次の標語と評点により、秀、優、良、可を合格とし、不可を不合格とする。  
秀：評点90点以上(到達目標を特に優秀な水準で達成している。)  
優：評点80～89点(到達目標を優秀な水準で達成している。)  
良：評点70～79点(到達目標を良好に達成している。)  
可：評点60～69点(到達目標の必要最低限は達成している。)  
不可：評点60点未満(到達目標の必要最低限を達成していない。)

(成績評価に対する申立て)

第11条 成績評価を受けた者で、成績評価に異議がある場合には、原則として学期末までに教務・学生支援係を通じて副学部長(教務担当)に申立てをすることができる。詳細については別に定める。

(不正行為)

第12条 成績評価に係る試験等で不正行為をした者は、宮崎大学学務規則により懲戒され、併せて別表に定める科目の成績はすべて無効とする。

(雑則)

第13条 この細則に定めるもののほか、専門科目の受講及び成績評価に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この細則は、令和2年12月15日から施行する。

附 則

この細則は、令和3年5月18日から施行する。

附 則

この細則は、令和6年4月1日から施行する。

別表（第11条関係）

不正行為を行った授業科目の開講時期		無効の対象となる授業科目の開講時期						左記を超える期間 (注1)
		クォーター				セメスター		
		第1期	第2期	第3期	第4期	前学期	後学期	
クォーター	第1期	✓	-	-	-	✓	-	-
	第2期	-	✓	-	-	✓	-	-
	第3期	-	-	✓	-	-	✓	-
	第4期	-	-	-	✓	-	✓	-
セメスター	前学期	✓	✓	-	-	✓	-	-
	後学期	-	-	✓	✓	-	✓	-
上記を超える期間（注2）		不正行為を行った授業科目の開講時期に含まれる期				不正行為を行った授業科目の開講時期に一部又は全部が含まれる学期		不正行為を行った授業科目

（注1）無効の対象とする授業科目について、単一のクォーターあるいはセメスターを超えて開講される科目の開講時期は、可能性を含めて、多岐にわたり（例えば、第2期＋第3期、第4期＋第1期、前学期＋後学期、後学期＋前学期、後学期＋前学期＋後学期、前学期＋後学期＋前学期＋後学期）、統一的な扱いが困難なため、また、学生に対する影響の大きさに配慮して、不正行為を行った授業科目を除いて無効の対象としない。

（注2）単一のクォーターあるいはセメスターに開講されるが、隔年開講のために、カリキュラム表では複数のクォーターあるいはセメスターにまたがって記載される授業科目は、クォーターあるいはセメスターとみなす。

(3) 宮崎大学農学部専門科目の受講に係る要件等に関する要項

令和2年12月15日  
制 定

改正 令和3年3月20日 令和4年2月15日

(趣旨)

第1条 この要項は、宮崎大学農学部における学部共通科目・専門基盤科目・専門科目（以下「専門科目」という。）の受講に係る要件等に関し、必要な事項を定める。

(卒業論文の単位の修得時期及び卒業論文に取り掛かるための要件)

第2条 各学科における卒業論文の単位の修得時期及び卒業論文に取り掛かるための要件は、原則として次に定めるとおりとする。

学科等	卒業論文の単位の修得時期	卒業論文に取り掛かるための要件
植物生産環境科学科	3～4年次	専門科目のうち、2年次終了までに卒業に必要な総単位数の50%以上を修得すること。
森林緑地環境科学科	4年次	専門科目のうち、卒業に必要な総単位数の80%以上を修得すること。
応用生物科学科	4年次	卒業に必要な総単位数の80%以上を修得すること及び2年次までに配当されている必修実験・実習を全部修得すること。
海洋生物環境学科	4年次	専門科目のうち、卒業に必要な総単位数の60%以上（56単位以上）を修得すること。
畜産草地科学科	3～4年次	2年次終了までに修得すべき専門必修科目の80%以上を修得すること。ただし、編入学や休学等により、80%以上の修得が困難な場合は、学科会議において判断する。 (卒業研修の要件も同様とする。)
獣医学科	5～6年次	専門科目のうち、4年次終了までの必修講義科目総単位数の80%以上を修得すること及び4年次終了までの必修実験・実習・演習単位を全部修得すること。
グローバル人材育成学部教育プログラム	3年次後学期～4年次	各学科が定める上記の要件を適用せず、専門科目のうち、3年次前学期終了までに卒業に必要な総単位数の50%以上を修得すること。

(獣医学科における参加型臨床実習の各科目の受講)

第3条 獣医学科において参加型臨床実習の各科目を受講するためには、獣医学教育支援機構が定める獣医学共用試験に合格していなければならない。なお、獣医学共用試験を受験するための要件は、前条に規定する要件を満たしていることとする。

(雑則)

第4条 この要項に定めるもののほか、専門科目の受講要件等に関し必要な事項は、教授会で別に定める。

附 則

この要項は、令和2年12月15日から施行する。

附 則

この要項は、令和3年3月20日から施行する。

附 則

この要項は、令和4年2月15日から施行する。

(4) 宮崎大学農学部学生の卒業時期に関する取扱い

令和2年12月15日  
農学部教授会決定

最終学年後学期の成績提出時期に卒業に必要な単位が不足した者に関する、卒業時期の取扱いについては、以下のとおり定める。

- 1 教授会が認めた場合に限り、卒業に必要な単位の修得をもって卒業とする。ただし、卒業時期は最長翌年度の9月30日までとする。

附 則

この取扱いは、令和2年12月15日から実施する。



(5) 宮崎大学農学部における専門科目の科目登録の削除の取扱いに関する申合せ

〔 平成28年1月19日 〕  
農学部教務委員会決定  
改正 平成30年9月25日

- 1 この申合せは、宮崎大学農学部における専門科目の科目登録の削除の取扱いについて定める。
- 2 科目登録の削除は、学生の責めに帰すことができない事由により、登録科目の開講日程の一部又は全部に出席できない場合に限り認めることとする。ただし、必要に応じて、教務委員会の議を経て削除の可否を決定することがある。
- 3 科目登録の削除を希望する者は、所定の科目登録削除願を削除事由判明後2週間以内に教務・学生支援係に提出し、科目登録の削除を願い出ることができる。

附 則

この申合せは、平成28年1月19日から施行し、平成28年度開講科目から適用する。

附 則

この申合せは、平成30年9月25日から施行し、平成30年度後学期開講科目から適用する。

(6)農学部・農学研究科専門科目の成績評価に対する異議申立てに関する申合せ

〔平成27年1月20日〕  
制 定  
改正 令和2年12月15日

- 1 この申合せは、宮崎大学農学部専門科目の受講及び成績評価に関する細則第10条及び宮崎大学大学院農学研究科規程第21条の規定に基づき、成績評価に対する異議申立てに関し、必要な事項を定めるものとする。
- 2 異議申し立てをする学生は、別紙様式を教務・学生支援係を通じて副学部長（教務担当）に提出する。
- 3 副学部長（教務担当）は、申立てをした学生の所属学科長（コース長）に対処を依頼し、学科長（コース長）は適宜、学生及び担当教員から事情を聴取し対処する。学科長（コース長）はその結果を副学部長（教務担当）に報告する。
- 4 学科長（コース長）から報告を受けた副学部長（教務担当）は、申立てをした学生に対して対処結果を通知する。
- 5 この申合せに定めるもののほか、成績評価に対する異議申し立てに必要な事項は、教務委員会で定める。

附 則

この申合せは、平成27年1月20日から実施する。

附 則

この申合せは、令和2年12月15日から実施する。

(7) 宮崎大学農学部既修得単位認定に関する要項

〔 令和 2 年 12 月 15 日  
制 定 〕

改正 令和 3 年 5 月 18 日 令和 4 年 9 月 16 日  
令和 6 年 1 月 16 日 令和 6 年 3 月 7 日

(趣旨)

第 1 条 この要項は、宮崎大学既修得単位認定規程（以下「単位認定規程」という。）の規定に基づき、宮崎大学農学部における既修得単位の認定（以下「単位認定」という。）について必要な事項を定める。

(単位認定に係る原案の作成)

- 第 2 条 学部長は、単位認定を受けようとする者（以下「申請者」という。）から単位認定の申請を受理したとき、申請者の所属学科（以下「学科」という。）に単位認定に係る原案（以下「単位認定案」という。別紙様式）の作成を委嘱する。
- 2 学科は、申請者に対し、単位認定規程第 2 条に定める申請書類に加え、本学入学前に履修した授業科目のシラバス等の提出を求めることができる。
  - 3 学科は、申請者が入学前に修得した授業科目と本学が開設している授業科目と照合し、同等と判断できるものを単位認定案に含める。なお、単位認定案の作成にあたり、学科は申請者の履修計画、資格取得希望の有無等に留意する。
  - 4 学科は、作成した単位認定案を教務委員会に付議する。
  - 5 教務委員会で、学科より付議された単位認定案の妥当性を審議する。

(単位認定の審査)

- 第 3 条 前条第 5 項により承認された単位認定案のうち教養教育科目に相当する授業科目については、単位認定規程第 3 条第 1 項及び第 4 条第 1 項に基づき、学び・学生支援機構教養教育教務委員会に単位認定の審査を付託する。
- 2 単位認定案のうち専門科目に相当する科目については、教務委員会で単位認定の審査を行い、審査結果を学部長に報告する。

(単位認定)

第 4 条 学部長は、学び・学生支援機構教養教育教務委員会及び教務委員会の審査結果に基づき、教授会の議を経て、授業科目及び単位の認定を行う。

(単位認定授業科目の成績表示)

第 5 条 単位認定された授業科目の成績表示は、「認定」とする。

(雑則)

第 6 条 この要項に定めるもののほか、単位認定に必要な事項は、教授会で定める。

附 則

この要項は、令和 2 年 12 月 15 日から施行する。

附 則

この要項は、令和 3 年 5 月 18 日から施行する。

附 則

この要項は、令和 4 年 10 月 1 日から施行する。ただし、改正後の別紙様式は、令和 4 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この要項は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

(8) 宮崎大学農学部における転学部に関する細則

令和2年12月15日  
制 定

(趣旨)

第1条 宮崎大学農学部（以下「本学部」という。）における転学部に関する取扱いについては、宮崎大学学務規則第33条及び宮崎大学転学部規程に定めるもののほか、この細則に定めるところによる。

(受入人数)

第2条 本学部は、転学部について、教育に支障がない範囲で受け入れるものとし、受入人数は10月末までに各学科で定める。

(公示)

第3条 本学部は、前条の規定により転学部の受入れを認めた場合、11月に志願要件等を公示するものとする。

(本学部学生の転学部志願)

第4条 転学部を志願する者は、指導教員又は担任教員等の指導を経て、転学部願を11月末までに学部長に提出しなければならない。

2 学部長は、前項により転学部の志願があったときは、転学部願及び当該学生が所属する学科の学科長が作成した別紙様式を教務委員会及び教授会に付議し、当該学生の転学部の志願の可否を決定する。

(雑則)

第5条 この細則に定めるもののほか、転学部に関し必要な事項は、教授会が別に定める。

附 則

この細則は、令和2年12月15日から施行する。

(9) 宮崎大学農学部転学科規程

〔 令和2年12月15日  
制 定 〕  
改正 令和6年1月16日

(趣旨)

第1条 宮崎大学農学部（以下「本学部」という。）における転学科に関する取扱いについては、宮崎大学学務規則第33条に定めるもののほか、この規程に定めるところによる。

(志願資格)

第2条 転学科を志願できる者は、本学部にて6ヶ月以上在籍している者とする。ただし、学校推薦型選抜入学者、総合型選抜入学者及び編入学者は、原則として志願できない。

2 転学科をした者は、再度の転学科を志願することができない。

(転学科の時期)

第3条 転学科の時期は、学年の始めとする。

(受入人数)

第4条 各学科は、教育に支障がない範囲で受け入れることができるものとし、各学科の受入人数については、9月末までに各学科で定める。

(公示)

第5条 前条の規定により転学科の受入れを認めた学科は、10月に志願要件等を公示するものとする。

(志願手続)

第6条 転学科を志願する者は、所属学科長及びクラス担任の指導を経て、転学科願（別紙様式）を前条の公示があった日以降10月末までに学部長に提出しなければならない。

(審査)

第7条 学部長は、前条の規定により転学科の志願があったときは、志願先学科の学科長（以下「志願先学科長」という。）に審査を委託する。

2 志願先学科長は、次の各号により審査を行う。

- (1) 転学科を志願する理由の妥当性
- (2) 入学試験の成績
- (3) 入学後の教養教育科目及び専門科目の単位取得状況及び成績
- (4) 筆記試験及び面接

ただし、学業成績が優秀と認められる者に対しては、筆記試験を免除することができる。

(許可又は不許可の決定及び通知)

第8条 志願先学科長は、前条に基づき転学科の許可または不許可を判定し、学部長に上申する。

2 学部長は、教授会の議を経て転学科の許可または不許可を決定し、当該学生に通知する。

(受入年次)

第9条 転学科を許可された学生（以下「転学科生」という。）の受入年次は、学年進行に応じて学部長が決定する。

(履修指導)

第10条 受入学科の学科長及びクラス担任は、転学科生の単位修得状況に配慮し、授業科目の履修方法について適切な指導を行わなければならない。

(雑則)

第11条 この規程に定めるもののほか、農学部の転学科に関し必要な事項は、教授会で別に定める。

附 則

この規程は、令和2年12月15日から施行する。ただし、令和2年度以前に入学した者については、第2条第1項ただし書中「学校推薦型選抜」とあるのは「推薦」に読み替えるものとする。

附 則

この規程は、令和6年4月1日から施行する。

## 5. ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

農学部では、宮崎大学学務規則に規定する修業年限以上在学し、各学科所定の単位数を修得し、以下の素養を身につけた学生に対して卒業を認定し、学士（農学）の学位を与える。（獣医学科は学士（獣医学）の学位を与える。）

### 学 部（全学科に共通する部分）

1. 人間性・社会性・国際性：社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使し、社会の発展のために積極的に関与できる。
  - （1）倫理観：自己の良心と社会の規範やルール、モラルに従って行動できる。
  - （2）チームワーク：他者と協調・協働して行動できる。
  - （3）多文化・異文化理解：多文化・異文化に関する知識を理解できる。
2. 主体的に学ぶ力：自ら学修計画を立て、主体的な学びを实践できる。
3. コミュニケーション能力：相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。
  - （1）言語リテラシー：日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。
  - （2）他者理解・自己表現力：相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。
4. 課題発見・解決力：課題を発見し、情報や知識を複眼的、論理的に分析して、その課題を解決できる。
  - （1）情報リテラシー：情報通信技術（ICT）を用いて多様な情報を収集し、数量的スキルに基づいて分析し、効果的に活用することができる。
  - （2）問題解決力：問題を発見し、その問題を論理的に分析し、解決のための方策を考察できる。

### 植物生産環境科学科

5. 知識・技能：学士課程教育を通して、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能（実践力）を活用できる。
  - （1）文化、社会、自然、地域の理解：人類の文化、社会、自然及び地域に関する知識を理解できる。
  - （2）農学に関する基礎知識：農学に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。
  - （3）植物生産に関する基礎的・応用的知識：植物生産に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。
  - （4）生産環境に関する基礎的・応用的知識：生産環境に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。
  - （5）環境調和型農業に関する基礎的・応用的知識：環境調和型農業に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。
  - （6）植物生産と生産環境に関する国際的視点、社会貢献力及び指導力：植物生産と生産環境に関する国際的視点、社会貢献力及び指導力を有し、社会で活用できる。

### 森林緑地環境科学科

5. 知識・技能：学士課程教育を通して、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能（実践力）を活用できる。
  - （1）文化、社会、自然、地域の理解：人類の文化、社会、自然及び地域に関する知識を理解できる。
  - （2）農学に関する基礎知識：農学に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。
  - （3）森林・緑地の機能に関する基礎的・応用的知識と国際的視点や課題解決能力：森林・緑地の機能に関する広い知識を修得し、国内外の諸課題に対応できる。
  - （4）自然環境や国土保全、水資源利用に関する基礎的・応用的知識：自然環境や国土の保全、水資源の安定的な利用など、安全で持続可能な国土づくりに寄与できる。
  - （5）樹木・菌類、非生物材料の特性に関する基礎的・応用的知識：樹木・菌類、非生物材料等の特性を深く理解し、適切に活用することができる。
  - （6）多機能型森林緑地管理に関する基礎的・応用的知識と計画・実行力：自然環境と生物資源利用の調和を目指した森林緑地管理を計画・実行できる。
  - （7）環境と調和した材料の開発力と緑化の実践力：環境と調和した材料の開発や緑化を実践できる。

## 応用生物科学科

5. 知識・技能：学士課程教育を通して、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能（実践力）を活用できる。
- (1) 文化、社会、自然、地域の理解：人類の文化、社会、自然及び地域に関する知識を理解できる。
  - (2) 農学に関する基礎知識：農学に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。
  - (3) 数学および自然科学に関する基礎知識：数学および化学、生物などの自然科学について理解し、応用できる。
  - (4) 応用生物科学に関する知識：応用生物化学・微生物機能開発学・植物機能科学・食品科学・動物資源科学の5分野に関する基礎および専門知識を理解し、それを問題解決に応用できる。
  - (5) 技術者の社会的責任に関する理解：応用生物科学の知識・技術が社会に及ぼす影響を認識し、技術者として必要な責任ある判断と行動について考えることができる。
  - (6) 制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる力：応用生物科学に関する課題解決のための筋道をデザインし、自立して仕事を計画的に進め、期限内に終わることができる。

## 海洋生物環境学科

5. 知識・技能：学士課程教育を通して、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能（実践力）を活用できる。
- (1) 文化、社会、自然、地域の理解：人類の文化、社会、自然及び地域に関する知識を理解できる。
  - (2) 農学に関する基礎知識：農学に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。
  - (3) 水圏（生物と環境）に関する専門的基礎知識と専門的知識の応用力：水圏（生物と環境）に関する専門的基礎知識を有し、その知識を社会で応用できる。
  - (4) 環境と食糧生産の諸問題に関する分析力：環境と食糧生産の諸問題を、データを基に分析できる。
  - (5) 環境と食糧生産の諸問題の解決に貢献する能力：分析した環境と食糧生産の諸問題を、解決に導くための貢献ができる。
  - (6) 専門分野における地域社会や国際社会で活躍できる能力：専門分野における地域社会や国際社会で、他と協力し活躍できる。

## 畜産草地科学科

5. 知識・技能：学士課程教育を通して、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能（実践力）を活用できる。
- (1) 文化、社会、自然、地域の理解：人類の文化、社会、自然及び地域に関する知識を理解できる。
  - (2) 農学に関する基礎知識：農学に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。
  - (3) 草地・飼料の基礎的・応用的知識・技能：草地・飼料に関する基礎的・応用的知識・技能を有し、社会で活用できる。
  - (4) 家畜の基礎的・応用的知識・技能：家畜に関する基礎的・応用的知識・技能を有し、社会で活用できる。
  - (5) 資源・環境の基礎的・応用的知識・技能：資源・環境に関する基礎的・応用的知識・技能を有し、社会で活用できる。
  - (6) 食料・畜産業・農村の基礎的・応用的知識・技能：食料・畜産業・農村に関する基礎的・応用的知識・技能を有し、社会で活用できる。
  - (7) 専門分野に関する国際性と課題解決能力：専門分野に関する国際性と課題解決能力を有し、社会で活用できる。

## 獣医学科

5. 知識・技能：学士課程教育を通して、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能（実践力）を活用できる。
- (1) 文化、社会、自然、地域の理解：人類の文化、社会、自然及び地域に関する知識を理解できる。
  - (2) 農学に関する基礎知識：農学に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。
  - (3) 獣医専門知識：獣医師としての専門知識を有し、社会で活躍できる。
  - (4) 獣医的倫理観：獣医師としての正しい倫理観を有し、社会で活躍できる。
  - (5) 獣医的応用・実践・開拓力：獣医専門知識を生かして、応用・実践・開拓ができる。
  - (6) 地域・国際社会への貢献能力：獣医専門知識を生かして、地域や国際社会へ貢献できる。

## グローバル人材育成学部教育プログラム

グローバル人材育成学部教育プログラムでは、宮崎大学学務規則に規定する修業年限以上在学し、本プログラム所定の単位数を修得し、以下の素養を身につけた学生に対して卒業を認定し、学士（農学）の学位を与える。

1. 人間性・社会性・国際性：社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使し、社会の発展のために積極的に関与できる。
  - (1) 倫理観：自己の良心と社会の規範やルール、モラルに従って行動できる。
  - (2) チームワーク：他者と協調・協働して行動できる。
  - (3) 多文化・異文化理解：多文化・異文化に関する知識を理解できる。
2. 主体的に学ぶ力：自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。
3. コミュニケーション能力：相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。
  - (1) 言語リテラシー：日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。
  - (2) 他者理解・自己表現力：相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。
4. 課題発見・解決力：課題を発見し、情報や知識を複眼的、論理的に分析して、その課題を解決できる。
  - (1) 情報リテラシー：情報通信技術（ICT）を用いて多様な情報を収集し、数量的スキルに基づいて分析し、効果的に活用することができる。
  - (2) 問題解決力：問題を発見し、その問題を論理的に分析し、解決のための方策を考察できる。
5. 知識・技能：学士課程教育を通して、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能（実践力）を活用できる。
  - (1) 文化、社会、自然、地域の理解：人類の文化、社会、自然及び地域に関する知識を理解できる。
  - (2) 農学に関する基礎知識：農学に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。
  - (3) 生物資源およびバイオテクノロジー分野に関する専門性と技術：生物資源およびバイオテクノロジー分野に関する専門性と技術を有し、社会で活用できる。
  - (4) 専門分野における高度な英語でのコミュニケーション能力：専門分野において英語で効率的に他者とコミュニケーションができる。
  - (5) 専門分野に関する国際性と課題解決力：生物資源やバイオテクノロジー等グローバル人材育成学部教育プログラムを通して培った国際性と課題解決能力を使って国内外の諸課題に対応できる。



## 6. カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

農学部では、その教育理念に基づき、食料、環境、資源及び生命に関する高度な専門性を修得し、総合的判断力と問題解決能力を通じて地域と国際社会に貢献できる人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

### 【教育課程編成の方針】

1. 幅広く深い教養と基本的な学習能力の獲得のため、全ての学生が履修する教養教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・データリテラシー、外国語コミュニケーション、統計学基礎、専門教育接続セミナー）、課題発見科目（データサイエンス系、人文・社会・芸術系、自然・生命・技術系、地域・国際・学際系）、未来共創科目を設置する。
2. 農学を学ぶ上で基礎となる知識修得のため、学部共通科目を設置する。
3. 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶため、専門基盤科目、専門科目を段階的に設置する。
4. 学士課程を通して英語能力を涵養するため、専門英語科目を設置する。
5. 地域と国際社会に貢献できる人材を育成するために、フィールドにおける実践教育科目を設置する。
6. 専門技術者としての倫理観を涵養できる科目を設置する。
7. 獲得した知識や技能を統合し、課題を分析、解決する能力を育成するために、卒業論文等の科目を設置する。

### 【実施の方針】

1. 各授業科目について、シラバスで到達目標、授業計画、成績評価基準・方法を明確にし、周知する。
2. 主体的に考える力を育成するために、アクティブラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）を積極的に取り入れるなど授業形態、指導方法を工夫する。
3. 成績評価基準・方法に基づき厳格な評価を行う。
4. 学位授与の方針に基づく学生の学習過程を重視し、在学中の学習成果の全体を評価する。

### 植物生産環境科学科

農学部植物生産環境科学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる資質・能力を備えた人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

### 【教育課程の編成】

1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成する。
2. 基本的な学習能力の獲得のため、すべての学生が履修する教養教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・データリテラシー、外国語コミュニケーション、統計学基礎、専門教育接続セミナー）、課題発見科目（データサイエンス系、人文・社会・芸術系、自然・生命・技術系、地域・国際・学際系）、未来共創科目を設置する。
3. 農学を学ぶ上で基礎となる知識修得のため、学部共通科目を設置する。
4. 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶため、専門基盤科目、専門科目を段階的に設置する。
5. 学士課程を通して英語能力を涵養するため、専門英語科目を設置する。
6. 地域と国際社会に貢献できる人材を育成するために、フィールドにおける実践教育科目を設置する。
7. 専門分野に関わる倫理観を涵養できる科目を設置する。
8. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置する。
9. 獲得した知識や技能を統合し、課題を分析、解決する能力を育成するために、卒業論文等の科目を設置する。
10. 以上の編成に沿って、以下の科目を編成する。
  - (1) 安全・安心な農産物の安定的・持続的供給を行うための農学全般に関する科目
  - (2) 自然循環機能を活かした環境保全型・調和型農業に関する科目
  - (3) 農作物の栽培環境の改善、品種改良、成分分析、病害虫の診断・防除など、植物生産に関する科目
  - (4) 農業の施設化・機械化や労働環境の改善、農地整備、農業経営・経済など、生産環境に関する科目

### 【教育内容・方法】

1. 各授業科目について、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知する。
2. 教養教育カリキュラムの導入科目、課題発見科目、未来共創科目において、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践で

きるようにする。

3. 専門教育において、知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力を養うために、講義、演習、実験、実習などの多様な授業形態に加えて、アクティブ・ラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）を取り入れた多様な教育・指導方法を工夫する。
4. 学士課程において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を実践できるようにする。

#### 【学修成果の評価】

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表する。
2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行う。
3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係わる情報を適切に収集・分析する。
4. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価する。
5. GPA制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。
6. 学生が学修目標の達成状況をエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行う。

### 森林緑地環境科学科

農学部森林緑地環境科学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる資質・能力を備えた人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

#### 【教育課程の編成】

1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成する。
2. 基本的な学習能力の獲得のため、すべての学生が履修する教養教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・データリテラシー、外国語コミュニケーション、統計学基礎、専門教育接続セミナー）、課題発見科目（データサイエンス系、人文・社会・芸術系、自然・生命・技術系、地域・国際・学際系）、未来共創科目を設置する。
3. 農学を学ぶ上で基礎となる知識修得のため、学部共通科目を設置する。
4. 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶため、専門基盤科目、専門科目を段階的に設置する。
5. 学士課程を通して英語能力を涵養するため、専門英語科目を設置する。
6. 地域と国際社会に貢献できる人材を育成するために、フィールドにおける実践教育科目を設置する。
7. 専門分野に関わる倫理観を涵養できる科目を設置する。
8. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置する。
9. 獲得した知識や技能を統合し、課題を分析、解決する能力を育成するために、卒業論文等の科目を設置する。
10. 以上の編成に沿って、以下の科目を編成する。
  - (1) 森林・緑地の機能に関する基礎的・応用的知識と国際的視点や問題解決能力を修得するための科目
  - (2) 自然環境や国土保全、水資源利用に関する基礎的・応用的知識を修得するための科目
  - (3) 樹木・菌類、非生物材料等の特性に関する基礎的・応用的知識を修得するための科目
  - (4) 多機能型森林緑地管理に関する基礎的・応用的知識と計画・実行力を修得するための科目
  - (5) 環境と調和した材料の開発力と緑化の実践力を修得するための科目

#### 【教育内容・方法】

1. 各授業科目について、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知する。
2. 教養教育カリキュラムの導入科目、課題発見科目、未来共創科目において、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践できるようにする。
3. 専門教育において、知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力を養うために、講義、演習、実験、実習などの多様な授業形態に加えて、アクティブ・ラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）を取り入れた多様な教育・指導方法を工夫する。
4. 学士課程において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を実践できるようにする。

#### 【学修成果の評価】

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表する。

2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行う。
3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係わる情報を適切に収集・分析する。
4. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価する。
5. GPA制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。
6. 学生が学修目標の達成状況をエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行う。

## 応用生物科学科

農学部応用生物科学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる資質・能力を備えた人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

### 【教育課程の編成】

1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成する。
2. 基本的な学習能力の獲得のため、すべての学生が履修する教養教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・データリテラシー、外国語コミュニケーション、統計学基礎、専門教育接続セミナー）、課題発見科目（データサイエンス系、人文・社会・芸術系、自然・生命・技術系、地域・国際・学際系）、未来共創科目を設置する。
3. 農学を学ぶ上で基礎となる知識修得のため、学部共通科目を設置する。
4. 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶため、専門基盤科目、専門科目を段階的に設置する。
5. 学士課程を通して英語能力を涵養するため、専門英語科目を設置する。
6. 地域と国際社会に貢献できる人材を育成するために、フィールドにおける実践教育科目を設置する。
7. 専門分野に関わる倫理観を涵養できる科目を設置する。
8. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置する。
9. 獲得した知識や技能を統合し、課題を分析、解決する能力を育成するために、卒業論文等の科目を設置する。
10. 以上の編成に沿って、以下の科目を編成する。
  - (1) 化学、生物、数学を主とする自然科学および情報技術に関する基礎的知識を修得するための科目。
  - (2) 応用生物科学に関する専門知識とそれらを問題解決に応用できる能力を修得するための科目。
  - (3) 社会貢献を意識し、応用生物科学に関連する知識・技術が社会と環境に及ぼす影響を理解すると共に、技術者の社会的責任を理解するための科目。
  - (4) 課題解決のための筋道をデザインし、与えられた制約の下で自立的・計画的に仕事を進め、期限内にまとめる能力を修得するための科目。
  - (5) 応用生物科学分野における課題に関する情報収集力、記述力、プレゼンテーション能力およびコミュニケーション能力を修得するための科目
  - (6) 応用生物科学分野に関連する社会の変化に柔軟に対応するために、継続的、自発的に学ぶ学習態度を修得するための科目
  - (7) チームで仕事をすることの重要性を理解し、適切に行動できる能力を修得するための科目

### 【教育内容・方法】

1. 各授業科目について、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知する。
2. 教養教育カリキュラムの導入科目、課題発見科目、未来共創科目において、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践できるようにする。
3. 専門教育において、知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力を養うために、講義、演習、実験、実習などの多様な授業形態に加えて、アクティブ・ラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）を取り入れた多様な教育・指導方法を工夫する。
4. 学士課程において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を実践できるようにする。

### 【学修成果の評価】

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表する。
2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行う。

3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係わる情報を適切に収集・分析する。
4. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価する。
5. GPA制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。
6. 学生が学修目標の達成状況をエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行う。

### 海洋生物環境学科

農学部海洋生物環境学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる資質・能力を備えた人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

#### 【教育課程の編成】

1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成する。
2. 基本的な学習能力の獲得のため、すべての学生が履修する教養教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・データリテラシー、外国語コミュニケーション、統計学基礎、専門教育接続セミナー）、課題発見科目（データサイエンス系、人文・社会・芸術系、自然・生命・技術系、地域・国際・学際系）、未来共創科目を設置する。
3. 農学を学ぶ上で基礎となる知識修得のため、学部共通科目を設置する。
4. 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶため、専門基盤科目、専門科目を段階的に設置する。
5. 学士課程を通して英語能力を涵養するため、専門英語科目を設置する。
6. 地域と国際社会に貢献できる人材を育成するために、フィールドにおける実践教育科目を設置する。
7. 専門分野に関わる倫理観を涵養できる科目を設置する。
8. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置する。
9. 獲得した知識や技能を統合し、課題を分析、解決する能力を育成するために、卒業論文等の科目を設置する。
10. 以上の編成に沿って、以下の科目を編成する。
  - (1) 情報収集能力、プレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力を修得するための科目。
  - (2) 水域生物の生理、生態、遺伝、分類、資源利用、水族の疾病、水域環境の保全に関する科目。
  - (3) フィールド体験や実験実習を通して、海洋をはじめとした生物の生息水域における生物資源の生産、利用、管理および環境の保全に関する科目。

#### 【教育内容・方法】

1. 各授業科目について、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知する。
2. 教養教育カリキュラムの導入科目、課題発見科目、未来共創科目において、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践できるようにする。
3. 専門教育において、知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力を養うために、講義、演習、実験、実習などの多様な授業形態に加えて、アクティブ・ラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）を取り入れた多様な教育・指導方法を工夫する。
4. 学士課程において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を実践できるようにする。

#### 【学修成果の評価】

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表する。
2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行う。
3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係わる情報を適切に収集・分析する。
4. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価する。
5. GPA制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。
6. 学生が学修目標の達成状況をエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行う。

### 畜産草地科学科

農学部畜産草地科学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる資質・能力を備えた人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

#### 【教育課程の編成】

1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成する。
2. 基本的な学習能力の獲得のため、すべての学生が履修する教養教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・データリテラシー、外国語コミュニケーション、統計学基礎、専門教育接続セミナー）、課題発見科目（データサイエンス系、人文・社会・芸術系、自然・生命・技術系、地域・国際・学際系）、未来共創科目を設置する。
3. 農学を学ぶ上で基礎となる知識修得のため、学部共通科目を設置する。
4. 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶため、専門基盤科目、専門科目を段階的に設置する。
5. 学士課程を通して英語能力を涵養するため、専門英語科目を設置する。
6. 地域と国際社会に貢献できる人材を育成するために、フィールドにおける実践教育科目を設置する。
7. 専門分野に関わる倫理観を涵養できる科目を設置する。
8. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置する。
9. 獲得した知識や技能を統合し、課題を分析、解決する能力を育成するために、卒業論文等の科目を設置する。
10. 以上の編成に沿って、以下の科目を編成する。
  - (1) 家畜の合理的な生産や福祉に関する知識を修得するための科目
  - (2) 飼料となりうる資源の開発やその活用に関する知識を修得するための科目
  - (3) 草地・放牧の適切な管理などに関する知識を修得するための科目
  - (4) 家畜の体の仕組み、病気の予防や公衆衛生、畜産食品製造などに関する知識を修得するための科目
  - (5) その他、畜産業に関する実践的知識・技能を修得するための科目

#### 【教育内容・方法】

1. 各授業科目について、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知する。
2. 教養教育カリキュラムの導入科目、課題発見科目、未来共創科目において、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践できるようにする。
3. 専門教育において、知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力を養うために、講義、演習、実験、実習などの多様な授業形態に加えて、アクティブ・ラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）を取り入れた多様な教育・指導方法を工夫する。
4. 学士課程において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を実践できるようにする。

#### 【学修成果の評価】

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表する。
2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行う。
3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係わる情報を適切に収集・分析する。
4. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価する。
5. GPA制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。
6. 学生が学修目標の達成状況をエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行う。

### 獣医学科

農学部獣医学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる資質・能力を備えた人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

#### 【教育課程の編成】

1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成する。
2. 基本的な学習能力の獲得のため、すべての学生が履修する教養教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・データリテラシー、外国語コミュニケーション、統計学基礎、専門教育接続セミナー）、課題発見科目（データサイエンス系、人文・社会・芸術系、自然・生命・技術系、地域・国際・学際系）、未来共創科目を設置する。
3. 農学を学ぶ上で基礎となる知識修得のため、学部共通科目を設置する。
4. 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶため、専門基盤科目、専門科目を段階的に設置する。
5. 学士課程を通して英語能力を涵養するため、専門英語科目を設置する。

6. 地域と国際社会に貢献できる人材を育成するために、フィールドにおける実践教育科目を設置する。
7. 専門分野に関わる倫理観を涵養できる科目を設置する。
8. 実践的な能力を深化させるために、共用試験に合格することをもって受講できる参加型臨床科目を設置する。
9. 進路を見据えて、より高度な専門的な知識を取得するために、アドバンス科目を設置する。
10. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置する。
11. 獲得した知識や技能を統合し、課題を分析、解決する能力を育成するために、卒業論文等の科目を設置する。
12. 獣医師国家試験の受験資格を修得できるように、6年間を通じ以下の内容を含む授業科目を体系的に配置する。
  - (1) 動物の体のしくみや機能に関する知識や技能を修得するための科目
  - (2) 動物の病気のなりたちや感染症に関する知識や技能を修得するための科目
  - (3) 公衆衛生ならびに動物の衛生管理や福祉に関する知識と技能を修得するための科目
  - (4) 動物の繁殖や栄養学に関する知識と技能を修得するための科目
  - (5) 病気の診断・治療・予防法に関する知識と技能を修得するための科目

#### 【教育内容・方法】

1. 各授業科目について、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知する。
2. 教養教育カリキュラムの導入科目、課題発見科目、未来共創科目において、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践できるようにする。
3. 専門教育において、知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力を養うために、講義、演習、実験、実習などの多様な授業形態に加えて、アクティブ・ラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）を取り入れた多様な教育・指導方法を工夫する。
4. 学士課程において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を実践できるようにする。

#### 【学修成果の評価】

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表する。
2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行う。
3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係わる情報を適切に収集・分析する。
4. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価する。
5. GPA制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。
6. 学生が学修目標の達成状況をエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行う。

### グローバル人材育成学部教育プログラム

グローバル人材育成学部教育プログラムでは、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる資質・能力を備えた人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

#### 【教育課程の編成】

1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、宮崎大学と海外協力大学が連携して体系的な学士教育課程を編成する。
2. 基本的な学習能力の獲得のため、すべての学生が履修する教養教育カリキュラムとして、人文科学系、社会科学系、自然科学系、語学系、その他からなる教養教育科目群を設置する。
3. 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶため、専門科目、専門科目を段階的に設置する。
4. 専門分野における高度な英語でのコミュニケーション能力を養成するため、本プログラムにおける基本言語は英語とする。
5. 専門性を持って地域と国際社会に貢献できる人材を育成するために、生物資源とバイオテクノロジーを主体とする必修専門科目群を設置する。
6. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置する。
7. 獲得した知識や技能を統合し、課題を分析、解決する能力を育成するために、卒業論文等の科目を設置する。
8. 以上の編成に沿って、以下の科目を編成する。
  - (1) 生物資源に関する専門科目。

(2) バイオテクノロジーに関する専門科目。

(3) 卒業論文や特別実験等の研究室単位で実施する科目。

**【教育内容・方法】**

1. 各授業科目について、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法を明記し、周知する。
2. 主体的に考える力を養うために、アクティブ・ラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）を積極的に取り入れるなど教育・指導方法を工夫する。
3. 学士課程において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を実践できるようにする。

**【学修成果の評価】**

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表する。
2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行う。
3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係わる情報を適切に収集・分析する。
4. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価する。
5. GPA 制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。
6. 学生が学修目標の達成状況をエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行う。

## 7. 教育課程

### 専門科目の履修方法等

- 1 1・2年次は、全学部共通の教養教育科目を履修するのと並行して農学部において専門科目を履修する。
- 2 1年次において、学部共通科目を履修する。学部共通科目は次の目標を持つ。すなわち、農学部の教育理念の中で謳っている、「社会の要請に応えるための農学に関する高度な専門性と技術を修得する」上で、基礎となる知識を身につけること。特に、高校で履修したことの理解を深め、その理解に基づいて専門科目を着実に履修できるようになること。この学部共通科目は、基礎植物学、基礎動物学、基礎化学、基礎遺伝学、基礎生態学、基礎微生物学、基礎環境資源経済学およびスマートアグリ入門の8科目からなり、それぞれ、学科の必須・選択および履修指導に応じて履修する。また植物生産環境科学科、森林緑地環境科学科、応用生物科学科、海洋生物環境学科および畜産草地科学科は1年次あるいは2年次に、それぞれの学科の取り扱う専門分野の基礎知識を修得するために、専門基盤科目と専門科目の一部を履修する。獣医学科は1年次から専門科目を履修する。
- 3 卒業に必要な単位として、教養教育科目36単位（導入科目16単位・課題発見科目および未来共創科目20単位）のほか専門科目として植物生産環境科学科、森林緑地環境科学科、応用生物科学科、海洋生物環境学科及び畜産草地科学科は92単位以上、獣医学科学生は158単位以上を修得しなければならない。  
なお、卒業に必要な専門科目履修単位の内訳は、別表のとおりである。
- 4 単位の修得基準については、おおむね1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、適切な授業形態を1種類ないし複数組み合わせ、単位数に応じた適切な内容になるように、授業科目毎に設定する。
- 5 教育職員免許法に基づく高等学校教諭一種免許状を取得しようとする者は、教科に関する科目及び教職に関する専門科目についての所定の単位を修得しなければならない。
- 6 担当教員及び授業科目の内容については、年度により一部変更することがあるので注意すること。  
なお、『授業科目担当教員』欄の『関係教員』については、『授業科目担当教員（関係教員）一覧表』を参照すること。

### 成績送付について

農学部では、学生の単位修得などの勉学状況を保護者にも知っていただくために、成績通知書の送付を行います。保護者の住所が変更になった学生は、農学部教務・学生支援係まで届け出てください。

### 試験における不正行為（カンニング等）について

試験（定期試験、追試験、再試験等）において不正行為（カンニング等）を行った者は、「宮崎大学農学部専門科目の受講及び成績評価に関する細則」第11条により、『懲戒処分（有期の停学処分）』となり、併せて、『同細則別表に定める科目の成績はすべて無効』となります。

この規定は、学生が公平に試験を受けられるように、不正行為（カンニング等）防止を目的に定められたものであるため、学生の本分として、真面目に勉学し、この規定に抵触しないよう心がけて下さい。

### 成績指標値（GPA）の解説と注意

農学部では、学生の皆さんが自己学修状況チェックを行い、学習・教育目標を高いレベルで達成するため、学修状況チェックの一つの指標として成績指標値（GPA）を導入しています。GPAの目的や内容について以下に解説しますので、自己学修状況チェックに有効に用いて下さい。

#### [1] GPAとは何ですか？

GPA（成績指標値）は“Grade Point Average”の略で、履修科目成績に単位数の重みづけをした平均です。“単位の実質化”の観点に基づき、4単位科目は2単位科目の2倍の学習が求められ、その成績も2倍の重みを付けてGPAを算出します。

学習カルテ：履修システムで用いているGPAには、“学期GPA”（学期毎の履修科目のGPA）、“年間（学年）GPA”（1年間の履修科目のGPA）、“通算GPA”（1年から現時点までの履修科目のGPA）の3種類がありま



す。

## [2] GPAを使う目的は？

学期GPAや年間（学年）GPAの値から、自分自身の成績の伸びや学習状況などの変化を客観的に判断することができます。また、学習の到達度を学生が数値的に明確にでき、自身の授業への取り組みや学習意欲の向上に繋がります。学習カルテ：履修システムには、GPAの他にも“自己成績ポジション”など自分の成績を客観的に評価できる手段が組み込まれていますので、GPAと共に自分の学修状況の確認に活用できます。

クラス担任等の教員がGPAにより学生個々の学修状況を確認し、適切な履修指導や学習アドバイスを行うことも目的の一つです。

## [3] GPAはこの計算式で計算します！

学習カルテ：履修システムで用いているGPAの計算式は、以下となっています。

$$\text{GPA} = \Sigma (\text{登録科目のGP} \times \text{その科目の単位数}) / (\text{登録科目の単位数の合計})$$

※「登録科目」は、科目登録修正期間後に確定した登録科目とする。

ただし、 $\text{GP} = (\text{受講科目の100点満点の評価点} - 54.5) / 10$

$\Sigma$ は、各学期または累積の受講科目に関する合計を示します。

また、出席不足と未受験及び不合格科目（54.5未満）ではGP=0とします。

履修登録科目の全てをGPA対象科目とします。ただし、教職科目は対象から除きます。

### 【GPAの計算例】

科目名	単位数	評価点	GP	GP×科目単位数
△△学	2	85	$(85-54.5)/10=3.05$	$3.05 \times 2=6.10$
〇〇学	2	68	$(68-54.5)/10=1.35$	$1.35 \times 2=2.70$
□□実験	1	51	54.5未満=0	$0 \times 1=0$
**研究	4	92	$(92-54.5)/10=3.75$	$3.75 \times 4=15.00$
合計	9			23.80

よって、 $\text{GPA} = 23.80 / 9 = 2.64$ （小数点3位以下を切り捨て）

学期GPAは、各学期で登録した全科目（教職科目を除く）を対象に学期毎に計算した値です。年間（学年）GPAは、1年間に登録した全科目を対象に年次毎に計算した値です。通算GPAは、1年次から現在在学している年次の学期までに履修した全科目から計算した値です。

GPAでは、出席不足と未受験及び不合格となった科目はGPが0点として集計の計算対象としています。安易にたくさんの科目を履修登録して、実際には受講しない場合は0点評価の科目が増えてGPAが低くなります。科目登録した科目は、きっちりと学習をして単位を取得することがGPAを下げないために重要となります。

## [4] 科目履修登録の“中止”は修正期間内に必ず行おう！

科目登録した科目の履修を中止にする場合、**科目履修登録の修正期間内に「履修中止」を行って下さい。履修中止の手続きにより登録削除を行わない場合、その科目のGPは0となりGPAが下がります。**

ただし、集中講義や学外（体験）実習、獣医インターンシップのように講義日程が修正期間内に決定されていなかった科目が既に履修中の他の科目と重複することとなった場合など、やむを得ない事由で削除を希望する場合は、授業の日程が決定してから2週間以内に農学部教務・学生支援係にて手続きを行って下さい。（農学部では科目登録の削除の取り扱いに関する申合せが別途定められています。）

## [5] GPAはどのように利用されるのですか？

### (1) 学生自身の活用

学期毎のGPAが計算されるので、自分の学習成果の履歴を把握でき、さらなる向上を目指して学習努力を続けることへの励みになります。

### (2) 学生指導の利用

成績不振となっている学生に対する指導に活用されます。極端にGPAが低い場合、クラス担任や指導教員により学生指導を行うことがあります。

(3) 学生表彰等への活用

優秀学生の表彰等の基準の一つとして、利用しています。

**[6] GPAの数値の目安は？**

GPAは0～4.55の範囲の数値となります。学修状況を自己点検する場合は、以下を目安にして下さい。GPAが高いほど良い学修状況で推移していると判断して下さい。

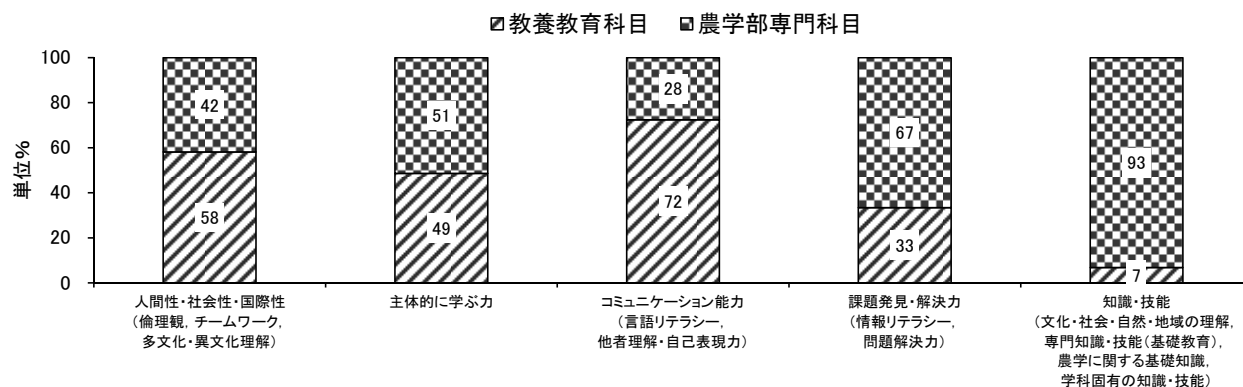
GPA	1ポイント台	2.5ポイント前後	3.0ポイント前後	3.5ポイント以上
成績レベルの目安	かなり低いレベルですので、集中して学習する必要があります。	平均的レベルですが、さらに学習の努力が必要です。	かなり優れたレベルですので、さらに向上させる目標を持ちましょう。	優秀なレベルですので、継続してポイントを維持しましょう。

**[7] GPAを確認する方法は？**

学習カルテ：履修システムにログインし、「既修得科目状況確認」機能の開講科目表ベースの画面で自分のGPAを確認することができます。

## 農学部専門科目で修得するディプロマポリシーに掲げる資質・能力

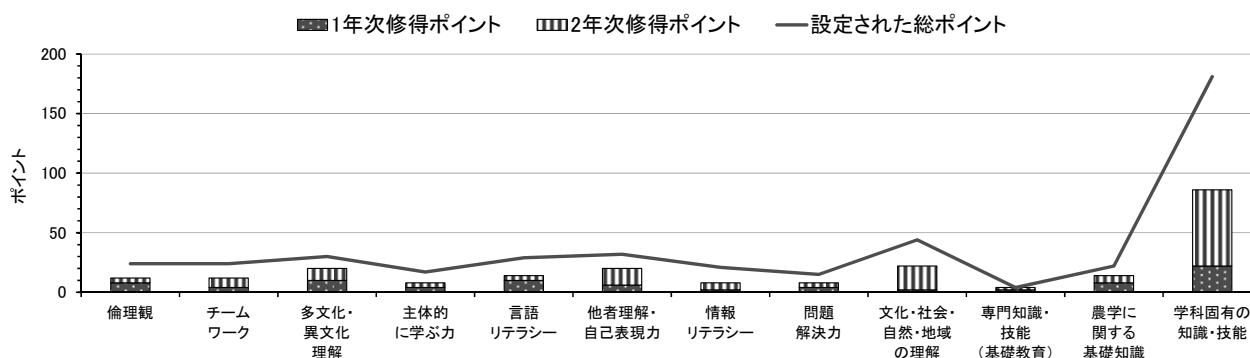
農学部では、4年間あるいは6年間の学士課程を通して、ディプロマポリシーに掲げる様々な資質・能力を修得します。これらの資質・能力は、教養教育と専門教育が連携し、それぞれの教育の目的・目標などに沿って配置されています。以下の図に示されるように、農学部専門科目では、「コミュニケーション能力」の約30%、「人間性・社会性・国際性」および「主体的に学ぶ力」の約40～50%、「課題発見・解決力」の約70%、「知識・技能」のほぼすべてを修得します。



教養教育科目と農学部専門科目で修得するディプロマポリシーに掲げる資質・能力(農学部6学科の平均値)

## ディプロマポリシーに掲げる資質・能力の修得状況、履修状況および成績指標値(GPA)の確認

学習カルテ:履修システム(<https://carte.eden.miyazaki-u.ac.jp/login>)を利用して、ディプロマポリシーに掲げる資質・能力をどの程度修得できたかを確認することができます。履修状況(登録単位, 修得単位)や成績指標値(GPA)も確認できます。ディプロマポリシーに掲げる資質・能力の修得状況は、以下の図に示されるように、該当する各資質・能力について、学年ごとの修得ポイントが、設定された総ポイントとともに表示されます。



ディプロマポリシーに掲げる資質・能力の修得状況の表示例(2年次までの修得)(実際の画面とは一部異なります)

## ディプロマポリシー(DP) 記号一覧表

各学科のカリキュラム表内にある「DP」と記載された列には、各授業科目とDPとの関係を下記の記号で表しています。

記号	項目	説明
共1	倫理観	自己の良心と社会の規範やルール、モラルに従って行動できる。
共2	チームワーク	他者と協調・協働して行動できる。
共3	多文化・異文化理解	多文化・異文化に関して理解できる。
共4	主体的に学ぶ力	自ら学習計画を立て、主体的な学びを実践できる。
共5	言語リテラシー	日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。
共6	他者理解・自己表現力	相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。
共7	情報リテラシー	情報通信技術(ICT)を用いて多様な情報を収集し、数量的スキルに基づいて分析し、効果的に活用することができる。
共8	問題解決力	問題を発見し、その問題を論理的に分析し、確実に解決のための方策を考察できる。
共9	文化、社会、自然、地域の理解	人類の文化、社会、自然及び地域に関する知識を理解できる。
農1	農学に関する基礎知識	農学に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。
植1	植物生産に関する基礎的・応用的知識	植物生産に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。
植2	生産環境に関する基礎的・応用的知識	生産環境に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。
植3	環境調和型農業に関する基礎的・応用的知識	環境調和型農業に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。
植4	植物生産と生産環境に関する国際的視点、社会貢献力および指導力	植物生産と生産環境に関する国際的視点、社会貢献力および指導力を有し、社会で活用できる。
森1	森林・緑地の機能に関する基礎的・応用的知識と国際的視点や課題解決能力	森林・緑地の機能に関する広い知識を修得し、国内外の諸課題に対応できる。
森2	自然環境や国土保全、水資源利用に関する基礎的・応用的知識	自然環境や国土の保全、水資源の安定的な利用など、安全で持続可能な国土づくりに寄与できる。
森3	樹木・菌類、非生物材料の特性に関する基礎的・応用的知識	樹木・菌類、非生物材料等の特性を深く理解し、適切に活用することができる。
森4	多機能型森林緑地管理に関する基礎的・応用的知識と計画・実行力	自然環境と生物資源利用の調和を目指した森林緑地管理を計画・実行できる。
森5	環境と調和した材料の開発力と緑化の実践力	環境と調和した材料の開発や緑化を実践できる。
応1	数学および自然科学に関する基礎知識	数学および化学、生物などの自然科学について理解し、応用できる。
応2	応用生物学に関する知識	応用生物化学・微生物機能開発学・植物機能科学・食品科学・動物資源科学の5分野に関する基礎および専門知識を理解し、それを問題解決に応用できる。
応3	技術者の社会的責任に関する理解	応用生物学の知識・技術が社会に及ぼす影響を認識し、技術者として必要な責任ある判断と行動について考えることができる。
応4	制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる力	課題解決のための筋道をデザインし、自立して仕事を計画的に進め、期限内に終わることができる。
海1	水圏(生物と環境)に関する専門的基礎知識と専門的知識の応用力	水圏(生物と環境)に関する専門的基礎知識を有し、その知識を社会で応用できる。
海2	環境と食糧生産の諸問題に関する分析力	環境と食糧生産の諸問題を、データを基に分析できる。
海3	環境と食糧生産の諸問題の解決に貢献する能力	分析した環境と食糧生産の諸問題を、解決に導くための貢献ができる。
海4	地域社会や国際社会で活躍できる能力	地域社会や国際社会で、他と協力し活躍できる。
畜1	草地・飼料の基礎的・応用的知識・技能	草地・飼料に関する基礎的・応用的知識・技能を有し、社会で活用できる。
畜2	家畜の基礎的・応用的知識・技能	家畜に関する基礎的・応用的知識・技能を有し、社会で活用できる。
畜3	資源・環境の基礎的・応用的知識・技能	資源・環境に関する基礎的・応用的知識・技能を有し、社会で活用できる。
畜4	食料・畜産業・農村の基礎的・応用的知識・技能	食料・畜産業・農村に関する基礎的・応用的知識・技能を有し、社会で活用できる。
畜5	専門分野に関する国際性と課題解決能力	専門分野に関する国際性と課題解決能力を有し、社会で活用できる。
獣1	獣医専門知識	獣医師としての専門知識を有し、社会で活躍できる。
獣2	獣医的倫理観	獣医師としての正しい倫理観を有し、社会で活躍できる。
獣3	獣医的応用・実践・開拓力	獣医専門知識を生かして、応用・実践・開拓ができる。
獣4	地域・国際社会への貢献能力	獣医専門知識を生かして、地域や国際社会へ貢献できる。
グ1	生物資源およびバイオテクノロジー分野に関する専門性と技術	生物資源およびバイオテクノロジー分野に関する専門性と技術を有し、社会で活用できる。
グ2	専門分野における高度な英語でのコミュニケーション能力	専門分野において英語で効率的に他者とコミュニケーションができる。
グ3	国内外の諸課題に対応できる国際性と課題解決能力	培った国際性と課題解決能力を使って国内外の諸課題に対応できる。

## アクティブラーニング(AL) 番号一覧表

各学科のカリキュラム表内にある「AL」と記載された列には、各授業科目がどのようなアクティブラーニングを取り入れているかを下記の番号で表しています。

なお、記載されたアクティブラーニングは、毎回の授業に取り入れられているものに限らず、一部の授業のみに取り入れられているものも含まれます。

また、アクティブラーニングの種類や方法は、今後の見直しなどにより、変更されることがあります。

番号	方法
1	少人数(10人程度)
2	双方向(対話・討論)
3	グループワーク
4	フィールド型
5	メディア活用
6	TA活用
7	チームワーク、コミュニケーション能力もしくは課題発見・解決力の育成
8	演習、実験、実習もしくは実技

別表 卒業に必要な専門科目履修単位一覧表

区分		植物生産環境科学科	森林緑地環境科学科	応用生物科学科	海洋生物環境学科	畜産草地科学科	獣医学科
学部共通科目	必修科目	6 単位	4 単位	2 単位	6 単位	8 単位	2単位
	選択科目	6 単位 A	6 単位 B	4 単位 C	6 単位 D	4 単位 E	2単位
専門基盤科目	必修科目	6 単位	18 単位	30 単位	8 単位	12 単位	-
	選択科目	6 単位 A	6 単位 B	-	D	2 単位 E	6単位
専門科目	必修科目	10 単位	26 単位	33 単位	34 単位	29[39] 単位	144単位
	選択科目	58 単位 A	32 単位 B	23 単位 C	D	37[27] 単位 E	4単位 (アドバンス科目)
必修単位合計		22 単位	48 単位	65 単位	48 単位	49[59] 単位	146単位
選択単位合計		70 単位	44 単位	27 単位	44 単位	43[33] 単位	12単位
総合計		92 単位	92 単位	92 単位	92 単位	92 単位	158 単位

A 植物生産環境科学科のカリキュラム表の末尾にある備考欄を参照すること。

B 森林緑地環境科学科のカリキュラム表の末尾にある備考欄を参照すること。

C 応用生物科学科のカリキュラム表の末尾にある備考欄を参照すること。

D 海洋生物環境学科のカリキュラム表の末尾にある備考欄を参照すること。

E 畜産草地科学科のカリキュラム表の末尾にある備考欄を参照すること。

[ ]内の数字は産業動物コンサルタント育成プログラムに適用される単位数である。

※ グローバル人材育成学部教育プログラムのカリキュラム表は別途定める。

※ カリキュラム表内の「開講」欄は、主に担当する教員が所属する学科を示す。

植：植物生産環境科学科 森：森林緑地環境科学科 応：応用生物科学科

海：海洋生物環境学科 畜：畜産草地科学科 獣：獣医学科 共：学部共通科目

※ カリキュラム表内の「担当教員」欄に、他学部教員が担当している場合は所属する学部を示す。

[E]：教育学部 [R]：地域資源創成学部 [En]：工学部 [M]：医学部

※ カリキュラム表内の「教職科目」欄は、教員免許取得における「教科及び教科の指導法に関する科目」として指定されている科目である。（詳細は「8. 教員免許状及びその他の資格取得について」を参照）

農：農業（高一種）免許科目 水：水産（高一種）免許科目 理：理科（高一種）免許科目

植物生産環境科学科

区分	授業科目	開講	単位数		1年次		2年次		3年次		4年次		授業形態	D P	A L	教職科目	担当教員	備考
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後						
学部 共通 科目	基礎植物学	共	2		2								講義	農1			関係教員	*学部共通科目の選択科目から3科目(6単位)取得すること。
	基礎化学	共		2	2								講義	農1		理	関係教員	
	基礎遺伝学	共	2		2								講義	農1			関係教員	
	基礎生態学	共		2	2								講義	農1			関係教員	
	基礎微生物学	共		2	2								講義	農1			関係教員	
	基礎環境資源経済学	共	2		2								講義	農1			関係教員	
	スマートアグリ入門	共		2	2								講義	農1			関係教員	
専門 基盤 科目	必修科目	植物生産環境科学概論	植	2		2							講義	農1	5	農	関係教員	**専門基盤科目の選択科目から3科目(6単位)以上取得すること。
		植物生産環境科学基礎実験・実習Ⅰ	植	1		1							実験実習	農1	3,4 5,6	理	関係教員	
		栽培学	植	2		2							講義	農1	5	農	鉄村 松尾	
		植物生産環境科学基礎実験・実習Ⅱ	植	1		1							実験実習	農1	3,4 5,6	理	関係教員	
	選択科目	GAP概論	植		2	2							講義	植2	5	農	木下	
		生物情報処理学	植		2	2							講義	共7	5,6 7		梶島	
		植物生理学	植		2		2						講義	植1	5,7	理	稲葉(丈)	
		農地環境工学	植		2		2						講義	植2	5	理	宇田津 梶島	
		農業経済学	植		2		2						講義	植4	7	農	狩野	
		野菜園芸学	植		2		2						講義	植1	5	農	増田	
専門 科目	必修科目	農場実習Ⅰ	植	1			1						実習	植1	4	農	関係教員	***選択科目Ⅰ群から2科目(2単位)以上取得すること。
		農場実習Ⅱ	植	1				1					実習	植1	4	農	関係教員	
		専門英語	植	2						2			講義	農1	1,2 7		関係教員	
		卒業論文	植	6						6				植4	7		関係教員	
	選択科目Ⅰ群	植物生産科学実験Ⅰ	植		1		1						実験	植1	3,4 6	理	関係教員	
		植物生産科学実験Ⅱ	植		1			1					実験	植1	3,6	理	関係教員	
		植物生産データエンジニアリング	植		1			1					実験	植2	3,4 6,7 8		梶島 木下 日吉 霧村 園師	
		農業・社会調査実習	植		1				1				実習	植4	4,7	農	山本(直) 宇田津 狩野	
		企画実習	植		1			1					実習	植1	4	農	松尾	

区分	授業科目	開講	単位数		1年次		2年次		3年次		4年次		授業形態	D P	A L	教職科目	担当教員	備考
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後						
専門	施設園芸学	植		2		2							講義	植1	5	農	霧村	***選択科目Ⅱ群から6科目(12単位)以上取得すること。
	昆虫生態学	植		2			2						講義	植1	5	理	安達	
	果樹園芸学総論	植		2			2						講義	植1	5	農	鉄村	
	作物学総論	植		2			2						講義	植1	5	農	湯淺	
	植物病理学総論	植		2			2						講義	植1	5	理	竹下(稔)	
	農業動力機械学	植		2				2					講義	植2	5,7	理	槐島	
	雑草防除学	植		2				2					講義	植2	5	農	松尾	
	植物生産とデータサイエンス	植		2					2				講義	植1	4,6 8		槐島 日吉 霧村 園師	
	生物生産機械学	植		2						2			講義	植2	5		木下	
	生産流通施設学	植		2						2			講義	植2		農	槐島	
科 目 Ⅲ 群	栽培植物起源論	植		2			2						講義	農1	5	農	宇田津	
	野菜園芸学各論	植		2			2						講義	植1	5	農	増田	
	学外体験実習	植		2					2				実習	農1	7		関係教員	集中
	スマート農業インターンシップ	植		1					1				実習	農1	7		関係教員	集中
	総合的害虫管理学	植		2				2					講義	植3	5	理	安達	
	園芸利用学	植		2				2					講義	植1	3,5 7	農	園師	
	植物病理学各論	植		2				2					講義	植1	5	理	竹下(稔)	
	果樹園芸生理学	植		2				2					講義	植1	5	理	本勝	
	社会統計学	植		2					2				講義	共7	7	農	山本(直) 宇田津 狩野	
	花き園芸生理学	植		2					2				講義	植1	5,7	理	稲葉(靖)	
果樹園芸学各論	植		2						2			講義	植1		農	鉄村 本勝		
水文・気象学	森		2						2			講義	植2			竹下(伸) 篠原		

区分	授業科目	開講	単位数		1年次		2年次		3年次		4年次		授業形態	D	A	L	教職科目	担当教員	備考
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後							
専 門 科 目 Ⅲ 群	農業経営学	植		2						2			講義	植2			農	山本(直)	
	グローバルアグリ体験講座	植		2						2			講義 実習	植4	1, 7			関係教員	集中
	GAP指導員講座	植		1						1			講義	植2	3, 5			非常勤講師	集中
	フィールド実践実習(農場)	植		2						2			実習	植1	4			関係教員	
	生物生産システム工学	植		2						2			講義	植2	5		農	非常勤講師	集中(隔年)
	国際農業論	植		2						2			講義	植4				西[R]	地域資源創 成学部で開 講
	青果代謝生理学	植		2						2			講義	植1	5		理	圖師	
	農業政策論	植		2						2			講義	植4	7		農	狩野	
	作物生産学	植		2						2			講義	植1	1, 5		農	湯浅	
	生物応用力学	植		2						2			講義	植2	5, 7		理	槐島	
	生物計測工学	植		2						2			講義	植2	5, 8		理	日吉	
	農業技術者倫理	植		1						1			講義	共1	3, 5			非常勤講師	集中
	植物バイオテクノロジー	畜		2						2			講義	植1	2			権藤 田中(秀)	
	樹木生態生理学	森		2						2			講義	植3				伊藤 平田	
	土壌肥科学	応		2						2			講義	植1				佐伯	
	植物遺伝・育種学	応		2						2			講義	植1				國武	
	農産物流通論	植		2						2			講義	植2				山本(直)	
	物理学概論	植		2				2					講義				理	槐島 木下 日吉	集中****
生物学概論 (植物生産環境科学)	植		2				2					講義				理	関係教員	集中****	

(注意) 科目の担当教員は変更になる場合がある。

\* 学部共通科目の選択科目は合計6単位を履修しなければならない。

\*\* 専門基盤科目の選択科目は合計6単位以上を履修しなければならない。ただし、6単位を超える分の単位については本学科の専門科目〔選択科目(選択科目Ⅲ群)〕の単位に含めることができる。

\*\*\* 専門科目の選択科目は、本学科の選択科目Ⅰ群から2科目2単位以上、選択科目Ⅱ群から6科目12単位以上を履修し、選択科目Ⅲ群の履修単位と合計して58単位以上を履修しなければならない。また、植物生産環境科学科のカリキュラム表に記載された科目以外に、グローバル人材育成学部教育プログラムコア科目群に記載された科目から8単位までを卒業要件の専門科目(選択科目Ⅲ群)の単位に含めることができる。

\*\*\*\* この科目は卒業に必要な単位に含めることはできない。



森林緑地環境科学科

区分	授業科目	開講	単位数		1年次		2年次		3年次		4年次		授業形態	D P	A L	教職科目	担当教員	備考
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後						
学部 共通 科目	基礎植物学	共	2		2								講義	農1			関係教員	*学部共通 科目の選 択科目か ら3科目(6 単位)取得 すること。 と。
	基礎環境資源経済学	共	2		2								講義	農1			関係教員	
	基礎遺伝学	共		2	2								講義	農1			関係教員	
	基礎生態学	共		2	2								講義	農1			関係教員	
	基礎微生物学	共		2	2								講義	農1			関係教員	
	基礎化学	共		2	2								講義	農1	理		関係教員	
	スマートアグリ入門	共		2	2								講義	農1			関係教員	
専 門 基 盤 科 目	基礎数学 (森林緑地環境科学)	森	2		2								講義	農1			関係教員	
	森林緑地環境科学概論	森	2		2								講義	森1	5, 7	農	関係教員	
	森林緑地 フィールド実習 I	森	1		1								実習	森1	4, 7	農	関係教員	集中
	環境計測学	森	2		2								講義	森1	2, 3		高木	
	樹木学	森	2		2								講義	森3	4	農	高木	
	森林生態学	森	2		2								講義	森1		理	伊藤 平田	
	水文・気象学	森	2		2								講義	森2		理	竹下(伸) 篠原	
	森林計測学	森	2		2								講義	森4		農	光田	
	森林緑地 フィールド実習 II	森	1		1								実習	森1	3, 4 7	農	関係教員	一部集中
	構造力学	森	2		2								講義	森5		理	中園	
	基礎物理学 (森林緑地環境科学)	森		2	2								講義	農1		理	関係教員	
	環境リモート センシング概論	森		2	2								講義	森2			多炭	
	測量学	森		2	2								講義	森2		農	篠原	
選択 科目 I群	樹木学実習	森		1	1								実習	森3	4	農	高木 平田	一部集中
	測量学実習	森		1	1								実習	森2	3, 4	農	中園 櫻井	
	森林計測学実習	森		1	1			1					実習	森4	3, 4 7	農	光田	一部集中

区分	授業科目	開講	単位数		1年次		2年次		3年次		4年次		授業形態	D P	A L	教職科目	担当教員	備考	
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後							
専 門 科 目	木本植物組織学	森	2			2							講義	森3		理	雉子谷 津山		
	森林経済学	森	2				2						講義	森4		農	藤掛		
	木材化学	森	2					2					講義	森3		理	雉子谷 津山		
	砂防学	森	2					2					講義	森2		理	清水 篠原		
	木材工学	森	2					2					講義	森3			雉子谷 中園		
	森林計画学	森	2						2				講義	森4	2,3 7	農	光田		
	環境材料学	森	2						2				講義	森5			中園 雉子谷		
	造林学	森	2						2				講義	森4		農	伊藤		
	景観生態学	森	2							2			講義	森5	2	農	伊藤 光田		
	水資源管理学	森	2							2			講義	森2		理	竹下(伸)		
	専門英語	森	2							2			講義	森1	1,2 7		関係教員		
	卒業論文	森	4								4		共8	1,2 5,7			関係教員		
	選 択 科 目	木本植物組織学実験	森		1			1						実験	森3		理	雉子谷 津山	
		森林保護学	森		2					2				講義	森4		農	平田	
		森林利用学	森		2			2						講義	森4		農	櫻井	
		森林緑地空間情報学	森		2				2					講義	森2			多炭 篠原	
		樹木生態生理学	森		2				2					講義	森3		理	伊藤 平田	
		国土管理保全学	森		2				2					講義	森2		理	篠原	
		森林緑地フィールド 特別実習	森		1					1				実習	森1	4		関係教員	集中
		森林政策学	森		2					2				講義	森4		農	藤掛	
		水理学	森		2					2				講義	森2		農	竹下(伸)	
		土質力学	森		2					2				講義	森2		理	櫻井	
農山村環境計画学		森		2					2				講義	森4	2,3	農	中園		
土壌物理学 (Soil and Water Sciences)		森		2					2				講義	森2		理	多炭		
農地環境工学	植		2					2				講義	森2			宇田津 槐島			

区分	授業科目	開講	単位数		1年次		2年次		3年次		4年次		授業形態	D P	A L	教職科目	担当教員	備考
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後						
専 門 科 目	学外研修	森		1						1			実習	共8	1, 7		関係教員	集中
	植物病理学総論	植		2							2		講義	森3			竹下(稔)	
	造林学実験実習	森		1						1			実習	森4	2, 3 4, 6 7	農	伊藤 平田	一部集中
	緑の野外実習	森		1						1			実習	森1	4		高木	集中****
	応用力学・水理学	森		2							2		講義	森2		理	中園 竹下(伸)	
	植生立地学	森		2							2		講義	森1		農	伊藤 高木 光田	
	森林資源利用科学	森		2						2			講義	森5	5	農	雫子谷 津山 非常勤講師	
	森林細胞学実験	森		1							1		実験	森3	6, 7 8		津山	
	環境材料学実験	森		1							1		実験	森5	3	理	中園 雫子谷 多炭 津山	
	植生調査実習	森		1							1		実習	森4	4	農	高木	
	森林計画学実習	森		1							1		実習	森4	3, 4 7	農	光田	一部集中
	森林土木学実習	森		1							1		実習	森4		農	櫻井	
	環境データ サイエンスとAI	森		2				2					講義	共7	8		非常勤講師	集中(隔年)
	昆虫生態学	植		2								2	講義	森1	5		安達	
	土壌肥科学	応		2								2	講義	森3			佐伯	
	植物病理学各論	植		2								2	講義	森3			竹下(稔)	
	雑草防除学	植		2								2	講義	森4	5		松尾	
	総合的害虫管理学	植		2								2	講義	森4	5		安達	
	生物学概論 (森林緑地環境科学)	森		2							2		講義			理	雫子谷 高木 平田	集中****

(注意) 科目の担当教員は変更になる場合がある。

\* 学部共通科目の選択科目は合計6単位を履修しなければならない。

\*\* 専門基盤科目の選択科目は本学科の選択科目Ⅰ群から2科目4単位以上、選択科目Ⅱ群から2科目2単位以上を履修しなければならない。ただし、専門基盤科目(選択科目)を要件以上に履修した場合、要件を超える分の単位については卒業に必要な専門科目(選択科目)の単位に含めることができる。

\*\*\* 専門科目の選択科目は合計30単位以上を履修しなければならない。また、森林緑地環境科学科のカリキュラム表に記載された科目以外に、他の学科及びグローバル人材育成学部教育プログラムコア科目群に記載された科目ならびに他の学部との単位互換が認められた科目の中から10単位までを卒業要件の専門科目(選択科目)の単位に含めることができる。

\*\*\*\* この科目は卒業に必要な単位に含めることはできない。

応用生物科学科

区分	授業科目	開講	単位数		1年次		2年次		3年次		4年次		授業形態	D P	A L	教職科目	担当教員	備考
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後						
学部共通科目	基礎植物学	共		2	2								講義	農1	7		関係教員	*学部共通科目の選択科目から2科目(4単位)取得すること。
	基礎動物学	共		2	2								講義	農1			関係教員	
	基礎遺伝学	共	2		2								講義	農1			関係教員	
	スマートアグリ入門	共		2	2								講義	農1			関係教員	
基盤科目	基礎化学 (応用生物科学)	共	2		2								講義	農1		理	榊原(陽) 服部 黒木	
	基礎微生物学 (応用生物科学)	共	2		2								講義	農1		理	吉田(ナ)	
	生命化学概論	応	2		2								講義	応1		農	榊原(陽) 吉田(ナ) 佐伯 山崎(正) 仲西	
	有機化学	応	2		2								講義	応1		理	服部	
	無機化学	応	2		2								講義	応1		理	引間 山本(昭)	
	生物化学 I	応	2		2								講義	応1		理	榊原(陽)	
専門基盤科目	物理化学	応	2			2							講義	応1			井上(謙) 服部	
	分析化学	応	2			2							講義	応1		理	佐伯	
	生物有機化学	応	2			2							講義	応1		理	榊原(陽) 服部 黒木	
	食品化学	応	2			2							講義	応2	5	農	河原 横山	
	生物学実験	応	1			1							実験	応1	6, 7	理	國武 平野 横山	
	分析化学実験	応	2				2						実験	応1	2, 3 6, 7	理	河原 佐伯 山崎(正) 引間 仲西 河野 山本(昭) 横山	集中

区分	授業科目	開講	単位数		1年次		2年次		3年次		4年次		授業形態	D P	A L	教職科目	担当教員	備考	
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後							
専門 基盤 科目	生物化学Ⅱ	応	2				2						講義	応1	5	理	江藤		
	有機化学実験	応	1				1						実験	応1	6, 7	理	榊原(陽) 服部 小川	集中	
	微生物学実験	応	1				1						実験	応1	7	理	吉田(十) 井上(謙) 清	集中	
	生物化学実験	応	1				1						実験	応1	2, 3 5, 6 7	理	江藤 黒木	集中	
	技術者倫理	応	2							2				講義	応3			非常勤講師 山本(昭)	集中
専門 必修 科目	食品製造学	応	2				2						講義	応2	5	農	山崎(正) 小川		
	酵素化学	応	2				2						講義	応2		理	黒木		
	土壌肥料学 (Agricultural Soil Science)	応	2				2						講義	応2		理	佐伯		
	植物遺伝・育種学	応	2				2						講義	応2		理	國武		
	食品分析化学	応	2				2						講義	応2	5	農	山崎(正) 黒木 横山		
	微生物化学	応	2				2						講義	応2	5	農	井上(謙)		
	食品衛生学	応	2					2					講義	応2		農	引間 河原 井口		
	栄養化学	応	2					2					講義	応2	5	農	横山 非常勤講師		
	入門セミナーⅠ	応	1						1					講義	応2	2, 5 7		関係教員	
	化学英語Ⅰ	応	2					2						講義	共5	5, 7		仲西 引間	
	食品製造学・ 衛生化学実験	応	1						1					実験	応2	3, 6 7	農	河原 仲西 引間 横山 小川	集中
	生物工学実験	応	1						1					実験	応2	3, 5 7	農	佐伯 國武 吉田(十) 平野 河野 山本(昭) 清	集中
	応用生物化学実験	応	1						1					実験	応2	2, 3 6, 7	理	榊原(陽) 山崎(正) 江藤 井上(謙) 服部 黒木	集中

区分	授業科目	開講	単位数		1年次		2年次		3年次		4年次		授業形態	D P	A L	教職科目	担当教員	備考
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後						
専門科目	食品保蔵化学	応	2							2			講義	応2	5	農	河原	
	入門セミナーⅡ	応	1							1			講義	共8	1,2 5,7		関係教員	集中
	化学英語Ⅱ	応	2							2			講義	共5	5,7		吉田(ナ) 平野 清	
	卒業論文	応	6								6			共8	1,2 7		関係教員	
選択科目	生物機能科学実験	応		1						1			実験	応4	1,2 7	農	関係教員	**選択実験・実習科目から1単位取得すること
	食品機能化学実験	応		1						1			実験	応4	1,2 3,7	農	関係教員	
専門科目	植物生理学	植	2						2				講義	応1	5		稲葉(丈)	
	細胞工学	応	2						2				講義	応2	5	農	江藤	
	植物遺伝資源学	応	2						2				講義	応2		農	平野	
	公衆衛生学	応	2						2				講義	応2		農	河野	
	畜産食品製造学	応	2						2				講義	応2		農	仲西	
	水産食品製造学	応	2						2				講義	応2		農	引間	
	植物栄養生化学	応	2						2				講義	応2		農	山本(昭)	
	食品工学	応	2						2				講義	応2		農	山崎(正)	
	農産食品製造学	応	2						2				講義	応2	5	農	小川	
	遺伝子工学	応	2						2				講義	応2		農	河野	
	微生物機能開発学	応	2						2				講義	応2		理	吉田(ナ)	
	学外研修	応		1						1			実習	共9	7		関係教員	
	宮崎の地域活性化演習 (Regional-vitalization Exercise for Miyazaki)	応		1						1			演習	共4	2,3 4,5 7		関係教員	集中
	畜産食品科学	畜		2						2			講義	応2	5		河原 仲西	
	バイオサイエンス (Bioscience)	応		2							2		講義	応2			関係教員	
	科学英語	応		2							2		講義	共5	1,2 7		関係教員	集中
生物学概論 (応用生物科学)	応		2			2						講義			理	関係教員	集中****	

(注意) 科目の担当教員は変更になる場合がある。

\* 学部共通科目の選択科目は合計4単位を履修しなければならない。

\*\* 専門科目の選択実験・実習科目は1単位を履修しなければならない。

\*\*\* 専門科目の選択科目は合計23単位以上を履修しなければならない。また、応用生物科学科のカリキュラム表に記載された科目以外に、他の学科及びグローバル人材育成学部教育プログラムコア科目群に記載された科目ならびに他の学部との単位互換が認められた科目の中から10単位までを卒業要件の専門科目(選択科目)の単位に含めることができる。

\*\*\*\* この科目は卒業に必要な単位に含めることはできない。

海洋生物環境学科

区分	授業科目	開講	単位数		1年次		2年次		3年次		4年次		授業形態	D P	A L	教職科目	担当教員	備考
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後						
学部 共通 科目	基礎植物学	共		2	2								講義	農1			関係教員	*学部共通科目の選択科目から3科目(6単位)取得すること。
	基礎動物学	共	2		2								講義	農1			関係教員	
	基礎化学	共	2		2								講義	農1			関係教員	
	基礎遺伝学	共		2	2								講義	農1			関係教員	
	基礎生態学	共	2			2							講義	農1			関係教員	
	基礎微生物学	共		2		2							講義	農1			関係教員	
	スマートアグリ入門	共		2		2							講義	農1			関係教員	
専門 基盤 科目	海洋生物環境学実習	海	1		1								実習	海1	4, 7	理	関係教員	集中
	海洋生物環境学概論 (Introduction to Marine Biology and Environmental Sciences)	海	2		2								講義	海1	7	水	関係教員	一部集中
	海洋生物環境学基礎実験	海	1			1							実験	海1	7	理	関係教員	
	環境微生物学 (Environmental Microbiology)	海	2				2						講義	海1		水	ウルバンチック	
	海洋生物分類学	海	2				2						講義	海1		理	内田 深見	
	海洋生物探査講座	海		2				2					実習	海1			関係教員	集中
専門 必修 科目	水域生物生理学	海	2			2							講義	海1		水	宮西	
	水生生物解剖分類学実験	海	1				1						実験	海1	6	水	深見 宮西 和田	
	基礎水域化学	海	2				2						講義	海1		理	田中(竜)	
	魚類学	海	2				2						講義	海1		理	長野 村瀬	
	マリンバイオテクノロジー	海	2				2						講義	海1		水	林(雅)	
	魚類生理学	海	2				2						講義	海1		水	内田	
	基礎増養殖学	海	2				2						講義	海1		理	長野	
	水産化学	海	2					2					講義	海1		理	田中(竜)	

区分	授業科目	開講	単位数		1年次		2年次		3年次		4年次		授業形態	D P	A L	教職科目	担当教員	備考	
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後							
専門科目	水族生理学実験	海	1				1						実験	海1	3,5 6,7	水	内田 宮西	集中	
	水産化学実験 I	海	1				1						実験	海1	7	理	田中(竜) 田岡 長野 林(康)	集中	
	水生生物生体防御学	海	2				2						講義	海1		水	吉田(照)		
	サンゴ礁学	海	2				2						講義	海1		理	深見		
	水産食品微生物学	海	2				2						講義	海1		水	田岡		
	海洋代謝生化学	海	2						2				講義	海1		水	林(雅)		
	海洋微生物学実験	海	1						1				実験	海1	7	水	吉田(照) 西木	集中	
	専門英語	海	2							2				講義	海4	7		関係教員	
	卒業論文	海	6								6			海3	1,2 3,4 5,6 7		関係教員		
	マリンダイビング論	海		1			1							講義	海1		水	非常勤講師	集中
	水族館学	海		1			1							講義	海1	7	水	非常勤講師	集中
	食品化学	応		2					2					講義	海1	5		河原 横山	
	浅海生態学	海		2			2							講義	海1		理	内田 村瀬	一部集中
	海洋生物学実習	海		2			2							実習	海1	4,6 7	理	関係教員	集中
	無機化学	応		2				2						講義	農1			引間 山本(昭)	
	組織学	獣		2				2						講義	農1			保田 脇谷	
	水産法規	海		2					2					講義	海1			非常勤講師	集中(隔年)
	藻類分類学	海		2					2					講義	海1			非常勤講師	集中(隔年)
	水族生産学体験講座	海		2						2				実験 実習	海1	2,4 7	水	関係教員	集中
水産飼料学 (Fishery Feed Science)	海		2					2					講義	海1		水	田岡		
水産食品科学	海		2	2									講義	海1		水	林(雅)		
魚病学	海		2					2					講義	海1		水	吉田(照)		
水族病原微生物学	海		2					2					講義	海1		理	吉田(照)		



区分	授業科目	開講	単位数		1年次		2年次		3年次		4年次		授業形態	D P	A L	教職科目	担当教員	備考
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後						
専 門 科 目	水産化学実験Ⅱ	海		1						1			実験	海1	7	理	林(雅) 田中(竜) 田岡 長野 林(康)	集中
	海洋生物生産学	海		2						2			講義	海1		水	吉田(照)	
	昆虫生態学	植		2						2			講義	農1	5		安達	
	水文・気象学	森		2						2			講義	農1			竹下(伸) 篠原	
	森林生態学	森		2						2			講義	農1			伊藤 平田	
	分析化学	応		2						2			講義	農1			佐伯	
	生物化学Ⅰ	応		2							2		講義	農1			榊原(陽)	
	食品衛生学	応		2						2			講義	農1			引間 河原 井口	
	公衆衛生学	応		2						2			講義	農1			河野	
	水産科教育法	海		4						4			講義	海1		水	吉田(照)	
	漁業学概論	海		2							2		講義	海1	7	水	非常勤講師	集中(隔年)
	水産経済学	海		2							2		講義	海1			非常勤講師	集中(隔年)
	水産遺伝子工学実験	海		1							1		実験	海1	7	水	吉田(照) 林(雅) 西木	集中
	水産増養殖学	海		2							2		講義	海1		水	内田 長野 田岡	
	海洋生物遺伝学	海		2							2		講義	海1		理	内田 深見	
	海洋分子科学 (Marine Molecular Science)	海		2							2		講義	海1		水	林(康)	
	微生物との共生 (Microbial Symbiosis)	海		2							2		講義	海1		理	ウルバンチク	
	魚類生態環境学	海		2							2		講義	海1			村瀬	集中
	遺伝子工学	応		2							2		講義	農1			河野	
	植物バイオテクノロジー	畜		2								2	講義	農1	2		権藤 田中(秀)	
	水産食品製造学	応		2								2	講義	農1			引間	
	化学概論 (海洋生物環境学)	海		2							2		講義			理	田中(竜) 田岡 長野	集中***
	生物学概論 (海洋生物環境学)	海		2							2		講義			理	内田 深見 宮西	集中***

(注意) 科目の担当教員は変更になる場合がある。

\* 学部共通科目の選択科目は合計6単位を履修しなければならない。

\*\* 専門基盤科目及び専門科目の選択科目から合計38単位以上取得しなければならない。また、本学科のカリキュラム表に記載された科目以外に、他の学科及びグローバル人材育成学部教育プログラムコア科目群に記載された科目に記載された科目ならびに他の学部との単位互換が認められた科目の中から20単位までを限度として卒業要件の専門科目(選択科目)の単位に含めることができる。

\*\*\* この科目は卒業に必要な単位に含めることはできない。

畜産草地科学科

区分	授業科目	開講	単位数		1年次		2年次		3年次		4年次		授業形態	D P	A L	教職科目	担当教員	備考	
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後							
学部 共通 科目	基礎植物学	共	2		2								講義	農1			関係教員	*学部共通 科目の選択 科目から2 科目(4単 位)取得す ること。	
	基礎動物学	共	2		2								講義	農1			関係教員		
	基礎化学	共	2		2								講義	農1			関係教員		
	基礎遺伝学	共	2		2								講義	農1			関係教員		
	基礎生態学	共		2		2							講義	農1			関係教員		
	基礎微生物学	共		2		2							講義	農1			関係教員		
	スマートアグリ入門	共		2		2							講義	農1			関係教員		
専門 基盤 科目	必修 科目	畜産草地科学序説	畜	2		2							講義	畜4		農	関係教員		
		畜産草地科学基礎実習	畜	1		1								実習	畜4		理	関係教員	集中
		草地・草原環境保全・ 修復学	畜	2		2								講義	畜1	5	理	石井 井戸田 飛佐	集中
		動物行動学	畜	2		2								講義	畜2		理	坂本	
		畜産草地科学基礎化学	畜	2			2							講義	農1		理	續木 高橋	
		畜産草地科学概論	畜	2			2							講義	畜4		農	関係教員	
		畜産草地科学基礎実験	畜	1			1							実験	畜4		理	関係教員	
	選択 科目	動物生理学 I	獣		2	2								講義	畜2			丸山	
		植物生理学	植		2		2							講義	畜1	5		稲葉(丈)	
		生命化学概論	応		2			2						講義	畜2			榊原(陽) 吉田(十) 佐伯 山崎(正) 仲西	
専門 科目	必修 科目	家畜栄養学	畜	2			2						講義	畜1		農	高橋		
		牧場実習I	畜	1			1							実習	畜4	3,4 6,7	農	小林 石垣	集中
		環境草地学	畜	2			2							講義	畜1		農	飛佐	

区分	授業科目	開講	単位数		1年次		2年次		3年次		4年次		授業形態	D P	A L	教職科目	担当教員	備考	
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後							
専 門 科 目	必 修 科 目	飼料作物学	畜	2			2						講義	畜1	5	農	石井		
		動物環境管理学	畜	2			2							講義	畜2		農	徳永	
		草地システム生態学	畜	2				2						講義	畜1		理	安在	
		畜産食品科学	畜	2				2						講義	畜4			河原 仲西	
		草類利用学	畜	2				2						講義	畜1		理	井戸田 新美	
		動物生殖生理学	畜	2					2					講義	畜2		農	續木	
		動物育種学	畜	2					2					講義	畜2	5	農	井上(慶)	
		動物生殖制御学	畜	2						2				講義	畜4		理	續木	
		専門英語	畜	2							2			講義	畜5	1,2 7		関係教員	
		卒業論文	畜	6							6				畜5	7		関係教員	産業動物コンサル タント育成プロ グラムが適用 されない学生は 卒業論文を履修 すること。
	産 業 動 物 コ ン サ ル タ ン ト 育 成 プ ロ グ ラ ム 必 修 科 目	学外体験実習	畜	2					2					実習	畜4	1,4 7		関係教員	
		草地・飼料作物管理・ 評価実習	畜	1					1					実習	畜1	1,4		石井 飛佐 新美	***** 産業動物コン サルタント育 成プログラム が適用される 学生は必修と する。同プロ グラムが適用 される学生 は、卒業論文 ではなく、卒 業研修の単位 を修得するこ と。 同プログラム が適用されな い学生にあっ ては、家畜飼 養管理学を除 く科目は卒業 に必要な単位 に含めること はできない。
		畜産簿記学	畜	1					1					講義	畜4	1		山本(直) 石井 非常勤講師	
		産業動物経営学	畜	1					1					講義				山本(直) 石井 非常勤講師	
		産業動物情報解析演習	畜	1					1					演習	畜2	1		徳永	
		家畜飼養管理学	畜	2					2					講義	畜2	1	農	坂本 徳永	
		市場動態調査実習	畜	1							1			実習	畜2	1		小林 石垣	
		家畜登録審査実習	畜	1							1			実習	畜2	1,4		小林 徳永	
		卒業研修	畜	6						6					畜4	1,4 7		関係教員	
選 択 科 目	土壌管理学概論	畜		2		2							講義	農1		理	井戸田		
	栽培学	植		2		2							講義	農1	5		鉄村 松尾		
	植物バイオテクノロジー	畜		2		2							講義	畜3	2	農	権藤 田中(秀)		
	動物育種資源学	畜		2		2							講義	畜2	5	理	石田 井上(慶)		
	動物環境管理学実験	畜		1		1							実験	畜2	3,4 6	農	坂本 徳永		
	草類遺伝資源・育種学実験	畜		1		1							実験	畜3	6,7	農	権藤 田中(秀)		
	衛生微生物学	畜		2		2							講義	畜4	7	理	井口		

区分	授業科目	開講	単位数		1年次		2年次		3年次		4年次		授業形態	D P	A L	教職科目	担当教員	備考
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後						
専門科目	食品化学	応		2			2						講義	畜4	5		河原 横山	
	食品製造学	応		2			2						講義	畜4			山崎(正) 小川	
	水文・気象学	森		2			2						講義	畜3			竹下(伸) 篠原	
	草地生産・生態学実験	畜		2			2						実験	畜1	4,6 7	農	石井 飛佐 井戸田 安在	
	草地学特別講義	畜		2			2						講義	畜1			非常勤講師	集中(隔年)
	草地畜産論	畜		2			2						講義	畜1		農	石垣	
	飼料学	畜		2			2						講義	畜1		農	高橋	
	家畜栄養学実験	畜		1			1						実験	畜1	3,7	農	高橋	
	動物遺伝育種学実験	畜		1			1						実験	畜2	4,6 7		石田 井上(慶)	一部集中
	草類利用学実験	畜		1			1						実験	畜1	3,7	理	新美	
	草地環境科学特別講義	畜		2			2						講義	畜1			非常勤講師	集中(隔年)
	分析化学	応		2			2						講義	畜3			佐伯	
	食品衛生学	応		2					2				講義	畜4			引間 河原 井口	
	地域環境保全論	畜		2					2				講義	畜4		理	井戸田	
	実験動物学	獣		2					2				講義	畜5			越本 篠原(明) 丸山	
	動物解剖学実習	獣		1					1				実習	畜2			保田 脇谷	集中
	農業経済学	植		2					2				講義	畜4	7		狩野	
	公衆衛生学	応		2					2				講義	畜3			河野	
	動物解剖学Ⅰ	獣		2					2				講義	畜2			保田 脇谷	
	動物解剖学Ⅱ	獣		2					2				講義	畜2			保田 脇谷	
	畜産食品製造学	応		2					2				講義	畜4			仲西	
無機化学	応		2						2			講義	畜1			引間 山本(昭)		
動物生殖生理学実験	畜		1						1			実験	畜2		理	續木	一部集中	
動物生理学Ⅱ	獣		2						2			講義	畜2			丸山		

区分	授業科目	開講	単位数		1年次		2年次		3年次		4年次		授業形態	D P	A L	教職科目	担当教員	備考
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後						
専 門 科 目	畜産学特別講義Ⅰ	畜		2			2						講義	畜4			非常勤講師	集中(隔年)
	畜産学特別講義Ⅱ	畜		2			2						講義	畜4			非常勤講師	集中(隔年)
	家畜飼養管理学	畜		2					2				講義	畜2	1	農	坂本 徳永	
	動物衛生学	獣		2					2				講義	畜2	5		上村	
	牧場実習Ⅱ (Practice for Livestock FarmingⅠ)	畜		1					1				実習	畜4	4	農	小林 石垣	集中
	Tropical Forage Science and Biotechnology	畜		2						2			講義	畜1	2	理	石井 田中(秀)	
	薬理学Ⅰ	獣		2						2			講義	畜2			池田 園田	
	草地植生管理学	畜		2						2			講義	畜1		農	飛佐	
	放牧生態学	畜		2						2			講義	畜2	3	理	安在	
	動物福祉学	畜		2						2			講義	畜5		農	関係教員	
	野生動物・動物園学	畜		2						2			講義	畜5		理	坂本	集中
	動物衛生疾病学	獣		2						2			講義	畜2			関係教員	
	有機化学	応		2						2			講義	畜2			服部	
	食品分析化学	応		2						2			講義	畜4			山崎(正) 黒木 横山	
	食品保蔵化学	応		2						2			講義	畜4			河原	
	実験動物学各論	畜		1					1				講義	畜5	1, 2		越本 篠原(明) 坂本	****
	実験動物学実習	畜		1							1		実習	畜5	1, 2 3		越本 篠原(明) 名倉	集中****
	毒性学	獣		2							2		講義	畜2	2		池田 園田	
生物学概論 (畜産草地科学)	畜		2				2					講義			理	関係教員	集中 *****	

(注意) 科目の担当教員は変更になる場合がある。

\* 学部共通科目の選択科目は合計4単位を履修しなければならない。

\*\* 専門基盤科目の選択科目は合計2単位を履修しなければならない。

\*\*\* 専門科目の選択科目は合計37単位(産業動物コンサルタント育成プログラムでは27単位)以上を履修しなければならない。また、本学科のカリキュラム表に記載された科目以外に、他の学科及びグローバル人材育成学部教育プログラムコア科目群に記載された科目に記載された科目ならびに他の学部との単位互換が認められた科目の中から8単位までを限度として卒業要件の専門科目(選択科目)の単位として含めることができる。

\*\*\*\* この科目は、実験動物一級技術者の資格試験受験に必修であることを示す。ただし、卒業に必要な単位に含めることはできない。

\*\*\*\*\* この科目は、産業動物コンサルタント育成プログラムを適用する学生にあっては、必修とする。それ以外の学生にあっては、卒業に必要な単位に含めることはできない。

\*\*\*\*\* この科目は卒業に必要な単位に含めることはできない。

獣医学科

区分	授業科目	開講	単位数		1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次		授業形態	D P	A L	担当教員	備考
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後					
学部 共通 科目	基礎植物学	共		2	2												講義	農1		関係教員	*学部共通科目の 選択科目 から1科 目(2単 位)取得 すること。
	基礎動物学	共		2	2												講義	農1		関係教員	
	基礎化学	共		2	2												講義	農1		関係教員	
	基礎遺伝学	共		2	2												講義	農1		関係教員	
	基礎生態学	共	2			2											講義	農1		関係教員	
	基礎微生物学	共		2		2											講義	農1		関係教員	
	基礎環境資源経済学	共		2		2											講義	農1		関係教員	
	スマートアグリ入門	共		2		2											講義	農1		関係教員	
専門 基盤 科目	畜産草地科学概論	畜		2		2											講義	農1		関係教員	
	家畜栄養学	畜		2			2										講義	農1		高橋	
	動物育種資源学	畜		2	2												講義	農1		石田 井上(慶)	
	環境草地学	畜		2			2										講義	農1		飛佐	
	動物環境管理学	畜		2			2										講義	農1	7	徳永	
	飼料作物学	畜		2			2										講義	農1		石井	
	畜産草地科学序説	畜		2	2												講義	農1		関係教員	
	動物育種学	畜		2					2								講義	農1		井上(慶)	
	技術者倫理	応		2						2							講義	共1		非常勤講師 山本(昭)	集中

区分	授業科目	開講	単位数		1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次		授業形態	D P	A L	担当教員	備考
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後					
基礎獣医学	獣医学概論・獣医学史	獣	2			2											講義	獣1	7	関係教員	
	動物福祉学	畜	2							2							講義	共1		関係教員	
	獣医畜産法規	獣	2								2						講義	獣2	7	関係教員	
	解剖学Ⅰ	獣	2		2												講義	獣1		保田 脇谷	
	解剖学Ⅱ	獣	2		2												講義	獣1		保田 脇谷	
	解剖学実習	獣	2				2										実習	獣1	2, 3 6, 7	保田 脇谷	
	組織学	獣	2			2											講義	獣1		保田 脇谷	
	組織学実習	獣	1					1									実習	獣1	2, 6	保田 脇谷	
	発生学	獣	2			2											講義	獣1	2	新井	
	動物生理学Ⅰ	獣	2		2												講義	獣1		丸山	
	動物生理学Ⅱ	獣	2			2											講義	獣1		丸山	
	動物生理学Ⅲ	獣	2			2											講義	獣1		丸山	
	生理学実験実習	獣	1							1							実験 実習	獣1		丸山	
	動物遺伝育種学	獣	2		2												講義	獣1		新村	
	獣医遺伝子学	獣	2				2										講義	獣1		片山	
	生理化学	獣	2					2									講義	獣1	2	新井	
	生理化学実験実習	獣	1							1							実験 実習	獣1	2, 3 6, 7	新井 片山	
	薬理学Ⅰ	獣	2					2									講義	獣1	2, 7	池田 園田	
	薬理学Ⅱ	獣	2						2								講義	獣1	2, 7	池田 園田	
	薬理学実験	獣	1							1							実験	獣1	2, 7	池田 園田	
	獣医動物行動学	獣	2							2							講義	獣1	2, 5 7	丸山	
実験動物学	獣	2					2									講義	獣1		越本 篠原(明) 丸山		
獣医実験動物学実習	獣	1							1							実習	獣1		丸山 越本 篠原(明)		
放射線生物学	獣	2								2						講義	獣1		佐藤(礼) 佐藤(裕)		

区分	授業科目	開講	単位数		1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次		授業形態	D P	A L	担当教員	備考
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後					
病態獣医学	動物病理学Ⅰ	獣	2					2									講義	獣1		平井	
	動物病理学Ⅱ	獣	2						2								講義	獣1		平井	
	動物病理学Ⅲ	獣	2							2							講義	獣1		平井	
	動物病理学実習Ⅰ	獣	1							1							実習	獣1		平井 福家	
	動物病理学実習Ⅱ	獣	1									1					実習	獣1		平井 福家	
	免疫学	獣	2					2									講義	獣1		保田 岡林 齊藤	
	微生物学総論	獣	2					2									講義	獣1		岡林 齊藤	
	微生物学各論Ⅰ	獣	2					2									講義	獣1		岡林 齊藤	
	微生物学各論Ⅱ	獣	2						2								講義	獣1		岡林 齊藤	
	微生物学実習	獣	2							2							実習	獣1		岡林 齊藤	
	家禽疾病学	獣	2							2							講義	獣1		上村	
	魚類学	海	2						2								講義	獣1		長野 村瀬	
	魚病学	海	2								2						講義	獣1		吉田(照)	
	動物感染症学	獣	2									2					講義	獣1		関口	
	動物感染症学実習	獣	1									1					実習	獣1	3	関口	
	寄生虫学	獣	2						2								講義	獣1	2	吉田(彩) 入江	
	臨床寄生虫病学	獣	1											1			講義	獣1	2	吉田(彩) 入江	
寄生虫学実習	獣	1						1								実習	獣1	2,3 6	吉田(彩) 入江		
応用獣医学	毒性学	獣	2						2								講義	獣1	2,7	池田 園田	
	毒性学実験	獣	1						1								実験	獣1	2,7	池田 園田	
	動物衛生学	獣	2						2								講義	獣1	5	上村	
	動物衛生学実習	獣	1								1						実習	獣3	3,4 7	上村 新美 小林	
	獣医公衆衛生学Ⅰ	獣	2								2						講義	獣3		山田	
	獣医公衆衛生学Ⅱ	獣	2									2					講義	獣3		武田 山田	
	公衆衛生行政学	獣	1										1				講義	獣3		山田	
	獣医公衆衛生学実習	獣	1										1				実習	獣3		山田	



区分	授業科目	開講	単位数		1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次		授業形態	D P	A L	担当教員	備考
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後					
応用獣医学	獣医疫学	獣	2									2					講義	獣1		関口	
	人獣共通感染症学実習	獣	1										1				実習	獣1		目堅	
	野生動物医学	獣	2				2										講義	獣1		非常勤講師 関係教員	集中
臨床獣医学	獣医臨床学総論Ⅰ	獣	2						2								講義	獣1	5	永延 日高 佐藤(礼) 金子	
	獣医臨床学総論Ⅱ	獣	2							2							講義	獣1		永延 金子	
	獣医臨床学各論Ⅰ	獣	2								2						講義	獣1		永延 日高 佐藤(礼) 佐藤(裕)	
	獣医臨床学各論Ⅱ	獣	2								2						講義	獣1		永延 日高 大菅	
	獣医臨床学各論Ⅲ	獣	2									2					講義	獣1		永延 大菅	
	獣医診断治療学Ⅰ	獣	2										2				講義	獣1		日高 佐藤(裕)	
	獣医診断治療学Ⅱ	獣	2										2				講義	獣1	5	日高 佐藤(裕) 金子	
	獣医診断治療学Ⅲ	獣	2											2			講義	獣1		日高 佐藤(裕)	
	産業動物臨床学	獣	2									2					講義	獣1		佐藤(礼)	
	臨床繁殖学Ⅰ	獣	2									2					講義	獣1		大澤 北原	
	臨床繁殖学Ⅱ	獣	2									2					講義	獣1		大澤 北原	
	馬臨床学	獣	1								1						講義	獣1		非常勤講師 関係教員	集中
	小動物内科学実習	獣	1									1					実習	獣1		佐藤(裕) 大菅	
	獣医外科学実習Ⅰ	獣	1									1					実習	獣1	5	日高 井上(賀) 黒田	
	獣医外科学実習Ⅱ	獣	1										1				実習	獣1	4	日高 井上(賀) 黒田	
	産業動物・画像診断学実習	獣	1										1				実習	獣1		佐藤(礼) 佐藤(裕) 大菅	
獣医診断治療学実習	獣	1											1			実習	獣1	3,7	佐藤(裕) 金子		
臨床繁殖学実習	獣	1									1					実習	獣1		大澤 北原		

区分	授業科目	開講	単位数		1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次		授業形態	D P	A L	担当教員	備考
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後					
その他	獣医解剖学専修実験Ⅰ	獣	1								1						実験	獣1	1	保田脇谷	*
	獣医解剖学専修実験Ⅱ	獣	1									1					実験	獣1	1	保田脇谷	*
	獣医生理学専修実験Ⅰ	獣	1								1						実験	獣1	1	丸山	*
	獣医生理学専修実験Ⅱ	獣	1									1					実験	獣1	1	丸山	*
	獣医機能生化学専修実験Ⅰ	獣	1								1						実験	獣3	1,2 3,6 7	新井片山	*
	獣医機能生化学専修実験Ⅱ	獣	1									1					実験	獣3	1,2 3,6 7	新井片山	*
	獣医薬理学専修実験Ⅰ	獣	1								1						実験	獣3	1,2 7	池田園田	*
	獣医薬理学専修実験Ⅱ	獣	1									1					実験	獣3	1,2 7	池田園田	*
	獣医病理学専修実験Ⅰ	獣	1								1						実験	獣1	1,7	平井福家	*
	獣医病理学専修実験Ⅱ	獣	1									1					実験	獣1	1,7	平井福家	*
	産業動物衛生学専修実験Ⅰ	獣	1								1						実験	獣1	1,2	上村	*
	産業動物衛生学専修実験Ⅱ	獣	1									1					実験	獣1	1,2	上村	*
	獣医微生物学専修実験Ⅰ	獣	1								1						実験	獣1	1	岡林齊藤	*
	獣医微生物学専修実験Ⅱ	獣	1									1					実験	獣1	1	岡林齊藤	*
	獣医公衆衛生学専修実験Ⅰ	獣	1								1						実験	獣1	1,2 7	山田	*
	獣医公衆衛生学専修実験Ⅱ	獣	1									1					実験	獣1	1,2 7	山田	*
	産業動物伝染病防疫学専修実験Ⅰ	獣	1								1						実験	獣1	1,2	関口	*
	産業動物伝染病防疫学専修実験Ⅱ	獣	1									1					実験	獣1	1,2	関口	*
	獣医遺伝情報学専修実験Ⅰ	獣	1								1						実験	獣1	1,2 7,8	新村	*
	獣医遺伝情報学専修実験Ⅱ	獣	1									1					実験	獣1	1,2 7,8	新村	*
	獣医寄生虫病学専修実験Ⅰ	獣	1								1						実験	獣1	1,2	吉田(彩) 入江	*
	獣医寄生虫病学専修実験Ⅱ	獣	1									1					実験	獣1	1,2	吉田(彩) 入江	*
	獣医内科学専修実験Ⅰ	獣	1								1						実験	獣3	1,2	大菅	*
	獣医内科学専修実験Ⅱ	獣	1									1					実験	獣3	1,2	大菅	*
産業動物内科学専修実験Ⅰ	獣	1								1						実験	獣3	1,2	佐藤(礼)	*	
産業動物内科学専修実験Ⅱ	獣	1									1					実験	獣3	1,2	佐藤(礼)	*	

区分	授業科目	開講	単位数		1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次		授業形態	D P	A L	担当教員	備考
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後					
その他	獣医外科学専修実験Ⅰ	獣	1								1						実験	獣1	1,4	日高 井上(賀) 黒田	*
	獣医外科学専修実験Ⅱ	獣	1									1					実験	獣1	1,4	日高 井上(賀) 黒田	*
	産業動物臨床繁殖学専修実験Ⅰ	獣	1								1						実験	獣1	1	大澤 北原	*
	産業動物臨床繁殖学専修実験Ⅱ	獣	1									1					実験	獣1	1	大澤 北原	*
	獣医臨床放射線学専修実験Ⅰ	獣	1								1						実験	獣3	1,2 7	佐藤(礼) 佐藤(裕)	*
	獣医臨床放射線学専修実験Ⅱ	獣	1									1					実験	獣3	1,2 7	佐藤(礼) 佐藤(裕)	*
	動物病院専修実験Ⅰ	獣	1								1						実験	獣3	1,2 3,4 6,7	永延 金子	*
	動物病院専修実験Ⅱ	獣	1									1					実験	獣3	1,2 3,4 6,7	永延 金子	*
	畜産学実習	獣	1							1							実習	獣1		小林 石垣 上村	集中
	放牧生態学	畜	2								2						講義	獣1		安在	
	欧文獣医学演習Ⅰ	獣	1									1					演習	獣1		関係教員	*
	欧文獣医学演習Ⅱ	獣	1										1				演習	獣1		関係教員	*
	伴侶動物参加型臨床実習Ⅰ	獣	2											2			実習	獣3	1,2 3,4 7	関係教員	
	伴侶動物参加型臨床実習Ⅱ	獣	2												2		実習	獣3	1,2 3,4 7	関係教員	
	産業動物参加型臨床実習	獣	2											2			実習	獣3		関係教員	
	獣医臨床特別講義	獣	2												2		講義	獣1		関係教員	集中(隔年)
	獣医インターンシップ	獣	1											1			実習	獣1		関係教員	
	卒業論文	獣	8												8			共4	7	関係教員	*
海外獣医学研修	獣		1													実習	獣1		関係教員	**	
アドバンス科目	アドバンス産業動物学Ⅱ	獣	1										1			講義	獣1		平井 福家	アドバンス 科目は8単位 中4単位 以上を選択	
	アドバンス産業動物学Ⅲ	獣	1											1		講義 演習	獣1		大澤 日高 佐藤(礼) 北原		
	アドバンス応用獣医学Ⅰ	獣	1								1					講義 演習	獣1		関係教員		
	アドバンス応用獣医学Ⅱ	獣	1									1				講義 演習	獣1		関口 山田		
	アドバンス伴侶動物学Ⅰ	獣	1										1			講義 演習	獣1		佐藤(裕) 永延		
	アドバンス伴侶動物学Ⅱ	獣	1											1		講義	獣1	5	関係教員		
アドバンス野生動物獣医学	獣	1											1		講義	獣1		永延 保田 三輪 上村			

(注意)科目の担当教員は変更になる場合がある。

備考欄に \*印を付した専修実験、欧文獣医学演習及び卒業論文は、所属の研究室又は動物病院において修得するものとする。

備考欄に \*\*印を付した科目は卒業要件に含めない。

# 授業科目担当教員（関係教員）一覧表

※（ ）は協力教員として担当

## 学部共通科目

授業科目	担 当 教 員
基礎植物学	鉄村・石井・湯浅・雉子谷・高木・圖師・飛佐・稲葉(丈)・本勝 平野・増田・稲葉(靖)・山本(昭)・松尾・霧村
基礎動物学	大澤・保田・内田・平井・坂本・宮西・丸山 佐藤(礼)・目堅・井上(慶)・新村・徳永
基礎化学	榊原(陽)・佐伯・續木・山崎(正)・江藤・田岡・圖師 井上(謙)・仲西・高橋・長野・服部・林(康)
基礎遺伝学	池田・國武・石田・佐藤(裕)・井口・岡林・脇谷・園田 新井・新村・西木・権藤・田中(秀)
基礎生態学	西脇・伊藤・日高・深見・井戸田・北原・村瀬・安達・和田
基礎微生物学	竹下(稔)・吉田(ナ)・吉田(照)・河野・岡林 吉田(彩)・ウルバンチク・田岡・目堅・齊藤・山田・上村
基礎環境資源経済学	藤掛・山本(直)・狩野
スマートアグリ入門	槐島・木下・狩野・多炭・光田・引間・林(雅)・田中(竜)・ 関口・安在・中園・榊原(陽)・徳永

植物生産環境科学科

授業科目	担当教員
植物生産環境科学概論	山本(直)・鉄村・湯浅・竹下(稔)・圖師・槐島・木下・狩野 稲葉(丈)・本勝・増田・稲葉(靖)・日吉・霧村・安達・(宇田津)・(松尾)
植物生産環境科学 基礎実験・実習Ⅰ・Ⅱ	山本(直)・鉄村・湯浅・竹下(稔)・圖師・槐島・木下・狩野 稲葉(丈)・本勝・増田・稲葉(靖)・日吉・霧村・安達・(宇田津)・(松尾)
農場実習Ⅰ・Ⅱ	鉄村・山本(直)・湯浅・竹下(稔)・圖師・槐島・木下・稲葉(丈) 狩野・本勝・増田・稲葉(靖)・日吉・霧村・安達・(宇田津)・(松尾)
植物生産科学実験Ⅰ	鉄村・湯浅・竹下(稔)・稲葉(丈)・圖師・本勝・増田・稲葉(靖) 霧村・安達
植物生産科学実験Ⅱ	鉄村・湯浅・竹下(稔)・稲葉(丈)・圖師・本勝・増田・稲葉(靖) 霧村・安達
学外体験実習・ スマート農業インター ンシップ	山本(直)・鉄村・湯浅・竹下(稔)・圖師・槐島・木下・狩野 稲葉(丈)・本勝・増田・稲葉(靖)・日吉・霧村・安達・(宇田津)・(松尾)
グローバルアグリ 体験講座	山本(直)・鉄村・湯浅・竹下(稔)・圖師・槐島・木下・狩野 稲葉(丈)・本勝・増田・稲葉(靖)・日吉・霧村・安達・(宇田津)・(松尾)
専門英語	山本(直)・鉄村・湯浅・竹下(稔)・圖師・槐島・木下・狩野 稲葉(丈)・本勝・増田・稲葉(靖)・日吉・霧村・安達・(宇田津)・(松尾)
フィールド実践実習 (農場)	松尾・(國武)・(鉄村)・(竹下(稔))・(圖師)・(狩野)・(山本(直)) (槐島)・(佐伯)・(宇田津)・(木下)・(日吉)・(竹下(伸))・(本勝)・(増田)・ (霧村)・(安達)
生物学概論 (植物生産環境科学)	竹下(稔)・鉄村・湯浅・圖師・本勝・稲葉(丈)・増田・稲葉(靖)・松尾・霧村・ 安達
卒業論文	指導教員

森林緑地環境科学科

授業科目	担当教員
基礎数学 (森林緑地環境科学)	清水・中園・竹下(伸)・櫻井・篠原
森林緑地環境科学概論	清水・伊藤・藤掛・多炭・雉子谷・光田・中園・竹下(伸)・櫻井 篠原・平田・津山・(西脇)・(高木)
森林緑地フィールド 実習Ⅰ・Ⅱ	清水・伊藤・藤掛・多炭・雉子谷・光田・中園・竹下(伸)・櫻井 篠原・平田・津山・(西脇)・(高木)
基礎物理学 (森林緑地環境科学)	清水・多炭・中園・竹下(伸)・櫻井・篠原
専門英語	清水・伊藤・藤掛・多炭・雉子谷・光田・中園・竹下(伸)・櫻井 篠原・平田・津山・(高木)
森林緑地フィールド 特別実習	清水・伊藤・藤掛・多炭・雉子谷・光田・中園・竹下(伸)・櫻井 篠原・平田・津山・(高木)
学外研修	清水・伊藤・藤掛・多炭・雉子谷・光田・中園・竹下(伸)・櫻井 篠原・平田・津山・(高木)
卒業論文	指導教員

応用生物科学科

授業科目	担 当 教 員
入門セミナーⅠ	國武・吉田(ナ)・榊原(陽)・佐伯・河原・山崎(正)・江藤・引間・仲西 井上(謙)・河野・平野・山本(昭)・服部・黒木・清・横山・小川
入門セミナーⅡ	國武・吉田(ナ)・榊原(陽)・佐伯・河原・山崎(正)・江藤・引間・仲西 井上(謙)・河野・平野・山本(昭)・服部・黒木・清・横山・小川
生物機能科学実験	國武・吉田(ナ)・榊原(陽)・佐伯・江藤・井上(謙)・平野・山本(昭) 服部・黒木・清
食品機能化学実験	河原・山崎(正)・引間・仲西・河野・横山・小川
バイオサイエンス	國武・吉田(ナ)・榊原(陽)・佐伯・江藤・井上(謙)・平野・山本(昭) 服部・黒木・清
科学英語	國武・吉田(ナ)・榊原(陽)・佐伯・河原・山崎(正)・江藤・引間・仲西 井上(謙)・河野・平野・山本(昭)・服部・黒木・清・横山・小川
学外研修	國武・吉田(ナ)・榊原(陽)・佐伯・河原・山崎(正)・江藤・引間・仲西 井上(謙)・河野・平野・山本(昭)・服部・黒木・清・横山・小川
宮崎の地域活性化演習	國武・吉田(ナ)・榊原(陽)・河原・佐伯・山崎(正)・江藤・引間・仲西 河野・井上(謙)・平野・山本(昭)・服部・黒木・清・横山・田中(竜) 圖師・本勝・小川
生物学概論 (応用生物科学)	河原・山崎(正)・山本(昭)・井上(謙)・平野
卒業論文	指導教員

海洋生物環境学科

授業科目	担 当 教 員
海洋生物環境学概論	吉田(照)・林(雅)・田中(竜)・深見・長野・田岡 ウルバンチク・林(康)・村瀬・宮西・西木・和田・(内田)
海洋生物環境学実習	吉田(照)・林(雅)・田中(竜)・深見・長野・田岡 ウルバンチク・林(康)・村瀬・宮西・西木・和田・(内田)
海洋生物環境学 基礎実験	吉田(照)・林(雅)・田中(竜)・深見・長野・田岡 ウルバンチク・林(康)・村瀬・宮西・西木・和田・(内田)
海洋生物学実習	吉田(照)・林(雅)・田中(竜)・深見・長野・田岡 ウルバンチク・林(康)・村瀬・宮西・西木・和田・(内田)
海洋生物探査講座	吉田(照)・林(雅)・田中(竜)・深見・長野・田岡 ウルバンチク・林(康)・村瀬・宮西・西木・和田・(内田)
専門英語	吉田(照)・林(雅)・田中(竜)・深見・長野・田岡 ウルバンチク・林(康)・村瀬・宮西・西木・和田・(内田)
水族生産学体験講座	吉田(照)・村瀬・宮西・長野・田岡・西木・(内田)
卒業論文	指導教員

畜産草地科学科

授業科目	担 当 教 員
畜産草地科学序説	石井・續木・飛佐・石田・井口・井戸田・高橋・坂本・田中(秀)・井上(慶) 新美・徳永・(小林)・(権藤)・安在・(石垣)
畜産草地科学概論	石井・續木・飛佐・石田・井口・井戸田・高橋・坂本・田中(秀)・井上(慶) 新美・徳永・(権藤)・安在・(石垣)
畜産草地科学基礎実習	石井・續木・飛佐・石田・井口・井戸田・高橋・坂本・田中(秀)・井上(慶) 新美・徳永・(小林)・(権藤)・安在・(石垣)
畜産草地科学基礎実験	石井・續木・飛佐・石田・井口・井戸田・高橋・坂本・田中(秀)・井上(慶) 新美・徳永・(権藤)・安在・(石垣)
学外体験実習	石井・續木・飛佐・石田・井口・井戸田・高橋・坂本・田中(秀)・井上(慶) 新美・徳永・(小林)・(権藤)・安在・(石垣)
専門英語	石井・續木・飛佐・石田・井口・井戸田・高橋・坂本・田中(秀)・井上(慶) 新美・徳永・(小林)・(権藤)・安在・(石垣)・河原・仲西・(篠原(明)) (越本)・(名倉)
動物福祉学	坂本・徳永・(池田)・(日高)・(越本)・(篠原(明))・(岡林)・(佐藤(礼))・(山田)
動物衛生疾病学	岡林・上村・目堅・齊藤・山田・入江
生物学概論 (畜産草地科学)	井口・石井・井戸田・飛佐・高橋
卒業論文	指導教員
卒業研修	指導教員



獣医学科

授業科目	担 当 教 員
獣医学概論・獣医学史	1年次クラス担任
獣医畜産法規	上村・園田・井上(賀)・北原・山田・黒田・大菅
野生動物医学	永延・保田・吉田(彩)・平井
獣医インターンシップ	6年次クラス担任
欧文獣医学演習Ⅰ・Ⅱ	指導教員
伴侶動物参加型臨床実習Ⅰ・Ⅱ(病院臨床実習)	大澤・永延・日高・佐藤(礼)・佐藤(裕)・北原・井上(賀) 黒田・大菅・金子
産業動物参加型臨床実習	大澤・永延・日高・佐藤(礼)・佐藤(裕)・小林・北原・井上(賀) 上村・黒田・大菅
獣医臨床特別講義	大澤・永延・日高・佐藤(礼)・佐藤(裕)・北原・金子・大菅
馬臨床学	永延・大澤・日高・佐藤(裕)・佐藤(礼)・北原
海外獣医学研修	各学年クラス担任
アドバンス応用獣医学Ⅰ	吉田(彩)・岡林・上村・齊藤・山田
アドバンス伴侶動物学Ⅱ	日高・永延・吉田(彩)・岡林・新井・黒田
卒業論文	指導教員

学芸員関係

授業科目	担 当 教 員
博物館実習Ⅰ	宇田津・安達・雉子谷・高木・平田・津山・河原・ 深見・村瀬・井戸田・坂本・保田・脇谷
博物館実習Ⅱ	宇田津

# Global Human Resources Development Program

## Overview

	Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec
1 <sup>st</sup> year				*1	1 <sup>st</sup> Semester, 1 <sup>st</sup> year [UoM]				2 <sup>nd</sup> Semester, 1 <sup>st</sup> year [KU]			
2 <sup>nd</sup> year	1 <sup>st</sup> Semester, 2 <sup>nd</sup> year [KU]								2 <sup>nd</sup> Semester, 2 <sup>nd</sup> year [KU]			
3 <sup>rd</sup> year				1 <sup>st</sup> Semester, 3 <sup>rd</sup> year [UoM]						2 <sup>nd</sup> Semester, 3 <sup>rd</sup> year [UoM]		
3 <sup>rd</sup> -4 <sup>th</sup> year	2 <sup>nd</sup> Semester, 3 <sup>rd</sup> year [UoM]			1 <sup>st</sup> Semester, 4 <sup>th</sup> year [UoM]						2 <sup>nd</sup> Semester, 4 <sup>th</sup> year [UoM]		
4 <sup>th</sup> year	2 <sup>nd</sup> Semester, 4 <sup>th</sup> year [UoM]			*2								

UoM : University of Miyazaki KU : Kasetsart University \*1 Entrance \*2 Graduation

1. Students admitted in April of the first year will take courses in general education and courses on the fundamentals of specialized education in the University of Miyazaki until early August of the first year, and continue these educational courses in Kasetsart University, Thailand, until December of the second year.
2. Then, students who have passed a qualifying examination will return to the University of Miyazaki to take courses in advanced specialized education (including graduation thesis) focusing mainly on bioresources and biotechnology, and will complete the program and graduate from the University of Miyazaki in March of the fourth year. Expenses required for travelling between the two universities are to be covered by the students.
3. In order to graduate, students must acquire at least 36 credits of General Education subjects and at least 92 credits of Specialized Education subjects (44 and 48 for Fundamental and Advanced subjects, respectively). Please refer to the “Credits Required for Graduation” table in the following page for details.
4. Standards to acquire credits shall be as follows:
  - (1) For lectures, one credit equals one-hour class attendance per week for 15 weeks.
  - (2) For exercises and seminars, one credit equals two-hour class attendance per week for 15 weeks.
  - (3) For experiments, practice, training and drafting, one credit equals three-hour class attendance per week for 15 weeks.
5. Please be aware that some classes and instructors in charge may change each year. Please check with your advisor in charge of the Global Human Resources Development Program for information.

## Education Overview

Global Human Resources Development Program carries out education with the following as criteria for human resources to be developed.

- (1) Basic knowledge on food, the environment, resources and life.
- (2) Advanced expertise and techniques on bioresources and biotechnology.
- (3) High ethical standards as a specialized expert.
- (4) English skills of description, presentation and communication in the specialized fields of agriculture.
- (5) Internationality and problem-solving ability to cope with issues both regional and worldwide.

## Diploma Policy

Students who have registered for a prescribed period, fulfilled the credit requirements and acquired the following will be recognized as having completed the Global Human Resources Development Program and will be awarded a degree (bachelor's degree) by the Faculty of Agriculture, University of Miyazaki.

1. Humanity, sociality and internationality
  - (1) Morality
  - (2) Team work
  - (3) Understanding of multiculturalism and different culture
2. Independent learning ability with self-planning
3. Communication skill
  - (1) Language literacy
  - (2) Understanding of others and self-expression ability
4. Problem discovering, analyzing and solving ability
  - (1) Information literacy and quantitative skills using ICT (Information and Communication Technology)
  - (2) Problem finding, analyzing and solving ability
5. Knowledge and skill
  - (1) Understanding of culture, society, nature and region
  - (2) Basic knowledge on agricultural science
  - (3) Specialized knowledge and skills on bioresources and biotechnology
  - (4) English communication ability in the specialized field
  - (5) Internationality and problem-solving skills in the specialized field

## Curriculum Policy

In order to develop human resources who have acquired skills and abilities listed in the Diploma Policy (policy regarding recognition of completion and the awarding of degrees), Global Human Resources Development Program organizes and implements its academic curriculum based on the following policy.

1. Curriculum organization
  - (1) The curriculum of the program is drawn up in cooperation between the University of Miyazaki and the overseas partner university.
  - (2) The program organizes courses of general education comprising subjects for humanities, social science, natural science, language and others so that students can acquire broad, deep culture and basic learning skills in the university.
  - (3) The program organizes courses of specialized education comprising fundamental and advanced subjects so that students can systematically acquire specialized methodology and knowledge.
  - (4) The program uses English as a basic language so that students can acquire a high English communication ability in the specialized field.
  - (5) The program organizes courses on bioresources and biotechnology as compulsory subjects to train students to be human resources who can contribute to regional and international societies through the expertise.
  - (6) The program sets up subjects which encourage students to understand and solve problems and issues related to the region.
  - (7) The program sets up subjects such as graduation thesis to train students to be human resources who can analyze and solve problems through integration of acquired knowledge and skills.
  - (8) Following the above, the program sets up:
    - 1) Subjects on bioresources,
    - 2) Subjects on biotechnology, and
    - 3) Laboratory-based subjects such as experiment in specialized research, scientific English and graduation thesis.

## 2. Educational contents and methods

- (1) The objective, overview, goal and evaluation standard and evaluation method of all courses are opened to students in the form of syllabus.
- (2) The program incorporates active-learning methods such as interactive classes, group work and presentations to allow students to develop independent thinking ability.
- (3) The program incorporates topics which allow students to develop an understanding of the region and an ability of solving regional problems and issues.

## 3. Evaluation and grading

- (1) The program uses the GPA system, and regularly inspects, evaluates and improves the curriculum for quality assurance of education.
- (2) The program evaluates students' achievements strictly using various methods based on the standards for assessing performance.
- (3) The program evaluates students' achievements during the whole schooling period in relation to the diploma policy.

# Bylaws concerning Taking Classes and Grade Evaluation of Specialized Education Subjects in Faculty of Agriculture, University of Miyazaki (Excerpt)

〔 Established December 15, 2020  
Revised May 18, 2021 Revised January 30, 2024 〕

## Purpose

Article 1. These Bylaws stipulate matters concerning taking classes and grade evaluation of faculty common subjects, fundamental subjects and advanced subjects in Specialized Education (hereinafter referred to as “Specialized Education subjects”) in the Faculty of Agriculture, University of Miyazaki.

## Credit Acquisition and Course Approval

Article 2. Credit acquisition and course approval for class subjects shall be conducted by the instructor in charge of the class based on examinations, reports, and other evaluation methods.

## Class Registration

Article 3. When taking Specialized Education subjects designated by the Faculty of Agriculture, students must register for classes before a separately stipulated deadline using designated procedures.

3.2. In principle, the upper limit for class registration is 50 credits a year. However, subjects with intensive lectures, subjects for qualifications or licenses and subjects of General Education (only retaking of the subject after failure) are not included in the count.

## Subjects Offered in Other Faculties

Article 4. When taking specialized education subjects in other faculties, students must submit the designated application to the Academic Affairs and Student Services Office by the beginning of the lecture and obtain permission of the Dean of that Faculty.

## Exam Taking Qualifications

Article 5. Students must attend at least 75% of the designated class time to receive grade evaluation.

5.2. Three incidents of tardiness or leaving early will equal one absence.

## Handling of Special Absences

Article 6. Those absent for the reason or reasons below may make a request for a special absence to the instructor in charge of the relevant class by submitting the designated Special Absence Request to the Academic Affairs and Student Services Office. In principle, the instructor will take measures to compensate for the absence and not add the special absence to the number of absences.

(1) Absence for mourning

The number of days shall be seven days for a parent or spouse, five days for a child, and three days for a grandparent or sibling.

(2) Natural disaster

A length of time recognized as necessary by the Dean of the Faculty of Agriculture.

(3) The occurrence of an infectious disease as determined by the School Health and Safety Act

The period necessary for treatment based on a doctor's certificate, but excluding long-term cases of four weeks or more.

(4) Activity or event organized by organizations outside of the University (there may be limits to the time period and the number of times)

▪ A cultural or physical extracurricular activity organized by a university, with an official request for dispatch from a vice president or other person from the hosting university and the approval of the Vice President (in charge of education) of the University of Miyazaki.

▪ An event organized by a non-university organization, with the approval of the President of the University of Miyazaki.

(5) Any other situation recognized as unavoidable by the Educational Affairs Committee

However, if it was possible to submit a Special Absence Request beforehand but this was not done, a special absence will not be allowed.

## Regular Examinations

Article 7. At the end of the first and second semesters in the semester system, or at the end of the fourth semester in the quarter system, regular exams are conducted on subjects taken during that period of time after public

notification. Pass/fail results will be posted online within two weeks after the exams are completed.

### **Makeup Examinations**

Article 8. Those who are qualified to sit for exams but are not able to take the regular examinations for the reason or reasons in Article 5 may take only one makeup examination with the permission of the instructor in charge of the class.

8.2. Makeup examinations shall be administered as appropriate by the instructor in charge of the class within three weeks (within one week for students taking regular examinations in the second semester of their graduation year) after conclusion of the regular examination period. Those wishing to take makeup examinations must submit a Makeup Examination Notification to the Academic Affairs and Student Services Office within 10 days (within three days for students taking regular examinations in the second semester of their graduation year) following the conclusion of the regular examination period.

### **Reexaminations**

Article 9. Those failing the regular or makeup examination may retake the examination upon filing of a request to the instructor in charge of the class and this instructor giving their approval.

9.2. Reexaminations shall be administered by late September for the first semester and early March for the second semester following public notification.

9.3. Pass/fail announcements for the reexaminations shall be posted online within one week of the end of the exams.

9.4. The highest grade on a reexamination shall be 60, and 59 and below shall be failing grades.

### **Approval of Credits and Grading Standards**

Article 10. Credits shall be approved based upon the evaluation by the instructor in charge of the class.

10.2. Performance of students is graded according to their achievements listed below, with 'excellent', 'very good', 'good' and 'pass' being acceptable grades and 'fail' being an unacceptable grade.

- Excellent: 90 points or more (the student achieved an especially excellent level compared to the pass mark)
- Very good: 80 to 89 points (the student achieved a very good level compared to the pass mark)
- Good: 70 to 79 points (the student achieved a good level compared to the pass mark)
- Pass: 60 to 69 points (the student achieved the minimum required level for a pass)
- Fail: Less than 60 points (the student did not achieve the minimum required level for a pass)

### **Appeal against Evaluation Results**

Article 11. In the event of an objection against a result, the student can submit an appeal to the Vice Dean for academic affairs via the Academic Affairs and Student Services Office before the end of the semester in principle. Details will be provided separately.

### **Academic Dishonesty**

Article 12. Those committing dishonest behavior shall be punished according to academic affairs regulations. Also, grades for all subjects stipulated in the attached table shall be invalidated.

### **Miscellaneous Rule**

Article 13. Aside from the stipulations of these Bylaws, necessary items concerning taking classes and grade evaluation of Specialized Education subjects shall be laid down after deliberation in the faculty meeting.

**\*Dishonest Behavior in Examinations (e.g. cheating)**

Those engaging in dishonest behavior during examinations (e.g. mid-term exam, regular exam, makeup exam and reexamination) shall be penalized (suspended from the University for a definite term) and their grades for all subjects stipulated in the attached table shall be invalidated under Article 11 of the Bylaws concerning Taking Classes and Grade Evaluation of Specialized Education Subjects in the Faculty of Agriculture, University of Miyazaki.

This regulation has been provided for the purpose of preventing dishonest behavior so that students can take examinations on a fair basis. Students should take care to study earnestly and not violate these regulations.

Attached table

Opening period of subject where dishonest behavior is taken		Opening period of subject invalidated						Period exceeding the left
		Quarter				Semester		
		First	Second	Third	Fourth	First	Second	
Quarter	First	✓	–	–	–	✓	–	–
	Second	–	✓	–	–	✓	–	–
	Third	–	–	✓	–	–	✓	–
	Fourth	–	–	–	✓	–	✓	–
Semester	First	✓	✓	–	–	✓	–	–
	Second	–	–	✓	✓	–	✓	–
Period exceeding the above		Quarter included in the opening period of subject where dishonest behavior is taken				Semester fully or partly included in the opening period of subject where dishonest behavior is taken		Subject where dishonest behavior is taken

## Requirements for Taking Classes of Specialized Education Subjects in Faculty of Agriculture, University of Miyazaki (Excerpt)

〔 Established December 15, 2020  
Revised March 20, 2021                      Revised February 15, 2022 〕

**Purpose**

Article 1. This guideline stipulates requirements for taking classes of Specialized Education subjects in the Faculty of Agriculture, University of Miyazaki.

**Graduation Thesis and Its Starting Requirements**

Article 2. Time for taking the graduation thesis and conditions required for starting work on the graduation thesis are as follows:

Time: from second semester of the third year to the fourth year

Conditions: earning at least 50% of Specialized Education credits required for graduation by the end of the first semester of the third year

Article 3. Omitted

**Miscellaneous Rule**

Article 4. Aside from the above, necessary items concerning requirements for taking classes of Specialized Education subjects shall be laid down after deliberation in the faculty meeting.

## Global Human Resources Development Program

### Credits Required for Graduation

Year	Term	University*	Period	General Education Subjects	Specialized Education	
					Fundamental Subjects	Advanced Subjects
1	Semester 1	UoM	April to August	10 credits	10 credits from compulsory subjects	None
	Semester 2	KU	August to December	26 credits	34 credits from elective subjects	None
2	Semester 1		January to May			
	Semester 2	August to December				
3	Semester 1	UoM	April to September	Credits short of 26 from elective subjects provided at Kasetsart University	None	34 credits from compulsory subjects, 14 credits from elective subjects
	Semester 2		October to March			
4	Semester 1		April to September			
	Semester 2		October to March			
Total credits from compulsory subjects					10	34
Total credits from elective subjects					34	14
Subtotal				36	44	48
Grand total				128		

\*UoM: University of Miyazaki, KU: Kasetsart University

### General Education Subjects

Group	Requirement	Note
Interdisciplinary	No less than 6 credits	Subjects of this group should cover ethics, environmental science, life science and information and quantitative skills. Students are encouraged to take subjects with active learning.
Language	No less than 4 credits	Minimum of 2 credits each from subjects of the English Language group and subjects of the Second Foreign Language group (including Japanese Language group), however Native English speaking students take the Other Foreign Language.
Others	Not specified	Courses other than the above groups.
Total	No less than 36 credits	

Credits of the following subjects can be approved as credits of the above subjects according to the related regulations:

- (1) Subjects of Japanese Language group offered at University of Miyazaki.
- (2) Subjects offered at Kasetsart University and included in the General Education of the Program.

The category divisions, subjects and credit requirements described above are subject to change in accordance with a regulation revision.



## Global Human Resources Development Program: Offered Subjects

### 1. General Education

Category	Group	Subject	Providing body	Minimum Requirement	UoM		KU				UoM				Instructor	Note		
					1st year		2nd year		3rd year		4th year							
					S1	S2	S1	S2	S1	S2	S1	S2						
General Education	Interdisciplinary	※ Refer to the separately attached list (LSKU).	UOM-G, KU	6	36	8	6 credits or more								Refer to the Instructors List	A minimum of required credits is 36.  A maximum of 26 credits acquired at Kasetsart University can be approved as credits required. The details are the separately attached list (LSKU).  Elected subjects from Kasetsart University should be English-taught courses.		
	Language	Subjects from Japanese	UOM-L	2														
		※ Refer to the separately attached list (LSKU).	KU	2			2 credits or more											
	Others	Introductory Seminar for Academic Disciplines	UOM-G	2			2											
		※ Refer to the separately attached list (LSKU).	UOM-G, KU	Not specified			2		2 credits or more									

### 2. Specialized Education (Fundamental Subjects)

Category	Subject	Providing body	Credit		UoM		KU				UoM				Instructor	Note		
			Compulsory	Elective	1st year		2nd year		3rd year		4th year							
					S1	S2	S1	S2	S1	S2	S1	S2						
Specialized Education Fundamental Subjects	Outline of Agricultural and Environmental Sciences	AES	2		2										Refer to the Instructors List	10 credits are required from compulsory subjects.  #Joint class with students of the department providing the subject.  #		
	Excursions of Forestry and Rural Engineering	FES	2		2										Refer to the Instructors List			
	Introduction to Biochemistry and Applied Biosciences	BAB	2		2										Refer to the Instructors List			
	Introduction to Marine Biology and Environmental Sciences	MBE	2		2										Refer to the Instructors List			
	Fundamentals of Animal and Grassland Sciences	AGS	2		2										Refer to the Instructors List			
	Subjects from Kasetsart University ※ Refer to the separately attached list (LSKU).	KU		34												No less than 34 credits are required from elective subjects.  A maximum of 34 credits acquired at Kasetsart University can be approved as credits required. The details are the separately attached list (LSKU).  Elected subjects should be English-taught courses.		
Subtotal Credits of Fundamental Subjects			10	34														10 and 34 credits are required from compulsory and elective subjects, respectively.

### 3. Specialized Education (Advanced Subjects)

Category	Subject	Providing body	Credit		UoM				KU				UoM				Instructor	Note
			Compulsory	Elective	1st year		2nd year		3rd year		4th year							
					S1	S2	S1	S2	S1	S2	S1	S2						
Specialized Education	Bioresources Core Subjects	Bioresource Utilization I	GHRDP	2							2					Ishii, Taoka	34 credits are required from compulsory subjects.	
		Bioresource Utilization II	GHRDP	2							2					Kijidani, Yuasa, Tsuyama		
		Genetics and Breeding of Bioresources	GHRDP	2							2					Ishida, Honsho, Uchida		
		Taxonomy of Organisms	GHRDP	2								2				Fukami, Murase, Urbanczyk, Matsuo Takeshita, M.		
		Introduction to Biodiversity Conservation	GHRDP	2							2					Ito, Saeki		
		Food Science	GHRDP	2							2					Refer to the Instructors List		
	Biotechnology Core Subjects	Biotechnology I	GHRDP	2							2					Katayama		
		Biotechnology II	GHRDP	2								2				Inaba, T., Taoka, Tsuyama		
		Biotechnology III	GHRDP	2									2			Sakakibara, Y. Yoshida, N. [Faculty of Medicine] Takami, Xu Ida, Shiota, Wada, K., Uechi		
		Genome Science	GHRDP	2								2				Gondo, Iguchi, Tanaka, H., Niimura		
	Seminar for Graduation Thesis	GHRDP	2							2						Refer to the Instructors List		
	Experiment in Specialized Research I	GHRDP	2								2					Advisors of individual departments		
	Experiment in Specialized Research II	GHRDP	2										2			Advisors of individual departments		
	Scientific English	GHRDP	2										2			Advisors of individual departments		
	Graduation Thesis	GHRDP	6											6		Advisors of individual departments		
	Agricultural and Environmental Sciences	AES		2							2					Instructors given elsewhere		#
	Experimental Practice for Agricultural and Environmental Sciences	AES		1									1			Refer to the Instructors List		#
	Forest and Environmental Sciences	FES		1							1					Refer to the Instructors List		#
	Soil and Water Sciences	FES		2							2					Tasumi		#
	Bioscience	BAB		2							2					Refer to the Instructors List		#
	Regional-vitalization Exercise for Miyazaki	BAB		1							1					Refer to the Instructors List		#
	Agricultural Soil Science	BAB		2									2			Saeki		#
	Microbial Symbiosis	MBE		2							2					Urbanczyk		#
Environmental Microbiology	MBE		2							2					Urbanczyk	#		
Fishery Feed Science	MBE		2							2					Taoka	#		
Marine Molecular Science	MBE		2							2					Hayashi, Y.	#		
Tropical Forage Science and Biotechnology	AGS		2							2					Ishii, Tanaka, H.	#		
Practice for Livestock Farming I	AGS		1							1					Kobayashi, Ishigaki	#		
Subtotal Credits of Advanced Subjects				34	22											34 and 14 credits are required from compulsory and elective subjects, respectively.		

\*Instructors may change.

- 1) No less than 34 credits are required from elective subjects in fundamental subjects of specialized education.
- 2) No less than 14 credits are required from elective subjects in advanced subjects of specialized education.
- 3) Subjects not in the above table but offered in the Faculty of Agriculture can be approved as elective subjects of specialized education up to 8 credits.
- 4) Excess of over 14 credits in elective subjects in advanced subjects of specialized education can be transferred to elective subjects in fundamental subjects of specialized education.

S1 : Semester 1 S2 : Semester 2

UoM-L : UOM Language Education Center  
GHRDP : Global Human Resources Development Program Committee

UoM-G : UOM General Education  
KU : Kasetsart University

AES : Department of Agricultural and Environmental Sciences  
BAB : Department of Biochemistry and Applied Biosciences  
AGS : Department of Animal and Grassland Sciences

FES : Department of Forest and Environmental Sciences  
MBE : Department of Marine Biology and Environmental

## Instructors List

Category	Subject	Providing body	Instructor (collaborating instructor in parentheses)
Fundamental Subjects	Introductory Seminar for Academic Disciplines	UoM-G	Tasumi, Kawahara, Yamasaki, M., Tanaka, R., Yoshida, T., Ishii, Honsho, (Udatsu), (Matsuo)
	Outline of Agricultural and Environmental Sciences	AES	Yamamoto, N., Tetsumura, Yuasa, Takeshita, M., Zushi, Gejima, Kinoshita, Kano, Inaba, T., Inaba, Y., Honsho, Masuda, Hiyoshi, Kirimura, Adachi, (Udatsu), (Matsuo)
	Excursions of Forestry and Rural Engineering	FES	Shimizu, Ito, Fujikake, Tasumi, Kijidani, Mitsuda, Nakazono, Takeshita, S., Sakurai, Shinohara, Hirata, Tsuyama, (Nishiwaki), (Takagi)
	Introduction to Biochemistry and Applied Biosciences	BAB	Kunitake, Yoshida, N., Sakakibara, Y., Saeki, Kawahara, Yamasaki, M., Eto, Hikima, Nakanishi, Inoue, Ken, Kono, Hirano, Yamamoto, A., Kurogi, Hattori, Kiyoshi, Yokoyama, Ogawa
	Introduction to Marine Biology and Environmental Sciences	MBE	Yoshida, T., Hayashi, M., Uchida, Tanaka, R., Fukami, Taoka, Urbanczyk, Nagano, Murase, Miyanishi, Hayashi, Y., Nishiki, Wada
	Fundamentals of Animal and Grassland Sciences	AGS	Ishii, Tsuzuki, Tobisa, Ishida, Iguchi, Idota, Takahashi, Sakamoto, Tanaka, H., Inoue, Kei., Niimi, Tokunaga, (Gondo), Anzai, (Kobayashi), (Ishigaki)
Advanced Subjects	Food Science	GHRDP	Yamasaki, M., Hikima, Kawahara, Kono, Nakanishi, Ogawa
	Seminar for Graduation Thesis	GHRDP	Instructors of individual courses
	Experiment in Specialized Research I	GHRDP	Advisor
	Experiment in Specialized Research II	GHRDP	Advisor
	Scientific English	GHRDP	Advisor
	Graduation Thesis	GHRDP	Advisor
	Agricultural and Environmental Sciences	AES	Yamamoto, N., Tetsumura, Yuasa, Takeshita, M., Zushi, Gejima, Kinoshita, Kano, Inaba, T., Inaba, Y., Honsho, Masuda, Hiyoshi, Kirimura, Adachi, (Udatsu), (Matsuo)
	Experimental Practice for Agricultural and Environmental Sciences	AES	Yamamoto, N., Tetsumura, Yuasa, Takeshita, M., Zushi, Gejima, Kinoshita, Kano, Inaba, T., Inaba, Y., Honsho, Masuda, Hiyoshi, Kirimura, Adachi, (Udatsu), (Matsuo)
	Forest and Environmental Sciences	FES	Shimizu, Ito, Fujikake, Tasumi, Kijidani, Mitsuda, Nakazono, Takeshita, S., Sakurai, Shinohara, Hirata, Tsuyama, (Takagi)
	Bioscience	BAB	Kunitake, Yoshida, N., Sakakibara, Y., Saeki, Eto, Inoue, Ken., Hirano, Yamamoto, A., Hattori, Kurogi, Kiyoshi
Regional-vitalization Exercise for Miyazaki	BAB	Kunitake, Yoshida, N., Sakakibara, Y., Saeki, Kawahara, Yamasaki, M., Eto, Hikima, Nakanishi, Inoue, Ken., Kono, Hirano, Yamamoto, A., Hattori, Kurogi, Kiyoshi, Tanaka, R, Zushi, Honsho, Yokoyama, Ogawa	

## List of the subjects from Kasetsart University (LSKU)

### 1) General Education

Category	Group	Minimum Requirement	Subject	Course code	Credit
General Education	Interdisciplinary	6	Man & Society	01999141	3
			Thai Language for Communication	01999021	3
			The Art of Living with Others	01387101	3
			Health for Life	01999012	3
			Environment, Technology & Life	01999213	3
			Knowledge of the Land	01999111	2
			Creativity for Value Management	01999043	3
			Economics for Better Living	01999041	3
			Principles of Statistics	01422111	3
			Introductory Applied Mathematics	01417116	3
			Calculus I	01417111	3
			Organic Chemistry	01403111	4
	Language	4	Foundation English I	01355111	3
			Foundation English II	01355112	3
			Foundation English III	01344113	3
			English for Everyday Life	01355101	3
			English for University Life	01355102	3
			English for Job Opportunities	01355103	3
			Essential English Writing skills	01355107	3
			Essential English Listening-Speaking Skills	01355109	3
			Critical Reading and Writing in English	01355201	3
			Report Writing in English	01355202	3
			English Language Structure	01355203	3
			Project Presentation Skills in English	01355204	3
			Academic English	01355206	3
			Fundamental English Writing	01355202	3
			Fundamental English Reading	01355201	3
			Elementary French III	01356103	3
			English Correspondence	01355207	3
	Others	Not specified	Computer Applications	01418111	1
			Social Dance for Health	01175143	1
			Basketball for Health	01175121	1
			Badminton for Health	01175112	1

\*You should acquire 26 credits from General Education.

### 2) Specialized Education

Category	Group	Minimum Requirement	Subject	Course code	Credit
Specialized Education	Fundamental Subjects	34	Introduction to Tropical Agriculture	01013111	3
			Principles of Biology	01424111	3
			Laboratory for Biology	01424112	1
			General Chemistry	01403111	4
			Laboratory in General Chemistry	01403112	1
			Introduction to Tropical Horticulture	01013232	3
			Animal Science & Technology	01002111	3
			Food Sanitation	01017212	3
			Food Environment and Health	01017423	3
			General Botany	01401114	3
			Soil Science	01009112	3
			Introductory Plant Pathology	01008211	3
			Principles of Tropical Agronomy	01013231	3
			General Practicum	01013299	2
			Tropical Agricultural Machinery	01005221	3
			Insect Science	01004211	3
			Economic Tropical Horticultural Crops	01013332	3
			Tropical Soil Resource	01013341	3
			Biochemistry I	01402311	2
			General Microbiology	01419211	3
Principles of Genetics	01416311	3			
Laboratory in Biochemistry I	01402312	1			
Laboratory in Genetics	01416312	1			

\*You should acquire 34 credits from Fundamental Subjects of Specialized Education.

## 8. 教員免許状及びその他の資格取得について

### (1) 教育職員免許状（高等学校教諭一種免許状）の取得について

#### 教員免許状取得希望の学生へ

農学部で教員免許を取得するためには、自己の卒業所要単位以外に、免許に関する科目の履修が必要です。更に、教育実習（基本・応用）も義務付けられます。

教育実習は実際に中学校・高校において、授業を行い、教師としての勉強をする機会ですが、教育実習生を受け入れる学校側は、みなさんを教師とみなすため、生徒に与える影響や責任の大きさは、はかり知れません。

また、中学校・高校は、大学卒業後に教員としての就職を目指す学生を教育実習生として受け入れたいと考えています。

就職についてですが、教職とその他の就職活動の両立はかなり困難であります。その理由は、教員採用試験は受験勉強にかなりの時間を要すること。教育実習の期間が就職活動時期と重なる場合があること。教職と他の就職試験日が重なる場合があること。これらの理由により併願は難しいとされています。このことを念頭に置き、教員免許取得に挑んでください。

#### 教員免許状取得までの主なスケジュール

（時期は予定であり、年度により異なる。日程は必ず掲示で確認すること）

学年	時期	行事内容	注意事項
1～2	2年次2月 2年次3月	教員免許説明会 教育職員免許状取得希望調書の受付開始 教育職員免許状取得希望調書提出	受講を要する科目を配当年次に修得できるように、履修計画を立てる ポータルサイトや掲示板で連絡（注） 3月20日頃まで（注）
3	4月～5月 6月～8月 9月	教育実習校選定の説明会 実習校との交渉（内諾を得る） 麻疹免疫の証明を提出	調書提出者が対象 各自が実習校と交渉
4	4月 " 5月 5月～9月 4月～6月 7月 " 11月 2月中旬 3月	教育実習事前及び事後指導（事前指導） 教育実習説明会 基本実習（附属中学校） 応用実習（各実習高校） 教員採用試験出願期間 教育実習事前及び事後指導（事後指導） 教育実習反省会（7月or10月） 教育職員免許状授与願の事前提出 教育職員免許状授与願の本提出 卒業式・教員免許状交付	日程は掲示 3日間 2週間程度 各自が願書等取り寄せ  日程は掲示する 教務・学生支援係より様式配付 宮崎県収入証紙（県機関で学生が購入）を貼付

（注）教育職員免許状取得希望調書は、3年次の4月初旬に取得希望者の把握のために用います。調書の提出がないと免許取得が困難となりますので、必ず提出願います。なお、本調書の提出後に免許取得の意志がなくなった時は、教務・学生支援係に申し出てください。調書の様式は教務・学生支援係より配付しますので、希望者は教務・学生支援係の連絡に従って提出願います。

## 教員免許状取得の方法について

教員免許状の取得を希望する者については、別に定める必要な単位を修得し、各都道府県の教育委員会に申請をした者に高等学校教諭一種免許状が与えられる。

### 1) 農学部学生の取得できる免許状の種類及び教科

学 科	免許状の種類	免許教科
植 物 生 産 環 境 科 学 科	高等学校教諭一種免許状	農業・理科
森 林 緑 地 環 境 科 学 科	〃	農業・理科
応 用 生 物 科 学 科	〃	農業・理科
海 洋 生 物 環 境 学 科	〃	水産・理科
畜 産 草 地 科 学 科	〃	農業・理科

### 2) 基礎資格及び修得単位数 教育職員免許法から抜粋 別表第1 (第5条関係)

第1欄		第2欄	第3欄	
免許状の種類		基礎資格	大学において修得することを必要とする最低単位数	
			教科及び教職に関する科目	特別支援教育に関する科目
高等学校教諭	専修免許状	修士の学位を有すること。	83	
高等学校教諭	一種免許状	学士の学位を有すること。	59	

### 教育職員免許法施行規則から抜粋 第5条

第1欄	教科及び教職に関する科目		専修免許状	一種免許状	
最低修得単位数	第2欄	教科及び教科の指導法に関する科目	24	24	
	第3欄	教育の基礎的理解に関する科目	10	10	
	第4欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	8	8	
	第5欄	教育実践に関する科目	教育実習	3	3
			教職実践演習	2	2
	第6欄	大学が独自に設定する科目	36	12	
合計			83	59	

### 3) 免許状を取得するための単位修得方法

- 宮崎大学農学部を卒業すること。
- 次ページ以降の表(①～③)の科目について全て単位を修得していること。
  - ①教科及び教科の指導法に関する科目(自己の所属する学科・免許種の表を参照すること)
  - ②教育の基礎的理解に関する科目等
  - ③文部科学省令で定める科目

#### ① 教科及び教科の指導法に関する科目

次ページ以降の自己の所属する学科の表を参考に免許種毎に指定された科目・単位数を履修すること。なお、卒業要件の単位とは別に免許状取得のための必修科目が免許種毎に設定されているので注意すること。(必修科目は全て履修しなければ免許状を取得できない。)

各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)については、農業コースは農業科教育法Ⅰ及び農業科教育法Ⅱ、水産コースは水産科教育法、理科コースは教科教育法(中等理科)及び教科教育法(理科)の4単位を必ず履修すること。

ただし、農業免許又は水産免許のみ取得を希望する者も、附属中学校での実習を行うため、教科教育法(中等理科)、教科教育法(理科)は必修となるため注意すること。

植物生産環境科学科<理科コース>  
教科及び教科の指導法に関する科目

科目区分	施行規則に定める科目区分等 各科目に含めること が必要な事項	授業科目名	単位数		最低修得単位数	備考
			必修	選択		
物理学		物理学概論	2		集中(2年生以上)	
		生物応用力学		2		
		生物計測工学		2		
		農業動力機械学		2		
化学		基礎化学	2		学部共通科目	
		青果代謝生理学		2		
生物学		生物学概論(植物生産環境科学)	2		集中(2年生以上)	
		昆虫生態学		2		
		植物病理学各論		2		
		植物病理学総論		2		
		総合的害虫管理学		2		
		植物生理学		2		
		果樹園芸生理学		2		
地学		花き園芸生理学		2	集中(3年生以上)	
		地学概論		2		
		農地環境工学		2		
		植物生産科学実験 I	1			
「物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験」		植物生産科学実験 II	1		3	
		植物生産科学基礎実験・実習 I		1		
		植物生産科学基礎実験・実習 II	1			
		植物生産環境科学基礎実験		1		
各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		教科教育法(中等理科)	2		3年生以上	
		教科教育法(理科)	2			3年生以上

※下線は必修科目を示す。

植物生産環境科学科<農業コース>  
教科及び教科の指導法に関する科目

科目区分	施行規則に定める科目区分等 各科目に含めること が必要な事項	授業科目名	単位数		最低修得単位数	備考
			必修	選択		
教科に関する専門的事項		果樹園芸学各論		2	36	
		果樹園芸学総論		2		
		企画実習		1		
		栽培学		2		
		栽培植物起源論		2		
		作物生産学		2		
		作物学総論		2		
		雑草防除学		2		
		施設園芸学		2		
		生産流通施設学		2		
		生物生産システム工学		2		
		GAP概論		2		
		農業経済学	2			
		農場実習 I		1		
農場実習 II		1				
野菜園芸学		2				
野菜園芸学各論		2				
農業・社会調査実習		1				
農業経営学		2				
農業政策論		2				
植物生産環境科学概論		2				
社会統計学		2				
園芸利用学		2				
職業指導	職業指導		2	2	集中(3年生以上)	
各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		農業科教育法 I		2	4	
		農業科教育法 II		2		

※下線は必修科目を示す。

※農業免許のみ取得を希望する者も、理科コースの教科教育法(中等理科)、教科教育法(理科)は必修である。

森林緑地環境科学科<理科学科>  
 教科及び教科の指導法に関する科目

科目区分	施行規則に定める科目区分等 各科目に含めること が必要な事項	授業科目名	単位数		最低修得単位数	備考
			必修	選択		
物理学	森林緑地環境科学科 専門科目	基礎物理学(森林緑地環境科学)	2		36	
		構造力学		2		
		土質力学		2		2
		土壌物理学		2		
		応用力学・水理学		2		
		基礎化学	2			2
		木材化学		2		
		生物学概論(森林緑地環境科学)	2			
		森林生態学		2		2
		木本植物組織学		2		
生物学	学前共通科目	樹木生態生理学		2		
		地学概論	2			
		水文・気象学		2	2	
		砂防学		2		
		国土管理保全学		2		
		水資源管理学		2		
		木本植物組織学実験	1		1	
		環境材料学実験		1		
		「物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験」				
		「物理実験、化学実験、生物学実験、地学実験」				
地学	集中(3年生以上)	教科教育法(中等理科)	2			3年生以上
		教科教育法(理科)	2			3年生以上

※下線は必修科目を示す。

森林緑地環境科学科<農業コース>  
 教科及び教科の指導法に関する科目

科目区分	施行規則に定める科目区分等 各科目に含めること が必要な事項	授業科目名	単位数		最低修得単位数	備考
			必修	選択		
農業の 関係科目	教科に関する専門的 事項	森林緑地環境科学概論	2		36	
		森林緑地フィールド実習Ⅰ	1			
		森林緑地フィールド実習Ⅱ	1			
		樹木学		2		
		森林計測学	2			
		測量学	2			
		森林経済学	2			
		森林計画学		2		
		景観生態学		2		
		森林政策学		2		
		造林学		2		
		農山村環境計画学		2		
		測量学実習	1			
		樹木学実習		1		
		森林計測学実習		1		
		植生調査実習		1		
		森林計画学実習		1		
造林学実験実習		1				
水理学	2					
植生立地学		2				
森林資源利用科学		2				
森林利用学		2				
森林土木学実習		1				
森林保護学		2				
職業指導		2		2	集中(3年生以上)	
各教科の指導法 (情報通信技術の活用 を含む。)	職業指導	農業科教育法Ⅰ	2			3年生以上
		農業科教育法Ⅱ	2			3年生以上

※下線は必修科目を示す。

※農業免許のみ取得を希望する者も、理科コースの教科教育法(中等理科)、教科教育法(理科)は必修である。



応用生物科学科<理科コース>

教科及び教科の指導法に関する科目

科目区分	施行規則に定める科目区分等 各科目に含めること が必要な事項		授業科目名	単位数		最低修得単位数	備考
	必修	選択		必修	選択		
物理学	2		物理学概論	2		2	植物生産環境科学科 専門科目 集中(2年生以上)
	2		基礎化学 (応用生物科学)				
		2	分析化学				
		2	無機化学				
		2	有機化学			2	
		2	生物有機化学				
		2	酵素化学				
		2	生物学概論 (応用生物科学)				
		2	基礎微生物学 (応用生物科学)				
		2	生物化学 I			2	
生物学		2	生物化学 II				
		2	植物遺伝・育種学				
		2	微生物機能開発学				
		2	地学概論			2	
地学		2	土壌肥科学				
		1	生物学実験				
		2	分析化学実験				
		1	有機化学実験				
		1	微生物学実験			1	
		1	生物化学実験				
		1	応用生物化学実験				
		2	教科教育法 (中等理科)				
		2	教科教育法 (理科)			4	

教科に関する専門的事項

応用生物科学科<農業コース>

教科及び教科の指導法に関する科目

科目区分	施行規則に定める科目区分等 各科目に含めること が必要な事項		授業科目名	単位数		最低修得単位数	備考
	必修	選択		必修	選択		
農業の 関係科目			生命化学概論	2			36
			食品化学		2		
			食品製造学		2		
			農産食品製造学		2		
			畜産食品製造学		2		
			水産食品製造学		2		
			食品保蔵化学		2		
			食品衛生学		2		
			食品分析化学		2		
			微生物化学		2		
			栄養化学		2		
			植物遺伝資源学		2		
			遺伝子工学		2		
			細胞工学		2		
			植物栄養生化学	2			
			公衆衛生学		2		
			食品工学		2		
			生物機能科学実験		1		
			生物工学実験		1		
		食品機能化学実験		1			
		食品製造学・衛生化学実験		1			
		職業指導	2		2		
		農業科教育法 I	2				
		農業科教育法 II	2		4		

教科に関する専門的事項

各教科の指導法  
(情報通信技術の活用を  
含む。)

職業指導

※下線は必修科目を示す。  
※農業免許のみ取得を希望する者も、理科コースの教科教育法 (中等理科)、教科教育法 (理科) は必修である。

海洋生物環境学科<理科コース>

教科及び教科の指導法に関する科目

科目区分	施行規則に定める科目区分等 各科目に含めること が必要な事項	授業科目名	単位数		最低修得単位数	備考
			必修	選択		
物理学		物理学概論	2		2	植物生産環境科学科 専門科目 集中(2年生以上)
		化学概論(海洋生物環境学)	2			
		基礎水域化学		2		
		水産化学		2		
		基礎増養殖学		2		
化学		生物学概論(海洋生物環境学)	2		2	集中(2年生以上)
		海洋生物分類学		2		
		魚類学		2		
		サンゴ礁学		2		
		水族病原微生物学		2		
		海洋生物遺伝学		2		
		微生物との共生		2		
地学		地学概論	2		2	集中(3年生以上)
		浅海生態学		2		
		水産化学実験Ⅰ	1			
		水産化学実験Ⅱ		1		
		海洋生物環境学実習		1		
		海洋生物学実習		2		
		海洋生物環境学基礎実験		1		
		「物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験」				
		教科教育法(中等理科)	2			
		教科教育法(理科)	2			
各教科の指導法 (情報通信技術の活用 を含む。)		教科教育法(中等理科)	2		4	3年生以上
		教科教育法(理科)	2			

※下線は必修科目を示す。

海洋生物環境学科<水産コース>

教科及び教科の指導法に関する科目

科目区分	施行規則に定める科目区分等 各科目に含めること が必要な事項	授業科目名	単位数		最低修得単位数	備考
			必修	選択		
教科に関する専門的 事項		海洋生物環境学概論	2		36	
		海洋代謝生化学		2		
		水産食品科学		2		
		水産飼料科学		2		
		魚病学	2			
		水生生物生体防御学		2		
		環境微生物学		2		
		マリンバイオテクノロジー		2		
		魚類生理学	2			
		水族生産学体験講座		2		
		水産増養殖学		2		
		水域生物生理学		2		
		海洋微生物学実験		1		
		水産遺伝子工学実験		1		
		水族生理学実験		1		
		水生生物解剖分類学実験		1		
		水族館学		1		
水産食品微生物学	2					
海洋分子科学		2				
海洋生物生産学		2				
マリンドライブング論		1				
漁業学概論		2				
職業指導	2		2	集中(3年生以上)		
各教科の指導法 (情報通信技術の活用 を含む。)	4		4	3年生以上		

※下線は必修科目を示す。

※水産免許のみ取得を希望する者も、理科コースの教科教育法(中等理科)、教科教育法(理科)は必修である。

畜産草地科学科<理科コース>

教科及び教科の指導法に関する科目

科目区分	施行規則に定める科目区分等 各科目に含めること が必要な事項	授業科目名	単位数		最低修得単位数	備考	
			必修	選択			
物理学		物理学概論	2		2	植物生産環境科学科 専門科目 集中(2年生以上)	
		畜産草地科学基礎化学	2		2		
化学		生物学概論(畜産草地科学)	2		2	集中(2年生以上)	
		草地・草原環境保全・修復学		2			
生物学		草類利用学		2			
		動物生殖制御学		2			
		動物育種資源学		2			
		草地システム生態学		2	2		
		地域環境保全論		2			
		放牧生態学		2			
		衛生微生物学		2			
		動物行動学		2			
		野生動物・動物園学		2			
		Tropical Forage Science and Biotechnology		2			
		地学		2	2	2	集中(3年生以上)
		「物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験」		土壌管理概論		2	
畜産草地科学基礎実習	1						
畜産草地科学基礎実験	1				2		
動物生殖生理学実験				1			
草類利用学実験				1			
教科教育法(中等理科)	2				4		
教科教育法(理科)	2		2				

※下線は必修科目を示す。

畜産草地科学科<農業コース>

教科及び教科の指導法に関する科目

科目区分	施行規則に定める科目区分等 各科目に含めること が必要な事項	授業科目名	単位数		最低修得単位数	備考
			必修	選択		
教科に関する専門的事項	教科に関する専門的事項	畜産草地科学序説	2		2	
		畜産草地科学概論	2		2	
		家畜栄養学		2		
		牧場実習I		1		
		動物生殖生理学		2		
		飼料作物学		2		
		草地畜産論		2		
		動物環境管理学		2		
		動物環境管理学実験		1		
		飼料学		2		30
		家畜栄養学実験		1		
		環境草地学		2		
草地生産・生態学実験		2		36		
動物育種学		2				
動物福祉学		2				
牧場実習II		1				
草地植生管理学		2				
植物バイオテクノロジー		2				
草類遺伝資源・育種学実験		1				
家畜飼養管理学		2				
職業指導		2		2	集中(3年生以上)	
各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)		2		4	3年生以上	
各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)		2		2	3年生以上	

※下線は必修科目を示す。

※農業免許のみ取得を希望する者も、理科コースの教科教育法(中等理科)、教科教育法(理科)は必修である。

② 教育の基礎的理解に関する科目等 3年生以上対象

施行規則に定める科目区分等		宮崎大学で開設する 授業科目名	単位数	備考
科目	各科目に含めることが必要な事項			
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理	2	
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教職入門	1	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育制度論	2	
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	学校教育心理学	2	
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	1	
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育課程論	2	
道徳、生徒指導、総合的な学習の時間等に関する科目及び教育相談等に関する科目	総合的な探究の時間の指導法	総合的な探究の時間の指導法	1	
	特別活動の指導法	特別活動論	2	
	教育の方法及び技術	教育の方法と技術（情報通信技術の活用を含む。）	2	
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法			
	生徒指導の理論及び方法	生徒指導概論（進路指導を含む。）	2	
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法			
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談（カウンセリングの基礎的知識を含む。）	2	
教育実践に関する科目	教育実習	教育実習事前及び事後指導	1	
		教育実習	2	
	教職実践演習	教職実践演習	2	

- ※1. 単位数欄の下線は必修単位を表す。  
 2. 法令では、最低修得単位数23単位であるが、農学部においては最低24単位を修得すること。  
 3. 教育の基礎的理解に関する科目等の履修は原則として3年生以上を対象とする。

③ 文部科学省令で定める科目

免許法施行規則に定める科目区分	宮崎大学で開設する授業科目名	単位数	備考
日本国憲法	日本国憲法（注）	2	
体育	生涯スポーツ実践（注） （※名称変更の可能性あり）（2単位分を履修する）	2	
外国語コミュニケーション	英語Ac	2	教養教育科目（必修）
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	情報・データリテラシー	2	〃（必修）

（注）日本国憲法（2単位）・生涯スポーツ実践（計2単位）の履修については「4）受講科目登録に際しての注意」を参照すること。

※上記の科目は、法律の改正やカリキュラムの再編などにより、変更になる場合がある。  
 変更となった場合は掲示等により周知されるので、周知事項に留意すること。

#### 4) 受講科目登録に際しての注意

1. 前学期及び後学期の受講科目登録時に教職関係の科目も一緒に登録すること。  
登録の際は、農学部用と工学部用に分かれている科目があるので注意すること。
2. 講義コード・開講時期・授業担当教員・教室については、農学部教職科目用の時間割および農学部専門科目時間割で確認すること。(時間割は毎年変わるので、最新版で確認)
3. 教育実習事前及び事後指導、教育実習の科目登録は4年次の前学期に、教職実践演習は後期に科目登録を行う。
4. 文部科学省令で定める科目の一部(英語Ac、情報・データリテラシー)を除き、他の教職関連科目はすべて専門科目である。
5. 農業免許又は水産免許のみ取得を希望する者も、附属中学校での実習を行うため、教科教育法(中等理科)、教科教育法(理科)は必修となるため注意すること。
6. 「日本国憲法」「生涯スポーツ実践」は、教職科目(卒業単位に含まれない)として開講する。教員免許取得希望生のみ(原則として3年次以降)が履修可能で、農学部教務・学生支援係が科目登録処理を行う(学生は登録できない)ため、履修を希望する学生は2月以降にポータルサイト等で通知される連絡に従って申し込むこと。(※定員に空きがあれば2年次生も受講可)

#### 5) 教育実習

1. 教育実習は附属中学校で行われる基本実習(3日間・4年次の4～5月)及び各実習高校での応用実習(2週間程度・高校によって時期が異なる)がある。
2. 単位は事前事後指導1単位と、応用実習及び基本実習を合わせて2単位、合計3単位とする。
3. 3年次の4月中旬に教育実習校を決めるためのオリエンテーションを実施するので、掲示等に注意すること。(実習を行う前年度に高校から内諾を得る。)内諾後は教育実習を取りやめることはできないので、よく考えて実習の参加を決めること。
4. 賠償責任保険(学研災付帯賠償責任保険(学研賠)等)に加入すること。
5. 教育実習による授業の欠席は、原則として特別欠席とはならないため注意すること。
6. 教育実習の欠席は厳禁である。
7. 教育実習の受講に際し、麻疹の免疫があることが必須条件である。  
3年次の4月中旬に実施するオリエンテーションにて、麻疹に関する文書(様式)を配付する。  
4年次に教育実習の受講を希望する者は、3年次前期に麻疹の免疫があることの証明を提出すること。

#### 6) 教育実習履修資格

教育実習を行う者は、次の条件をそなえた者に限る。

1. 教員採用試験受験予定の者
2. 各教科の指導法〔農業科教育法Ⅰ・Ⅱ、水産科教育法、教科教育法(中等理科)・教科教育法(理科)]を修得している者又は受講中の者

#### 7) 教員免許状の申請について

免許状は、都道府県の教育委員会に必要書類を取りそろえ申請することにより授与される。農学部生分はとりまとめて宮崎県教育委員会へ申請するので、別途指定する期日までに教務・学生支援係に提出すること。(卒業日に授与される)

なお、卒業後に申請する者は各自で各都道府県教育委員会に申請しなければならない。また、免許状授与後に免許状に関する問い合わせを行う場合は、発行元の教育委員会へ行うこと。

#### 8) 高等学校教諭専修免許状の取得について

宮崎大学大学院農学研究科では、農業又は水産の高等学校教諭一種免許状の取得資格を有している者が別に定める単位を修得し、各都道府県の教育委員会に申請をすれば、高等学校教諭専修免許状を取得することができる。農学研究科では理科の専修免許状は取得出来ないため注意すること。

#### 9) その他

- ・ 1・2年生を対象とした教員免許状取得希望者向けの説明会を4月に行う。希望者は参加すること。
- ・ 教員免許状取得に関して不明な点がある場合は、教務・学生支援係まで問い合わせること。
- ・ 住所・電話番号等、届け出ている事項に変更が生じた場合は、教務・学生支援係へ知らせること。
- ・ 各種伝達事項は掲示板等で行うため、常時、教育学部・農学部の掲示や連絡事項に留意すること。

## (2) 学芸員資格の取得について

- 1) 学芸員は、国・公・私立等の博物館等において、資料の収集・保存・管理、展示、調査研究、教育・普及活動等の専門的業務に従事する。
- 2) 学芸員の資格を取得するには、博物館法施行規則の定める科目（①表）19単位、併せて教育学部の定める科目（②表）、工学部の定める科目（③表）ならびに農学部の定める科目（④表）について2科目区分以上にわたる8単位以上を修得しなければならない。  
 ②表～④表の科目については、所属学部のもを受講することを原則とする。なお、工学部及び農学部の学生で、文化史、美術史の科目区分の単位修得を希望する場合については、他学部受講の手続きの上、受講することができる。
- 3) 博物館実習は、「博物館実習履修要項」により実施する。なお、博物館実習を履修するためには、原則、次の2つの条件を満たしていなければならない。
  - ・①表の科目のうち、博物館実習を除く科目の単位の12単位以上を、修得しているか修得見込みであること。
  - ・②表～④表の科目のうち、2科目区分以上にわたる科目の4単位以上を、修得しているか修得見込みであること。
- 4) 所定の単位を修得した者には、卒業後、願い出により「学芸員に関する科目の単位修得証明書」を交付する。

①表 博物館法施行規則の定める科目

博物館法施行規則が定める科目 ( )内は単位数	宮崎大学の授業科目	単位数	配当学年
生涯学習概論(2)	生涯学習論	2	2年前学期
博物館概論(2)	博物館概論	2	2年前学期
博物館経営論(2)	博物館経営論	2	3年前学期
博物館資料論(2)	博物館資料論	2	3年集中
博物館資料保存論(2)	博物館資料保存論	2	3年集中
博物館展示論(2)	博物館に学ぶ「モノの見方と見せ方」	2	2年後学期
博物館教育論(2)	「人生の各ステージにおける学び」と博物館	2	2年後学期
博物館情報・メディア論(2)	博物館情報・メディア論	2	2年集中
博物館実習(3)	博物館実習Ⅰ	2	4年通年
	博物館実習Ⅱ	1	4年通年
単 位 計		19	

注)「生涯学習論」、「博物館概論」、「博物館に学ぶモノの見方と見せ方」、「人生の各ステージにおける学びと博物館」は教養教育科目。そのうち、「博物館に学ぶモノの見方と見せ方」、「人生の各ステージにおける学びと博物館」は、1年後期でも受講できるが、資格取得を希望する者は、2年前学期に「博物館概論」を受講した後に、上記①表のとおり2年後学期に受講することが望ましい。

②表 教育学部の定める科目

科目区分	教育学部の授業科目	単位
文 化 史	日本史概論	2
	日本史特論	2
	外国史概論	2
美 術 史	美術鑑賞基礎(鑑賞、日本の伝統美術、アジアの美術を含む)	2
	美術理論Ⅱ	2
	美術理論Ⅲ	2
物 理 学	物理学概論Ⅰ	2
	物理学概論Ⅱ	2
化 学	化学概論Ⅰ	2
	化学概論Ⅱ	2
生 物 学	生物学概論Ⅰ	2
	生物学概論Ⅱ	2
地 学	地学概論Ⅰ	2
	地学概論Ⅱ	2

注1) 配当学年については学科等で異なるものがあるので、各自確認の上、受講すること。

③表 工学部の定める科目

科目区分	工学部の授業科目	単位数
物 理 学	物理科学Ⅱ	2
	物理科学Ⅰ	2
	力学Ⅰ	2
	力学Ⅱ	2

物 理 学	電磁気学 I	3
	統計力学	2
	量子力学	2
	放射線物理学	2
化 学	化学概論	2
	物理化学 I	2
	有機化学基礎	2
	無機化学基礎	2
	分析化学	2
生 物 学	生物学概論※	2
	生命化学 I	2
	分子生物学	2
地 学	地学概論※	2
	宇宙物理学	2

注1) 科目名の横に※があるものは、教育職員免許状取得のために開講している科目。

注2) 配当学年についてはプログラム等で異なるものがあるので、各自確認の上、受講すること。

④表 農学部のでめる科目

科 目 区 分	農 学 部 の 授 業 科 目	単 位
物 理 学	物理学概論 ※	2
	物理化学	2
化 学	基礎化学	2
	畜産草地科学基礎化学	2
	分析化学	2
	無機化学	2
	有機化学	2
	生物化学 I	2
生 物 学	基礎植物学	2
	基礎動物学	2
	基礎微生物学	2
	昆虫生態学	2
	基礎生態学	2
地 学	地学概論 ※	2
	土壌肥科学	2

注1) 科目名の横に※があるものは、教育職員免許状取得のために開講している科目。

注2) 配当学年については学科等で異なるものがあるので、各自確認の上、受講すること。

【博物館実習履修要項】

博物館実習は次により実施する。

授業科目	学期		計	実習内容
	前	後		
博物館実習 I	2 (通年・集中)		2	学内実習(実習 II に必要な基礎的知識や技術に関する実習)および実習の事前・事後指導
博物館実習 II	1 (通年・集中)		1	登録博物館等での実務実習。実習時期は受入博物館等の定めるところによる。

(1) 実習 II を履修しようとする者は、実習を希望する前年度(一般に3年生)の12月～1月上旬に開催される実習説明会に出席の上、出身都道府県を基本として、登録博物館あるいは博物館相当施設に実習の受入依頼をしておくこと。

(2) 「博物館実習受講願い」を、実習を希望する年の1月下旬(提出期限は年度ごとに別途掲示する)までに所属学部の教務・学生支援係に提出すること。

(3) 博物館実習 I ・ II の受講科目の登録は4年前期で行うこと。

(4) 実習 II の成績評価は、学芸員資格専門委員会で行う。

(5) 実習 II に必要な教材等は受講生が各自準備することを原則とする。

(6) 実習 II に必要な費用は個人負担とする。

### (3) 食品衛生監視員及び食品衛生管理者資格取得について

1) 食品衛生監視員とは、国や地方公共団体において、企業等に対し、食品衛生に関する監視や指導の業務を行う者である。また、食品衛生管理者とは、特に衛生上の考慮を必要とする乳製品やその他の食品又は添加物製造や加工について、その製造・加工施設において管理・指導を行う者である。

本学卒業後、国や地方公共団体の衛生部門、食品関連企業等に就職する者にとっては、これらの資格を取得することが有益である。

これらの資格を取得したい者（植物生産環境科学科、応用生物科学科、海洋生物環境学科、畜産草地科学科）は、卒業までに下記に示す必要な科目を履修すること。

資格申請については、厚生労働省のホームページを参照し、各自で申請願います。

★注意事項：入学前に他大学等で修得した単位（食品衛生監視員及び食品衛生管理者の養成施設で修得した単位は除く）で、既修得単位として読み替えられた単位については、本資格取得には使用できません。

#### ●植物生産環境科学科

区 分	授 業 科 目 名	配当年次	配当単位数	必修単位数
A群 化学	分析化学	3 前	2	2
	畜産草地科学基礎化学	1 後	2	2
	基礎化学	1 前	2	2
B群 生物化学	生物化学Ⅱ	3 後	2	2
	食品化学	3 前	2	2
	食品分析化学	4 後	2	2
C群 微生物学	基礎微生物学	1 後	2	2
	食品保蔵化学	3 後	2	2
	食品製造学	4 前	2	2
D群 公衆衛生学	公衆衛生学	3 前	2	2
	食品衛生学	3 前	2	2
E群 その他の関連科目	植物生理学	2 前	2	2
	果樹園芸生理学	2 後	2	2
	青果代謝生理学	3 前	2	2
	微生物機能開発学	3 後	2	2
	基礎遺伝学	1 前	2	2
	農産食品製造学	3 後	2	2
	食品工学	3 後	2	2
	園芸利用学	2 後	2	2
	栄養化学	4 前	2	2
必修単位数合計				40



●応用生物科学科

区 分	授 業 科 目 名	配当年次	配当単位数	必修単位数
A群 化学	分析化学	2 前	2	2
	有機化学	1 後	2	2
	無機化学	1 後	2	2
B群 生物化学	生物化学Ⅱ	2 後	2	2
	食品化学	2 前	2	2
	食品分析化学	2 後	2	2
C群 微生物学	基礎微生物学(応用生物科学)	1 後	2	2
	食品製造学	2 前	2	2
	食品保蔵化学	3 後	2	2
D群 公衆衛生学	公衆衛生学	3 前	2	2
	食品衛生学	3 前	2	2
E群 その他の関連科目	生物有機化学	2 前	2	左記の22単位のうちから18単位以上を修得すること。
	酵素化学	2 前	2	
	微生物化学	2 後	2	
	基礎遺伝学	1 前	2	
	栄養化学	3 前	2	
	微生物機能開発学	3 後	2	
	遺伝子工学	3 後	2	
	水産食品製造学	3 前	2	
	畜産食品製造学	3 前	2	
	農産食品製造学	3 後	2	
	食品工学	3 後	2	
必修単位数合計				40 以上

●海洋生物環境学科

区 分	授 業 科 目 名	配当年次	配当単位数	必修単位数
A群 化学	分析化学	3 前	2	2
	有機化学	4 後	2	2
	基礎化学	1 前	2	2
B群 生物化学	生物化学Ⅱ	4 後	2	2
	食品化学	3 前	2	2
	食品分析化学	3 後	2	2
C群 微生物学	基礎微生物学	1 後	2	2
	食品保蔵化学	4 後	2	2
	食品製造学	4 前	2	2
D群 公衆衛生学	公衆衛生学	3 前	2	2
	食品衛生学	3 前	2	2
E群 その他の関連科目	水産化学	2 後	2	2
	基礎増養殖学	2 前	2	2
	海洋代謝生化学	3 前	2	2
	魚類生理学	2 前	2	2
	水域生物生理学	1 後	2	2
	水族病原微生物学	3 前	2	2
	基礎遺伝学	1 前	2	2
	水産食品科学	1 前	2	2
	水産食品製造学	4 前	2	2
必修単位数合計				40

●畜産草地科学科

区 分	授 業 科 目 名	配当年次	配当単位数	必修単位数
A群 化学	分析化学	2 前	2	2
	畜産草地科学基礎化学	1 後	2	2
	基礎化学	1 前	2	2
B群 生物化学	生物化学Ⅱ	2 後	2	2
	食品化学	2 前	2	2
	食品分析化学	3 後	2	2
C群 微生物学	基礎微生物学	1 後	2	2
	食品保蔵化学	3 後	2	2
	食品製造学	2 前	2	2
D群 公衆衛生学	公衆衛生学	3 前	2	2
	食品衛生学	3 前	2	2
E群 その他の関連科目	畜産食品科学	2 後	2	2
	動物生理学Ⅰ	1 前	2	2
	植物生理学	2 前	2	2
	動物解剖学Ⅰ	3 前	2	2
	動物育種学	3 前	2	2
	家畜栄養学	2 前	2	2
	畜産食品製造学	3 前	2	2
	動物衛生疾病学	3 後	2	2
	基礎遺伝学	1 前	2	2
必修単位数合計				40

#### (4) 獣医師国家試験について

獣医師の資格を取得するためには、農林水産省が実施する獣医師国家試験に合格し、獣医師免許証の交付を受けなければなりません。この獣医師国家試験は毎年2月に福岡県を含む全国数カ所で実施されます。(実施時期に変更がある可能性があります。)

獣医師国家試験の施行に関する詳細は、農林水産省から発表された時点でお知らせしますが、出願手続等必要な事項については、毎年10月から11月にかけて6年生を対象として説明会を開催します。

##### ◎獣医師免許申請時の注意事項

獣医師法第5条で、罰金以上の刑(科料は含まれない)に処された者には、「免許を与えないことがある」と定められています。該当する事例には、罰金の対象となるスピード違反、飲酒・酒気帯び運転、無免許運転及び人身事故を起こした場合等が含まれます。

罰金以上の刑に処された者は、獣医師免許申請の際に、その旨を記載するとともに、起訴状、判決謄本、罰金を納めた領収書、本人の上申書及び反省文の提出が必要になります。

以上のことを理解し、日ごろから安全運転に心がけることは当然ですが、万一上述のような違反・事故等を起こした場合は、速やかに教務・学生支援係へ報告してください。

#### 獣医師国家試験および取得までの主なスケジュール(注1)

学年	時期	行事内容	注意事項
1~3	4月	新入生及び在学生オリエンテーション	
4	2~3月	獣医学共用試験	注2
5	4~3月	卒業論文着手 参加型臨床実習(伴侶動物、産業動物)	注3 注4
6	9月   11月	国家試験日程発表 国家試験願書、免許申請手続等書類注文 卒業論文審査会	任意
	2月 3月	卒業見込証明発行 国家試験受験 国家試験合格発表及び発行申請手続き 卒業式	
卒業後	4月	獣医師免許証交付	

注1：2023年度現在のスケジュールであり、今後変更の可能性もあります。

注2：獣医学共用試験は、獣医学の参加型臨床実習開始前の学生の知識と技能を全国で標準化して評価する試験であり、平成28年度(2016年度)から正式実施となりました。NPO法人獣医系大学間獣医学教育支援機構が管理していますが、実際の試験は各獣医系大学がそれぞれのカリキュラムに合わせて自主的に実施し、評価結果の活用方法も各大学に任されています。この獣医学共用試験は、主として知識を評価するvetCBT(Computer-Based-Testing)と、技能・態度を評価する客観的臨床能力試験vetOSCE(Objective Structured Clinical Examination)とに分かれています。本試験を受験するためには受験料が必要となります(追

再試験を受験する場合にも、受験料が必要です)。

獣医学科では、5年次から始まる伴侶動物及び産業動物参加型臨床実習の受講のために、この共用試験に合格していることが必要です。

注3：卒業論文に取り掛かる要件は、宮崎大学農学部専門科目の受講に係る要件等に関する要項第2条を参照すること。

注4：参加型臨床実習の各科目の受講要件は、宮崎大学農学部専門科目の受講に係る要件等に関する要項第3条を参照すること。

### (5) 測量士補資格取得について

技術者として基本測量又は公共測量に従事する場合は、国家資格である測量士又は測量士補の資格を有した者でなければならない。森林緑地環境科学科において測量士補の資格を取得したい者は、卒業までに下表の「測量士補」に関する履修科目の中から 30 単位以上（ただし、測量学、測量学実習の単位は必ず修得すること）を修得することで国土地理院に申請することができる。また、卒業後、1 年以上の測量実務経験を得たものは、申請により測量士の資格を得ることができる。

表 測量士補の資格取得に関して修得すべき授業科目一覧表

区分	授業科目名	開講年次	単位数	備考
必修科目	測量学	2－前	2	
	測量学実習	2－前	1	
選択科目	基礎数学(森林緑地環境科学)	1－前	2	左記の 39 単位の中から 27 単位以上を修得すること。
	基礎物理学(森林緑地環境科学)	1－後	2	
	森林生態学	2－前	2	
	水文・気象学	2－前	2	
	森林計測学	2－前	2	
	環境リモートセンシング概論	2－前	2	
	構造力学	2－後	2	
	森林緑地空間情報学	2－後	2	
	森林計測学実習	2－後	1	
	砂防学	2－後	2	
	森林計画学	3－前	2	
	水理学	3－前	2	
	土質力学	3－前	2	
	土壌物理学	3－前	2	
	応用力学・水理学	3－後	2	
	水資源管理学	3－後	2	
	農山村環境計画学	3－前	2	
	植生立地学	3－後	2	
森林計画学実習	3－後	1		
国土管理保全学	2－後	2		
森林土木学実習	3－後	1		
修得単位数合計			30 単位以上	

## (6) 自然再生士補資格取得について

- 1) 「自然再生士」とは、自然再生に必要な知識・技術・経験を有する、自然再生の推進者です。自然再生士には、自然再生に係る事業全体を把握し、調査・計画・設計・施工・管理の、各々の事業段階において行われるべき業務や活動において、これに係わる人々をコーディネートするとともに、自ら担当する自然再生を実行できる能力が求められます。自然再生士の資格試験を受験するためには、自然再生に係る業務経験が3年以上必要となりますが、自然再生士補の資格を取得した者は自然再生に係る業務を1年間経験すると自然再生士の資格試験受験資格を得ることができます。
- 2) 植物生産環境科学科と森林緑地環境科学科では下記各学科の分野別対応表の科目の単位を次の①、②のいずれかのとおりに修得すると資格の申請ができます。
- ①：講義科目分野から2科目4単位以上、実験実習科目分野から3科目6単位以上取得
- ②：講義科目分野又は実験実習科目分野から6科目12単位以上取得
- 資格申請については、一般財団法人日本緑化センターのホームページを参照し、各自で申請願います。

### ●分野別科目対応表

#### 植物生産環境科学科

	指定分野	科目	単位数
講義分野	①自然再生・自然環境概論		
	②自然再生・自然環境保全に係る計画（設計）学		
	③自然再生・自然環境保全に係る施工計画・施工学		
	④自然再生・自然環境保全に係る維持管理計画・管理学		
	⑤植物（草本類、木本類、水生植物等）分類・生態・生理学	基礎植物学 基礎生態学 植物生理学 植物病理学総論 植物病理学各論 樹木生態生理学	2 2 2 2 2 2
	⑥動物（哺乳類、は虫類、両生類、昆虫、鳥類、魚類等）分類・生態・生理学	昆虫生態学 総合的害虫管理学	2 2
	⑦環境リスクマネジメント学		
	⑧環境経済学	基礎環境資源経済学	2
	⑨環境社会学		
	⑩地域環境学・地域生態論		
	⑪環境関連法規		
実験・実習（演習）分野	①自然環境調査と分析、評価に係る実習・演習		
	②動・植物同定調査に係る実習・演習（森林動物学実習、森林昆虫学実習を含む）	植物生産科学実験Ⅰ 植物生産科学実験Ⅱ	1 1
	③地域環境資源調査に係る実習・演習	農業・社会調査実習	1
	④自然環境保全活動に係る実習・演習		
	⑤生態学実習・演習		
	⑥プレゼンテーション・コーディネート能力育成に係る実習		

森林緑地環境科学科

	指定分野	科目	単位数
講義分野	①自然再生・自然環境概論	森林緑地環境科学概論	2
	②自然再生・自然環境保全に係る計画（設計）学	森林計測学	2
		森林計画学	2
		農山村環境計画学	2
	③自然再生・自然環境保全に係わる施工計画・施工学	砂防学	2
		環境材料学	2
	④自然再生・自然環境保全に係わる維持管理計画・管理学	植生立地学	2
		景観生態学	2
	⑤植物（草本類、木本類、水生植物等）分類・生態・生理学	基礎植物学	2
		基礎生態学	2
		植物病理学総論	2
植物病理学各論		2	
樹木学		2	
森林生態学		2	
⑥動物（哺乳類、は虫類、両生類、昆虫、鳥類、魚類等）分類・生態・生理学	樹木生態生理学	2	
	昆虫生態学	2	
	総合的害虫管理学	2	
⑦環境リスクマネジメント学	森林保護学	2	
	環境計測学	2	
⑧環境経済学	環境計測学	2	
	森林経済学	2	
⑨環境社会学	基礎環境資源経済学	2	
	森林政策学	2	
⑩地域環境学・地域生態論	環境リモートセンシング概論	2	
⑪環境関連法規			
実験・実習（演習）分野	①自然環境調査と分析、評価に係る実習・演習	森林緑地フィールド実習Ⅰ	1
		森林計測学実習	1
	②動・植物同定調査に係る実習・演習 （森林動物学実習、森林昆虫学実習を含む）	樹木学実習	1
		森林緑地フィールド実習Ⅱ	1
	③地域環境資源調査に係る実習・演習		
	④自然環境保全活動に係る実習・演習	森林計画学実習	1
⑤生態学実習・演習	植生調査実習	1	
⑥プレゼンテーション・コーディネート能力育成に係る実習			

## (7) 樹木医補資格取得について

- 1) 樹木医とは、樹木の診断及び治療、後継樹の保護育成並びに樹木保護に関する知識の普及及び指導を行う専門家です。樹木医になるには樹木医研修を受講して、樹木医資格審査に合格しなければなりません。この樹木医の審査を受けるには、樹木の保護、樹勢回復・治療に関する研究又は実務の従事期間が7年以上必要となりますが、樹木医補の資格を取得した者は樹木の保護等の業務を1年間経験すると樹木医研修受講者応募資格を得ることができます。
- 2) 樹木医補資格を取得するためには、下表の科目を次のように取得すると申請ができます。講義科目は、講義分野9分野から6分野以上を選び、14単位の履修が必要です。実験・実習科目は、4分野4科目以上の履修が必要です。資格申請については、一般財団法人日本緑化センターのホームページを参照し、各自で申請願います。

別表

分野別の科目対応表

		宮崎大学	
		講義科目	実験・実習科目
分野	樹木の分類	樹木学②	樹木学実習①
	樹木の生態・生理	森林生態学② 樹木生態生理学② 造林学②	造林学実験実習①
	立地・土壌	植生立地学② 土壌肥料学②	森林緑地フィールド実習Ⅱ①
	植物病理	植物病理学総論② 植物病理学各論②	
	昆虫・動物	昆虫生態学②	
	樹木医学一般		
	農薬科学	総合的害虫管理学②	
	造園学一般	景観生態学②	森林計測学実習①
	樹木医補総合		森林緑地フィールド実習Ⅰ①



## (8) 森林情報士 2 級資格取得について

- 1) 森林情報士制度は、空中写真やリモートセンシングからの情報の解析技術、GIS 技術等を用いて森林計画、治山、林道等、さらには地球温暖化問題解析などの事業分野に的確に対応できる専門技術者の養成を目的とした資格認定制度です。資格には、森林航測、森林リモートセンシング、森林 GIS の 3 つの部門があります。
- 2) 本学では、下表の科目を次のように取得すると、森林リモートセンシング部門および森林 GIS 部門の資格が申請できます。
 

A 群は、2 分野以上から講義科目 8 単位以上、実習科目 4 単位以上の履修が必要です。

B 群は、各部門について講義科目と実習科目の合計 1.5 単位以上の履修が必要です。

ただし、上記単位を履修した上で、次のいずれかの要件を満たす必要があります。

  - ①卒業後 5 年以内に当該団体の主催する事前学習および 2 日間の森林情報士 2 級実習セミナーに受講し合格すること。
  - ②卒業後 5 年以内に当該森林情報士部門関係に直接に関わる実務を 1 年以上経験し、本会主催の事前学習、レポート試験審査に合格すること。
  - ③資格を得ようとする部門に係わる卒業論文で必要な単位(1.5 単位相当)を取得すること。

資格申請については、一般社団法人日本森林技術協会のホームページを参照し、各自で申請願います。

別表

A 群（森林学一般科目）の分野別の科目対応表

分野	宮崎大学	
	講義科目	実習（演習）科目
管理・経営	森林計画学② 森林経済学②	森林計測学実習①
育成・利用	造林学②	森林緑地フィールド実習Ⅰ① 造林学実験実習①
生態・保護	樹木学② 森林生態学②	樹木学実習① 植生調査実習①
水土保持	水文・気象学② 砂防学②	森林緑地フィールド実習Ⅱ①

B 群（森林情報士部門別関係群科目）の分野別の科目対応表

部門	宮崎大学	
	講義科目	実習（演習）科目
森林リモートセンシング	森林計測学 (0.3 単位相当) 環境リモートセンシング概論 (0.9 単位相当) 森林緑地空間情報学 (0.8 単位相当)	環境リモートセンシング概論 (0.5 単位相当) 森林緑地空間情報学 (0.3 単位相当)
森林 GIS	森林計測学 (0.1 単位相当) 環境リモートセンシング概論 (0.3 単位相当) 水資源管理学 (0.4 単位相当) 植生立地学 (0.3 単位相当) 森林緑地空間情報学 (0.3 単位相当)	水資源管理学 (0.3 単位相当) 森林計画学実習 (0.8 単位相当)

### (9) 実験動物一級技術者の在学受験資格について

1) 薬剤、栄養物質、環境汚染物質などの化学物質、それらの人体への影響を評価するのに動物実験は欠かせません。動物実験を適正に実施するのに必要な高度技術を備えた専門家、それが実験動物一級技術者です。畜産草地科学科では、下表に示した所定の科目を履修すれば、4年次に一級技術者の試験を受けることができます。学科および実地の両試験に合格した者は、認定登録申請により実験動物一級技術者の資格を得ることができます。

2) 修得すべき授業科目について

授業科目名	単位数
講義	
実験動物学	2
動物解剖学 I	2
動物解剖学 II	2
動物生理学 I	2
動物生理学 II	2
動物育種学	2
動物生殖生理学	2
動物生殖制御学	2
薬理学 I	2
毒性学	2
家畜栄養学	2
動物環境管理学	2
動物衛生学	2
動物衛生疾病学	2
基礎動物学	2
実験動物学各論	1
実習	
動物解剖学実習	1
家畜栄養学実験	1
動物生殖生理学実験	1
実験動物学実習	1

## (10) 飼料製造管理者資格の有資格者取得について

- 1) 飼料製造管理者制度は、「飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律」に基づき、特別の注意を必要とする飼料等（落花生油かす・尿素・ジウレイドイソブタンを原料とする飼料，抗菌性物質製剤を含む飼料，飼料添加物）を製造する際に，その飼料等の製造を実地に管理するため，その事業場ごとに法令に定められた資格を有する飼料製造管理者を設置する制度です。
- 2) 以下の対応表の授業科目（12科目）のうち11科目を履修し，畜産草地科学科を卒業した者は，飼料製造管理者の有資格者となります。上記1)の特別の注意を必要とする飼料等を製造する事業場（飼料会社や会社組織の牧場等）に就職し，飼料製造管理者が設置される場合に，卒業証明書又は成績証明書の写し，履歴書および製造業者との雇用証明書を，飼料製造管理者届けとともに農林水産大臣宛てに提出する必要があります。ただし，資格を証明するための免許（ライセンス）や個人に対しての証明書の発行等はありません。

対応表

指定科目区分	授業科目	必修/選択	単位数
家畜育種学	動物育種学	必修	2
家畜品種論	動物育種資源学	選択	2
家畜繁殖学	動物生殖生理学	必修	2
家畜栄養学	家畜栄養学	必修	2
飼料学	飼料学	選択	2
家畜管理学	動物環境管理学	必修	2
家畜解剖学又は組織学	動物解剖学Ⅰ	選択	2
家畜生理学又は生化学	動物生理学Ⅰ	選択	2
畜産物利用学	畜産食品科学	必修	2
草地利用学	草地植生管理学	選択	2
家畜衛生学	動物衛生学	選択	2
畜産学汎論	畜産草地科学概論	必修	2

※必修・選択の別は畜産草地科学科のカリキュラム上での分類を示す。

## (11)International GAP(国際的適正農業規範)対応の食料管理専門技術者養成教育について

- 1) 本教育プログラムは、国際標準の適正農業規範（GAP）にもとづいて、農業生産現場から農産物の流通・加工・小売までの工程における農場管理と販売管理、食の安全、環境保全型農業、労働安全について理解することにより、専門性の高い食料管理専門技術者の養成を目的としている。  
本教育プログラムに関する科目の単位を修得することで、卒業時に本教育プログラムの修了証明書を受けることができる。農業および食品関連企業等に就職する者にとっては、本教育プログラムを修了することが有益である。
- 2) 食料管理専門技術者養成教育の受講および修了基準について
  - (1) ①表にある GAP コア科目については、各科目区分の最低修得単位数以上を取得すること。
  - (2) ②表にある GAP 関連科目は、各科目区分にわたって幅広く履修することが望ましい。
  - (3) 講義形式等の都合により、受講者数を制限することがある。
  - (4) 受講するにあたり、交通費等の一部自己負担が発生する場合がある。

### ① GAP コア科目（必修科目）

科目区分	最低修得単位数	科目名
GAP 概論	4	植物生産環境科学概論(2)・GAP 概論(2)
GAP 模擬実習	2	植物生産環境科学基礎実験・実習 I (1)および植物生産環境科学基礎実験・実習 II (1)
インターンシップ および GAP 認証農場等での実習	2	農場実習 I (1)、農場実習 II (1)、スマート農業インターンシップ(1)、学外体験実習※(2)、企画実習(1)、グローバルアグリ体験講座(2)、フィールド実践実習(2)
GAP 指導員講座	1	GAP 指導員講座(1)
農業技術者倫理	1	農業技術者倫理(1)
専門英語	2	専門英語※(2)
卒業論文	6	卒業論文※(6)

※印の科目については植物生産環境科学科のものを取得すること。

### ② GAP 関連科目（選択科目）

科目区分	科目名
食の安全と品質向上に関する科目	栽培学(2)、植物生理学(2)、植物病理学総論(2)、作物学総論(2)、野菜園芸学(2)、野菜園芸学各論(2)、園芸利用学(2)、果樹園芸生理学(2)、作物生産学(2)、青果代謝生理学(2)、施設園芸学(2)、果樹園芸学各論(2)、生産流通施設学(2)、生物生産システム工学(2)、花き園芸生理学(2)、植物生産とデータサイエンス(2)
生産環境保全に関する科目	農地環境工学(2)、果樹園芸学総論(2)、栽培植物起源論(2)、昆虫生態学(2)、植物生産科学実験 I (1)、植物生産科学実験 II (1)、植物病理学各論(2)、総合的害虫管理学(2)、土壌肥料学(2)
労働安全に関する科目	農業動力機械学(2)、雑草防除学(2)、生物応用力学(2)、植物生産データエンジニアリング(1)、生物生産機械学(2)、生物計測工学(2)、
農場運営と販売管理に関する科目	生物情報処理学(2)、農業経済学(2)、社会統計学(2)、農業・社会調査実習(1)、農業経営学(2)、農業政策論(2)、国際農業論(2)、農産物流通論(2)

## (12) 産業動物コンサルタント育成プログラムについて

### 1) 産業動物コンサルタント育成プログラムおよび本プログラムの修了認定について

本プログラムは、畜産・酪農の生産拡大、生産性の向上を図るために、畜産物の生産・流通・販売までをトータルにコンサルタントできる人材、産業動物に関わる産業界へ多角的な視野を有する人材を輩出することを目的とし、畜産草地科学科の3、4年次生に対して開講する。

本プログラムでは、わが国の畜産業を取り巻く課題の中で、低い飼料自給率、食の安全を揺るがす事態、家畜疾病の続発、野草地放牧の衰退による荒廃、就農者の高齢化および輸入畜産物との競合を重視し、これらを解決し持続的な畜産業の発展に寄与できる人材を育成するものであり、特に現場を重視したインターンシップや各種の実習・演習を主体に、コンサルタントとしての知識や素養を身につけさせる特色ある実践的な教育に取り組むものである。本プログラムのカリキュラム編成の特徴として、卒業論文に代えて、一定期間の現場実習を課し、そこから抽出される問題点を整理し、経営分析報告書を作成させる「卒業研修」を必修とすることが挙げられる。

本教育に関する科目の単位を修得することで、本教育の修了証明書を受けることができる。産業動物に関連する公私企業への就職を志望する者にとって、本プログラムを修了することが有益と考えられる。

### 2) 産業動物コンサルタント育成プログラムの受講および修了基準について

(1) 表にある科目をすべて受講すること。

(2) ②表にある飼料製造管理者資格および家畜人工授精師の資格取得のための科目を受講することが望ましい。

(3) 実習設備等の都合により、受講者数を制限することがある。

(4) 受講するに当たり、食費、宿泊費等の実費について、一部自己負担がある。

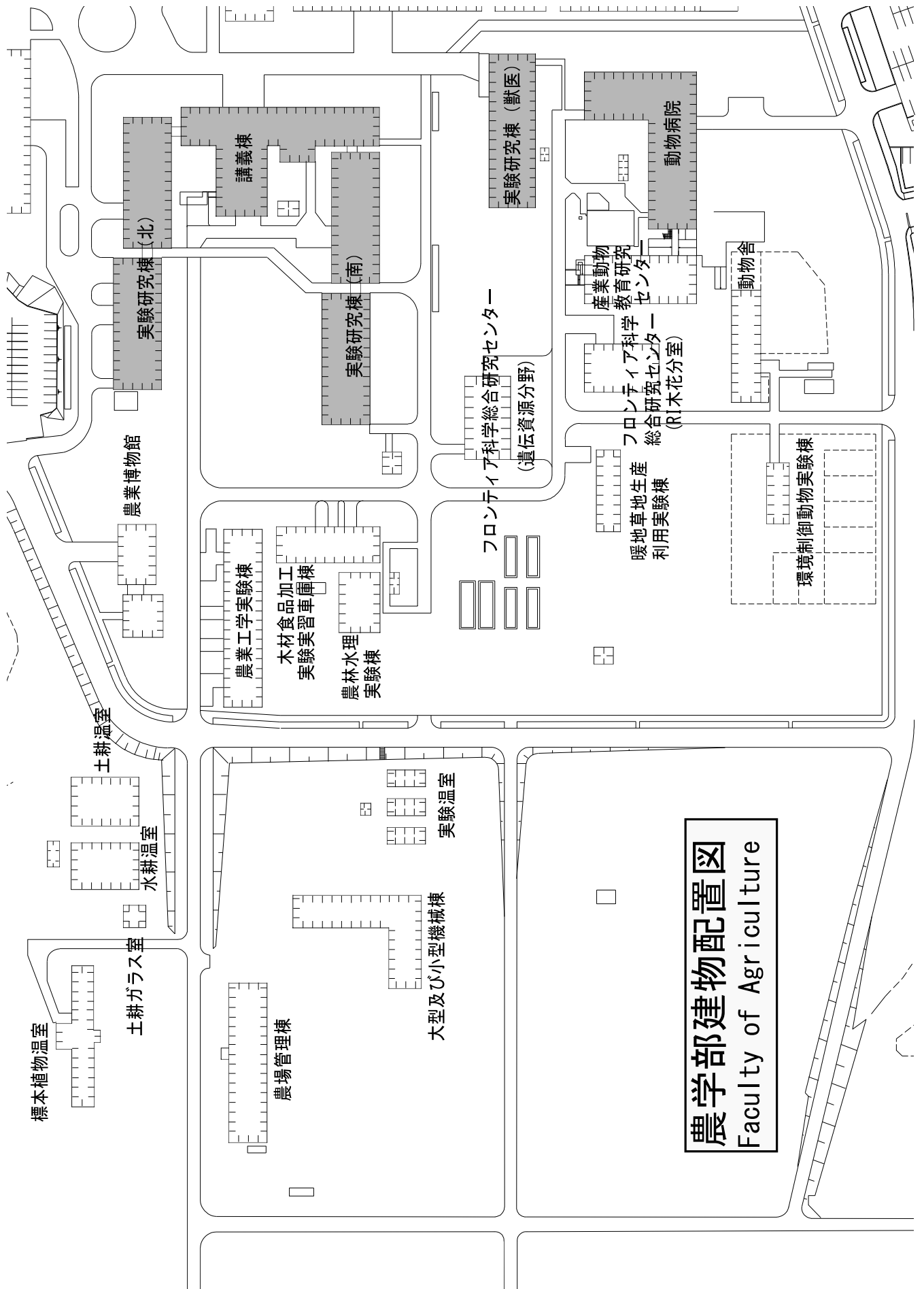
(5) 卒業論文ではなく、卒業研修を修得すること。

#### ① 産業動物コンサルタント育成プログラム科目

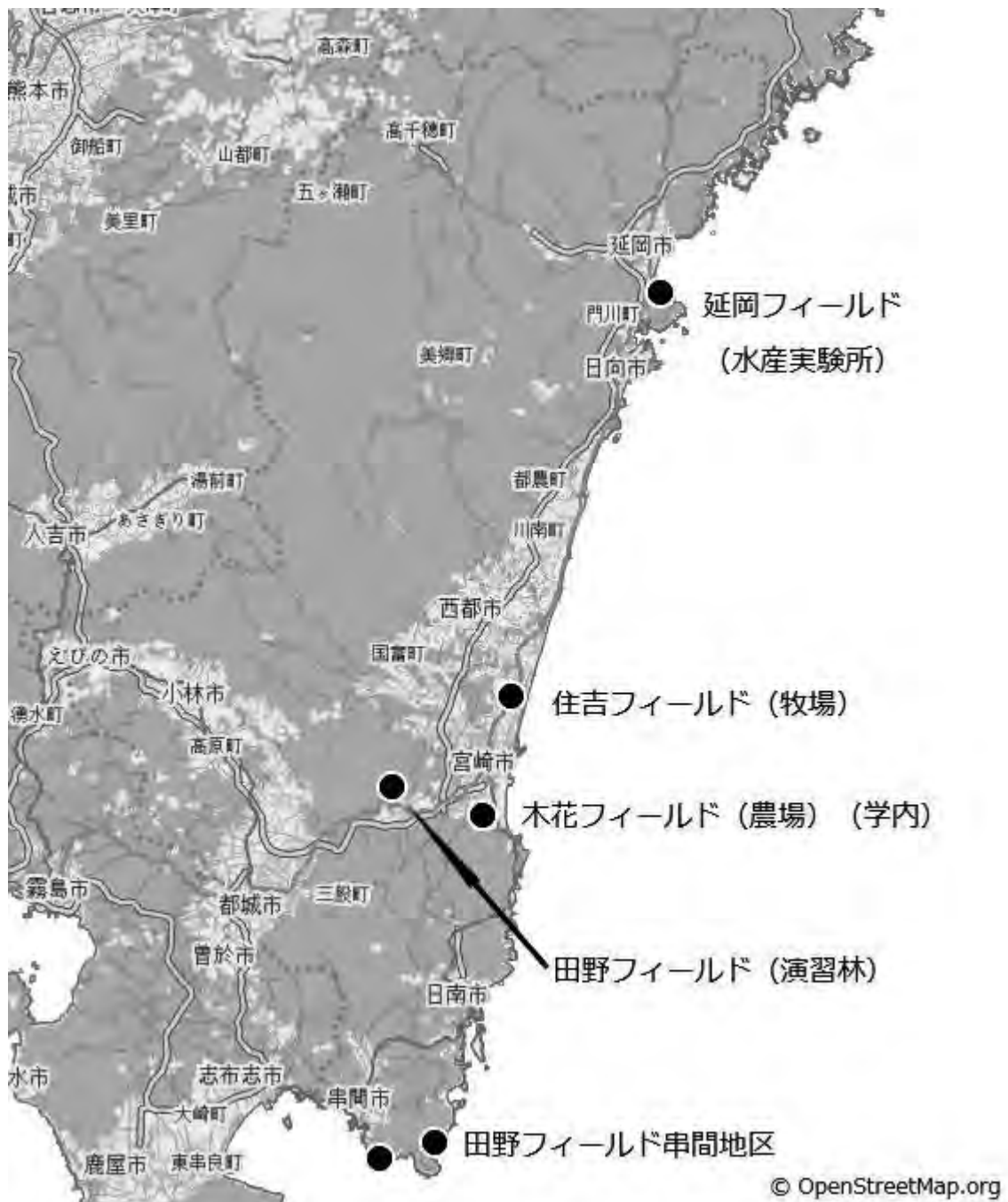
授業科目	単位数	備考
学外体験実習	2	必修
草地・飼料作物管理・評価実習	1	必修
畜産簿記学	1	必修
産業動物経営学	1	必修
産業動物情報解析演習	1	必修
家畜飼養管理学	2	必修
市場動態調査実習	1	必修
家畜登録審査実習	1	必修
卒業研修	6	必修

#### ② 飼料製造管理者資格および家畜人工授精師の資格取得のための科目

資格	授業科目 (単位数)
飼料製造管理者資格	動物育種学 (2), 動物育種資源学 (2), 動物生殖生理学 (2), 家畜栄養学 (2), 飼料学 (2), 動物環境管理学 (2), 動物解剖学 I (2), 動物生理学 I (2), 畜産食品科学 (2), 草地植生管理学 (2), 動物衛生学 (2), 畜産草地科学概論 (2)
家畜人工授精師	畜産草地科学序説 (2), 家畜栄養学 (2), 牧場実習 I (1), 動物環境管理学 (2), 動物生殖生理学 (2), 動物生殖制御学 (2), 動物育種学 (2), 動物生殖生理学実験 (1), 動物解剖学実習 (1), 動物解剖学 II (2), 牧場実習 II (1)



# 農学部附属フィールド科学教育研究センター配置図



# 農学部教員一覽表

学部長 國武 久登

副学部長（教務担当） 竹下 稔

学外からの電話：（0985）58－（内線番号）

学科	職階	氏 名	内線番号
植物生産環境科学科	教授	山本直之	7173
	教授	鉄村琢哉	7162
	教授	湯浅高志	7158
	教授	竹下稔	7169
	教授	圖師一文	7174
	准教授	槐島芳徳	7247
	准教授	木下統	7242
	准教授	狩野秀之	7172
	准教授	稲葉丈人	7899
	准教授	本勝千歳	7988
	准教授	増田順一郎	7187
	准教授	稲葉靖子	7164
	准教授	安達鉄矢	7547
	助教	日吉健二	7245
	助教	霧村雅昭	7576
	森林緑地環境科学科	教授	清水收
教授		伊藤哲	7178
教授		藤掛一郎	7189
教授		多炭雅博	7991
教授		雉子谷佳男	7180
教授		光田靖	7183
准教授		中園健文	7240
准教授		竹下伸一	7236
准教授		櫻井倫	7184
准教授		篠原慶規	7939
准教授		平田令子	7177
准教授		徳本雄史	7865
助教		津山濯	7190

学科	職階	氏 名	内線番号	
応用生物科学科	教授	國武久登	7166	
	教授	吉田ナオト	7218	
	教授	榊原陽一	7211	
	教授	佐伯雄一	7206	
	教授	河原聡	7204	
	教授	山崎正夫	7209	
	教授	引間順一	7230	
	教授	服部秀美	7255	
	准教授	江藤望	7210	
	准教授	仲西友紀	7203	
	准教授	井上謙吾	7798	
	准教授	河野智哉	7866	
	准教授	平野智也	7167	
	准教授	山本昭洋	7208	
	准教授	黒木勝久	7207	
	准教授	小川健二郎	7234	
	助教	清啓自	7217	
	助教	横山大悟	7212	
	海洋生物環境学科	教授	吉田照豊	7231
		教授	林雅弘	7225
		教授	田中竜介	7228
		教授	深見裕伸	7221
教授		長野直樹	7227	
教授		田岡洋介	7232	
准教授		ウルバンチク・ヘンリック・カロール	7226	
准教授		村瀬敦宣	TEL(0982)20-7230	
准教授		林康広	7582	
准教授		宮西弘	7223	
助教		西木一生	7229	
助教		和田葉子	7233	
畜産草地科学科		教授	石井康之	7251
	教授	續木靖浩	7195	
	教授	飛佐学	7260	
	教授	井戸田幸子	7249	
	教授	田中秀典	7194	
	教授	坂本信介	7200	
	教授	井上慶一	7864	
	准教授	石田孝史	7198	
	准教授	井口純	7507	
	准教授	高橋俊浩	7936	
	准教授	徳永忠昭	7199	
	准教授	安在弘樹	7253	
助教	新美光弘	7258		



学科	研究室名	職階	氏名	内線番号
獣医学科	獣医解剖学	教授	保田昌宏	7264
	獣医解剖学	准教授	脇谷晶一	7273
	獣医生理学	准教授	丸山圭介	7265
	獣医薬理学	教授	池田正浩	7268
	獣医薬理学	准教授	園田紘子	7269
	獣医病理学	教授	平井卓哉	7272
	獣医病理学	助教	福家直幸	7271
	産業動物衛生学	准教授	上村涼子	7283
	獣医微生物学	教授	岡林環樹	7575
	獣医微生物学	准教授	齊藤 暁	7275
	獣医公衆衛生学	教授	山田健太郎	7285
	産業動物臨床繁殖学	教授	大澤健司	7787
	産業動物臨床繁殖学	准教授	北原 豪	7655
	獣医臨床放射線学 産業動物内科学	教授	佐藤礼一郎	7280
	獣医臨床放射線学	准教授	佐藤裕之	7852
	獣医外科学	教授	日高勇一	7791
	獣医外科学	助教	井上賀之	7279
	獣医外科学	助教	黒田晃平	7281
	獣医内科学	准教授	大菅辰幸	7959
	獣医寄生虫病学	教授	吉田彩子	7276
	獣医寄生虫病学	准教授	入江隆夫	7119
	獣医機能生化学	助教	新井良和	7262
	産業動物伝染病防疫学	教授	関口 敏	7676
	獣医遺伝情報学	教授	新村芳人	7163
産業動物防疫学	准教授	目堅博久	7881	

所属	職階	氏名	内線番号 (又は電話番号)
附属施設	木花フィールド(農場)	教授	西脇亜也 7789
	木花フィールド(農場)	講師	松尾光弘 7579
	住吉フィールド(牧場)	准教授	小林郁雄 TEL 39-1034
	住吉フィールド(牧場)	准教授	石垣元気 TEL 39-1034
	田野フィールド(演習林)	教授	高木正博 TEL 86-0036
	延岡フィールド(水産実験所)	教授	内田勝久 TEL (0982) 37-0327
	動物病院	教授	永延清和 7278
	動物病院	准教授	金子泰之 7244
	農業博物館	教授	宇田津徹朗 7256

フロンティア科学実験 総合センター(木花)	助教	権藤崇裕	7168
--------------------------	----	------	------

事務部

部署	職名	内線番号 (又は電話番号)
	事務長	7149
	事務次長	7150
教務・学生支援係	教務支援担当係長	3834
	大学院・学生支援担当係長	7152
総務係	企画評価担当係長	7151
	総務担当係長	2875
フィールド科学教育 研究センター	フィールドセンター事務係長	7154
	フィールドセンター業務係	TEL 39-1034

